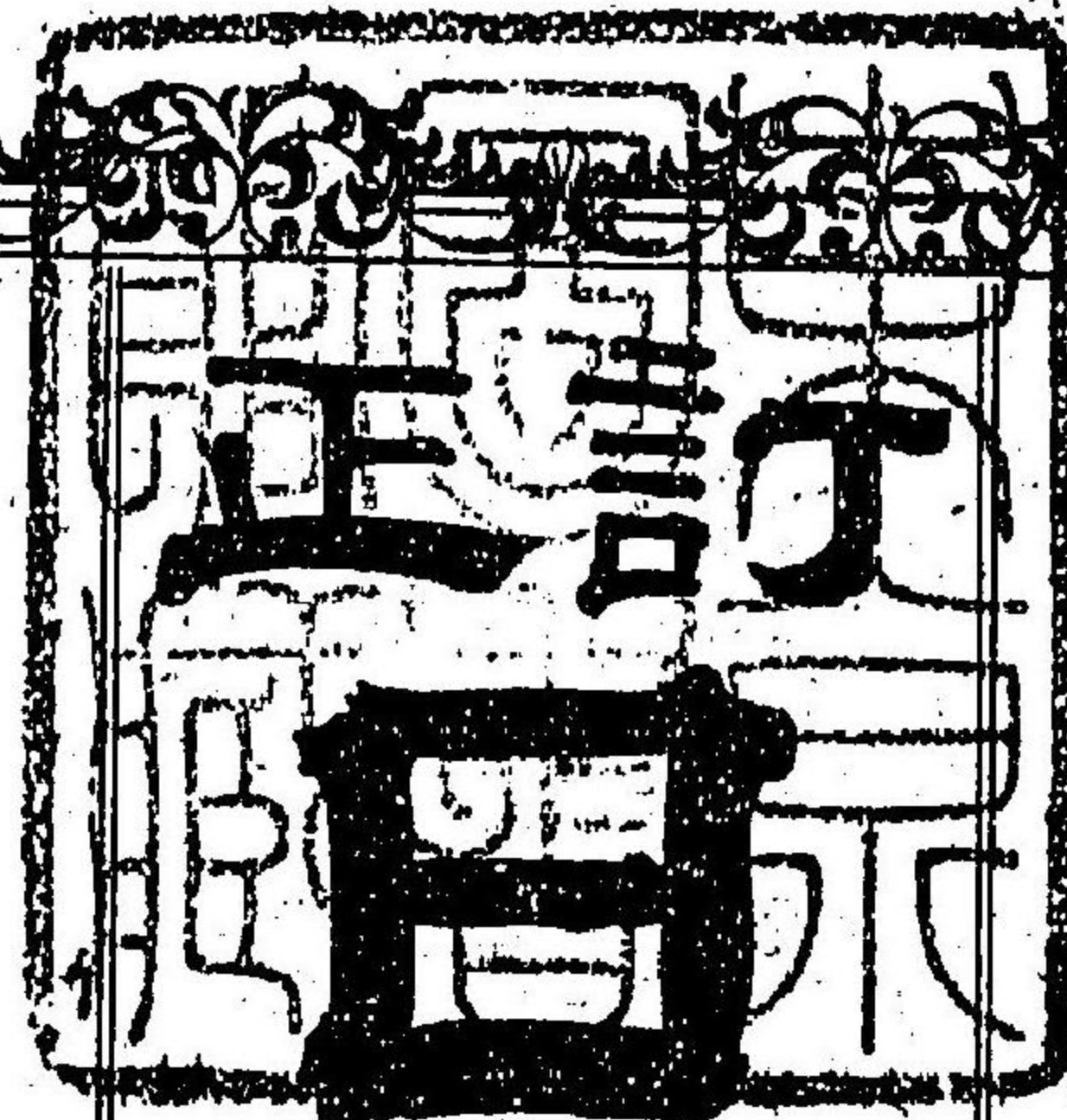


№ 21103/27

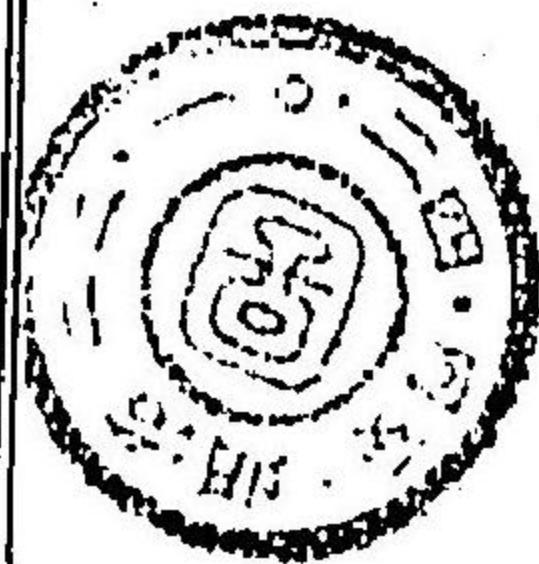
28
30
15



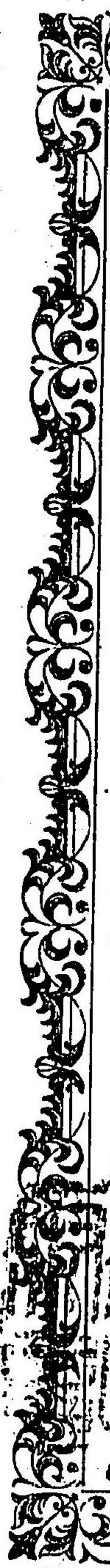
市岡正一編纂

日本類典

卷貳第



博聞社藏板



訂正 日本類典第二卷目次

○第五類

○第一章 行政警察 警察官吏 警察費

●行政警察沿革要領

第六十七 行政警察規則

- 〔一〕 憲兵職掌中行政警察事務規程
- 〔二〕 一般人民ニシテ巡查同様ノ働ヲナシ死傷セシ者吊祭扶助療治料支給方ヲ定ム
- 〔三〕 一般人民ニシテ自家ノ賊難ニ罹リ巡查同様ノ働ヲナシ死傷スル者吊祭扶助料等給否處分方
- 〔四〕 警察及監獄備員職務上死傷セシモノ吊祭扶助療治料支給及支辨方
- 〔五〕 警察上外國人取扱規則設施スヘキモノ稟議方
- 〔六〕 警察賞與規則
- 〔七〕 警察巡閱規則

●同指令

一七九 十全全

●警部警部補ニシテ職務上負傷者療治料支給ノ何指令 十 五

第六十八 警部巡查ノ等級ヲ廢シ俸給ヲ定ム 全 全

(一) 巡查召募方 全 全

(二) 巡查懲罰例改正 全 十 六

(三) 巡查看守給假規則 全 十 七

●何指令 巡查監守再勤ノ件ニ付何指令 十 七

第六十九 巡査ニ帶劔ヲ許ス 全 全

(一) 巡査帶劔心得 全 十 八

(二) 巡査帶劔心得ノ再達 全 十 八

第七十 警察官吏禮式 全 全

第七十一 巡查看守俸給支給規則 二 十 十

第七十二 巡查看守給助例 二 十 一

(一) 人員減等ニテ免職ノ者一時慰勞金支給方 二 十 四

(二) 巡查看守給助例第二條第一項勤續制注心得方 全 全

(三) 巡查看守給助例施行期限 全 全

(四) 巡查看守給助例中年金支給方 全 全

●何指令

●巡查看守給助金額ノ何指令 二 十 五

●巡查看守一時賜金及給助金ノ何指令 全 全

第七十三 警察官吏司獄官吏神官及等外吏雇員内國旅費概則 全 全

(一) 北海道廳警察官吏神官旅費 二 十 六

(二) 警察官吏持区内巡回日當支給方 二 十 九

(三) 警察官吏持区内巡回日當支給方 三 十 十

●何指令

●警部以下区内旅費額支給方ノ何指令 全 全

第七十四 變死ニ係ル屍ヲ警察官吏ニ於テ解剖檢査方 全 全

第七十五 警察費ニ對スル國庫下渡金改定 三 十 一

(一) 貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金ヲ地方税ニ編入シ警察機密費檢徴費ヲ地方税ヨリ支辨ス 全 全

(二) 警察署分署建築修繕費國庫下渡金地方税連帶支辨方 三 十 二

(三) 警察官吏並ニ之ニ準スル傭内外國人諸給與支辨方 全 全

〔四〕 囚人證人及無罪解放ノ者警察官吏ノ處分ニ依リ支給スヘキ旅費滯留日當仕拂方	三十二
〔五〕 警察上賞與等巡查以下へ給與ノ分國庫下渡金ト地方稅ト連帶支辨方	全
〔六〕 巡查並警察諸備等懲罰金巡查還納被服類及警察署用品賣却代金地方稅費へ仕拂方	全
〔七〕 警部長ニ屬スル俸給雜給支辨方	三十三
〔八〕 警察廳舍建築修繕費國庫金算出方	全
〔九〕 警察費國庫下渡金ノ殘餘翌年度ニ差繼方	全
〔十〕 警部給與ノ内俸給雜給ノ科目流用方	全
〔十一〕 警察費警察廳舍建築修繕費豫算原按額届出方	全
〔十二〕 警察費ノ内府縣下渡金交付方	三十六
〔十三〕 警察費並警察廳舍建築修繕費届出方	全
〔十四〕 警官練習所卒業生ニ係ル費用支辨方	全
〔十五〕 警察費ノ内地方稅連帶支辨金支出方及決算上殘金取扱ノ件	全
● 同指令	三十七
● 警部乘馬ノ節口附人旅費支出方ノ同指令	三十七

○ 第二章 警察上取締諸則	全
● 集會ニ係ル沿革要領	全
〔一〕 官吏公衆ニ對シ政事上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ叙述スルヲ得	三十八
第七十六 集會條例	全
第七十七 保安條例	四十一
● 銃砲取締規則沿革要領	四十二
第七十八 銃砲取締規則	四十五
〔一〕 銃砲取締規則違背ノ者處分方	四十八
〔二〕 銃砲彈藥類取締管轄替	四十九
〔三〕 免許商人外國人ト銃砲彈藥賣買出願取扱方	全
〔四〕 武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則	全
〔五〕 銃砲類外國人ト賣買差許方	五十
● 火藥取締規則沿革要領	全
第七十九 火藥取締規則	全

〔一〕 火藥類賣買ヲ免許シ火藥庫設置ヲ許可セントキ届出方

〔二〕 陸軍省ニ於テ火藥拂下ノ場所

〔三〕 海軍省ニ於テ火藥拂下場所

第八十 火藥庫圍線規則

●爆發物取締沿革要領

第八十一 爆發物取締罰則

●遺失物條例沿革要領

第八十二 遺失物取扱規則

〔一〕 遺失物中没官ノ物品取扱方

〔二〕 遺失物取扱規則中埋藏物ヲ掘得ル者處分方

〔三〕 官没ノ遺失物ヲ公賣シタル金額納付方等

〔四〕 遺失物公賣金額届出方

●同指令

●盜難ニ罹リタル物品處分ノ同指令

●得遺失物ニ係ル刀劍及劇毒藥處分ノ同指令

●拾得從軍記章處分ノ同指令

五十六
全
全
五十七
全
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
全
全
六十三
六十三
六十三
全
全
六十三
全

第八十三 古物商取締條例

〔一〕 取締條例中官ニ没スル物品處分方等

●同指令

●古物商取締條例第十八條特別取締ニ付セラレタル者罰金徵收方同指令

●古物商取締條例第四條第六條ノ件ニ付同指令

第八十四 質屋取締條例

●石油取締規則沿革要領

第八十五 石油取締規則

第八十六 危害品船積法則

第八十七 不開港場規則難船救助心得方等ノ條目

〔一〕 日本海岸ニ於テ英國船舶難破救助ノ費用支出方

〔二〕 日英兩國船舶難破救助費用償還方

〔三〕 日米兩國難破船舶費用償還方

第八十八 内國船難破及漂流物取扱規則

六十四
六十八

全

六十九

七十

七十二

七十四

七十五

七十五

八十二

八十三

八十三

八十四

●同指令

●漂流ノ訴訟文通用野紙拾揚處分ノ同指令

九十三

〔附錄〕 街路乗合馬車營業人力車及宿屋取締規則標準

全

○第三章 禁令

百二十

第八十九 富興行ヲ禁ス

全

〔一〕 富籤賣買ノ牙保幫助者及富籤購買者處分方

全

第九十 帶刀禁止及違犯者處分方

百二十一

〔一〕 官國幣諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀差許方

全

〔二〕 府縣社以下古代ノ裝飾ニ摸倣シ神輿供奉ノ舊例アル向供奉中帶刀差許方

百二十二

第九十一 賭博犯處分規則

全

●同指令

●賭博犯ニ關スル偽證者處分方ノ同指令

百二十三

●規則發布以前ノ賭博犯者ヲ處分セシトキ取扱方

全

●犯時軍屬ニシテ捕獲ノ時平人ナル者處分方ノ同指令

百二十四

●賭博犯過料不納者身代限印紙費支辨方ノ同指令

全

第九十二 年期奉公等種々ノ名目ヲ以テ其實賣買同

様ノ所業ヲ禁ス

全

〔一〕 人身ヲ出入トシテ金錢ヲ貸借スルヲ禁ス

百三十五

〔二〕 金殿上養女ノ名目ヲ爲シ娼妓藝妓ノ所業ヲ爲サシムルヲ禁ス

全

●幼兒ヲ外國人ニ賣渡制禁沿革要領

百二十六

第九十三 幼兒ヲ外國人ニ賣渡ヲ禁ス

全

第九十四 禁裡御用等ノ會符標札及菊御紋ヲ畫キタ

ル提灯器物等ヲ禁ス

全

〔一〕 由緒有之社寺ノ外菊御紋ヲ用ユルヲ禁ス

百二十七

〔二〕 由緒ノ有無ニ拘ハラズ菊御紋ヲ禁ス

全

〔三〕 官幣社社殿ノ裝飾及社頭ノ幕提灯ニ限リ菊御紋ヲ用ユルコトヲ許ス

〔四〕 國幣社々殿ノ裝飾幕提灯ニ限リ菊御紋ヲ用ユルコトヲ許ス

全

〔五〕 一般社寺ノ神殿佛堂ニ裝飾シタル分ニ限リ菊御紋存置ヲ許ス

百二十八

〔六〕 菊御紋章ヲ畫キタル賣品取締方

● 伺指令

● 勸業博覽會賞狀等へ御紋章ヲ附スル儀ニ付伺指令

● 郡設共進會賞狀品へ桐章描畫ノ儀ニ付伺指令

● 郡役所屋上へ菊御章掲出ノ伺指令

● 桐章社寺ニ於テ用フル儀ニ付伺指令

○ 第六類

○ 第一章 監獄 看守 押丁

● 監獄ニ係ル沿革要領

第九十五 監獄則

〔一〕 沖繩縣人民ノ徒流刑ニ處セラレタルモノノ發配所

〔二〕 監獄中ノ別房ニ留置シタル者監内諸則ヲ犯ストキ處分方

〔三〕 囚徒入監後金錢物品等ヲ所持スル者處分方

〔四〕 重罪ノ囚徒工錢給與方

〔五〕 處刑宣告後犯人ヲ司獄官へ護送ノ際檢察官ヨリ宣告書ノ謄本送達方

百二十八

全

全

百二十九

全

百三十一

全

全

百六十六

百六十七

全

全

全

〔六〕 假出獄宣告狀書式

〔七〕 假留監設置ニ付徒刑流刑及禁獄ノ刑ニ處セラレタル囚徒送致方及聯合地方區分ヲ定ム

〔八〕 舊刑法ニ於テ懲役終身ノ囚徒刑限内罪ヲ犯シ地方監獄ニ拘禁中ノ者假留監へ押送方

〔九〕 罰金ヲ輕禁錮十日以下ニ換ヘタル時警察署附屬ノ留置場ニ於テ執行方

〔十〕 懲役終身ノ刑又ハ徒刑ニ處セラレタル女囚留置方及其費用支辨方

〔十一〕 假出獄停止手續

〔十二〕 懲役終身又ハ徒刑女囚地方監獄ニ留置及其費用支辨方

〔十三〕 處刑者并囚徒死亡ノ者届出方

〔十四〕 集治監假留監ノ囚徒變死ニ係ル者届出方

〔十五〕 舊刑法處刑ノ囚徒假留監へ押送方

〔十六〕 懲治場ニ留置セシ者假出獄規則ヲ定ム

〔十七〕 陸海軍々法會議ノ處刑者地方獄送付ノトキ處分方

〔十八〕 在監人工錢給與手續

全

百六十八

百六十九

全

全

百七十

全

百七十一

全

百七十二

全

百七十三

全

● 伺指令

● 犯罪人ノ携帶スル三歳以上ノ幼兒處分ノ伺指令

● 犯罪人ノ携帶セル幼兒養育方ノ伺指令

● 在監中分娩ノ兒子ニシテ三歳以上ニ至ルモノ引渡方ノ伺指令

● 無籍在監人ニシテ生活ノ途ナキ者處分方ノ伺指令

● 入監婦女携帶三歳以上ノ兒子ニシテ生活ノ道ナキ者處分方ノ伺指令

● 拘禁囚徒取扱方ノ伺指令

● 在監人隱匿物處分方ノ伺指令

● 入監人携有金處分ノ伺指令

● 輕罪ニ係ル控訴者已決後服役方ノ伺指令

● 在監人食糧ノ伺指令

● 假免懲罰者換罰執行方ノ伺指令

● 已決囚留置ノ伺指令

● 在監人携帶乳兒取扱方伺指令

第九十六 看守長看守ニ帶劍ヲ許ス

百七十三
百七十四
全
百七十五
百七十六
百七十七
全
百七十八
全
百七十九
全
百八十

〔一〕 看守被服及帶劍給貸并保存期限

〔二〕 監獄署押丁給與品ヲ定ム

〔三〕 監署雜則并書記看守長以下分掌例及備人分課例ヲ定ム

〔四〕 司獄官吏備人設置程度

〔五〕 看守俸給支給規則

〔六〕 看守給助例

〔七〕 司獄官吏内國旅費概則

〔八〕 集治監假留監典獄書記看守長獄醫旅費支給方ヲ定ム

〔九〕 看守押丁賞與方

○ 第二章 囚人護送 囚徒費用

● 囚人護送ニ係ル沿革要領

第九十七 囚人護送手續

● 伺指令

● 已決囚押送及費用ノ件ニ付伺指令

第九十八 集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用區分方ヲ定ム

全
全
全
全
全
全
全
百八十一
百八十三
百八十四
全
百八十五
全
百八十七
百八十八

- 〔一〕 監獄内ノ建物中稟請ヲ要セス處分ノ件 百八十八
 - 〔二〕 已決囚ニ係ル經費區分實地取計方 百八十九
 - 〔三〕 集治監ニ入ルヘキ囚徒ノ費用管理方 全
 - 〔四〕 在府縣獄囚徒費小科目流用方 全
 - 〔五〕 監獄不用品賣拂代金看守罰俸等國庫地方稅收入區分方 全
 - 〔六〕 在府縣獄囚徒費取扱方 百九十
 - 〔七〕 輕罪控訴被告人ニ係ル拘禁中ノ諸費支辨方 全
 - 〔八〕 陸海軍軍法會議ニ於テ處斷ヲ受ケタル囚徒ノ費用支辨方 百九十一
 - 〔九〕 在府縣獄囚徒費用交付金地方稅編入方 全
- 伺指令
- 徒刑囚海路押送費用之儀ニ付伺指令 百九十一
 - 監獄ニ係ル沒收金ノ儀ニ付伺指令 全
 - 雇工錢國庫費へ收入方ノ儀付伺指令 百九十二
 - 在府縣獄囚徒費取扱方改正ニ付疑義ノ件伺指令 全
 - 在府縣獄囚徒費其他監獄費用取扱方ノ伺指令 百九十三
 - 在府縣獄囚徒費取扱方ノ件ニ付伺指令 全
 - 全上ノ件ニ付伺指令 百九十四

- 在府縣獄ヨリ支出ノ金額地方監獄費等へ戻入ノ伺指令 百九十五
 - 在府縣獄囚徒費取扱方并地方稅豫算ノ儀ニ付伺指令 全
 - 控訴ニ係ル囚徒工錢收入方之儀ニ付伺指令 百九十六
 - 輕罪控訴裁判被告人ニ係ル拘禁中ノ諸費精算仕上方ノ伺指令 全
 - 輕罪控訴被告人押送費用ノ儀ニ付伺指令 百九十七
 - 軍律ニ依リ處斷アリシ在監人費用ノ儀ニ付伺指令 全
 - 在府縣獄囚徒費ノ件ニ付伺指令 百九十八
 - 在府縣獄囚徒費支辨方ノ件ニ付伺指令 全
- 第七類
- 第一章 戶籍諸則
- 戶籍ニ係ル沿革要領 全
- 第九十九 戶籍法則
- 〔一〕 戶籍法中心得方並改正ノ廉 二百一
 - 〔二〕 戶籍法第五則出生死去出入等届出方及寄留者届出方ヲ定ム 二百三
 - 二百十四
 - 二百十六

- 〔三〕 戶籍取扱手續ヲ定ム 二百十六
 - 〔四〕 生死出入届漏及従前ノ寄留者届出期限並違犯者處分方ヲ定ム 二百二十二
 - 〔五〕 戶籍登記書式ヲ定ム 全
 - 〔六〕 管廳郡役所ニ納ムル戶籍簿副本及寄留等ノ件 二百五十二
 - 〔七〕 本籍外ノ者ヨリ差出タル届書取扱方 全
 - 〔八〕 本年省令第十九號施行以前出入寄留届出アル者寄留簿整頓方ヲ定ム 二百五十三
 - 〔九〕 參賀參拜ノ儀非役有位帶勳者へ達方並位官勳等前科ノ有無調査區役所戶長役場ニ於テ爲取扱方ヲ廢セシム 全
- 寄留者届出ノ伺指令 全
- 家督相續ニ關シ裁判處分ヲ受ケ控訴スルモノノ戶籍届方ノ伺指令 二百五十四
- 第二章 種族 氏名 年齢 全
- 種族ニ係ル沿革要領 全
- 第百 華土族ノ子弟民籍加入ヲ許ス 二百五十五

- 〔一〕 僧尼族籍編入方 全
 - 〔二〕 人民署名肩書 二百五十六
 - 〔三〕 華土族當主死亡後相續人ヲ定ムル期限 全
 - 〔四〕 士族家督相續養子貫籍替届出方 全
 - 〔五〕 士族家督相續管輔替等身上異動届差出ニ及ハス 全
 - 〔六〕 華族養子女縁組離縁復籍及貫屬替轉居等ノ送入籍ヲ了シタルトキ華族局へ通牒方 二百五十七
 - 〔七〕 有位者改名貫屬替死去願届ヲ取扱タルトキ郡區長ヨリ華族局へ通牒方 全
 - 〔八〕 華族貫屬替願出方 全
 - 〔九〕 僧尼編籍處分方 全
 - 〔十〕 僧尼住職中寺院へ居住ニ付心得方 二百五十八
- 伺指令 全
- 有位者貫屬替死亡届通牒方ノ件ニ付伺指令 全
- 第百 華族令 全
- 〔一〕 華族席順 二百五十九

〔二〕 齋香間祇候待遇

〔百二〕 華族世襲財產法

●氏名ニ係ル沿革要領

〔百三〕 通稱名乘兩様用フルヲ禁ス

〔一〕 國名舊官名ヲ以テ通稱ニ用ルヲ禁ス

〔二〕 僧侶苗字ヲ設ク

〔三〕 御歴代御諱並御名ノ文字人民一般名乗ルヲ許ス

〔四〕 平民苗字取設方

〔五〕 苗字名屋號共改稱ヲ禁ス

〔百四〕 年齢計算方

〔一〕 丁年ヲ定ム

○第三章 養子婚姻 家督相續 合家分家 絶

家失踪逃亡 旅行

●養子婚姻相續ニ係ル沿革要領

〔百五〕 華土族家督相續法

〔一〕 華族ノ輩隱居及養子出願方

〔二〕 士族ノ輩隱居及養子出願方

〔三〕 華族ヨリ平民ニ至ルマテ互ニ婚姻ヲ許ス

〔四〕 華土族平民互ニ養子取組方及届出方等

〔五〕 華土族當主死亡後相續人ヲ定ムル期限

〔六〕 婦離縁ヲ請フモ夫肯セサル節出訴ヲ許ス

〔七〕 婚姻養子養女ノ取組若クハ離婚離縁等戶籍ニ登記セサル内ハ其効ナキ者ト看做ス

〔八〕 子女アル者養子入夫等ヲ以テ相續人ト爲スヲ許ス

〔九〕 戶主其家ヲ廢シ他ヘ入夫或ハ養子女トナリ又ハ復籍等出願ノ者取扱方

〔十〕 士族家督相續養子貫籍替届出方

〔十一〕 戶籍ニ登記セサル者裁判上處分方

〔十二〕 離縁争訟ニ付處分方

〔十三〕 後見人職務權限

● 何指令

- 養子養女戸籍ニ登記セサル前犯罪處分ノ請訓 二百七十四
- 養子戸主携子離縁ノ何指令 全
- 軍人結婚ノ何指令 二百七十五
- 幼戸主年長ノ者ヲ養子ト爲スノ何指令 全
- 年長ノ者ヲ相續人ト爲ス件何指令 二百七十六
- 姉ノ養女トナリシモノ稱呼ノ何指令 全
- 離縁ノ養女ヲ妻ニ迎フル件ニ付上申指令 全
- 婚ノ妹ト配偶ノ件ニ付何指令 二百七十七
- 戸主ノ父其妻ヲ離婚其家ニ差置件ニ付何指令 全
- 養子ノ妹ト結婚ノ何指令 全
- 相續權ノ何指令 二百七十八
- 後見人權限ノ何指令 全
- 外國人民ト婚姻ヲ許ス 全
- 私生ノ子 二百七十九
- 何指令 全

第百六

外國人民ト婚姻ヲ許ス

第百七

私生ノ子

● 何指令

● 私生兒送籍ノ何指令 二百八十

● 私生ノ子婦女ノ公生男子ニ引直方ノ何指令 全

第百八上

合家ヲ禁シ從前合家セシ分取扱方 全

〔一〕華土族分家ノ者平民籍ニ編入方 全

第百八下

單身戸主死亡又ハ除籍ノ後絶家トスルノ 全

期限 二百八十一

〔一〕從前死亡又ハ除籍シタル者跡相續届出期限 全

● 脱籍及無籍人ニ係ル沿革要領 二百八十二

第百九

脱籍及行衛知レサル者除籍ノ年齢 全

〔一〕無籍在監人就籍方 二百八十三

〔二〕無籍在監人就籍方違但書ヲ删除ス 全

〔三〕失踪逃亡跡遺留財産處分方 全

〔四〕戸長ニ於テ保管スル失踪逃亡及絶家ノ財産ハ目錄ヲ作り郡區 全

長ニ差出サシム 二百八十四

〔五〕廢戸主並財産管理方 全

- [六] 失踪死亡跡遺留財産賣却交換質入書入等ノトキ始審裁判所ノ認許ヲ受シム 二百八十六
- [七] 失踪死亡跡遺留財産賣却交換質入書入ニ關スル認許請求書差出方 全
- [八] 失踪逃亡死亡者ノ遺留財産處分方治安裁判所ノ認許ヲ乞フヲ得 全
- 伺指令 全
- 置身戸主死亡跡財産處分ノ請訓 全
- 海外旅行沿革要領 二百八十七
- [第百十] 海外旅券規則 二百八十八
- [一] 朝鮮國旅行ノ者旅券出願方 二百九十一
- 第四章 墓地埋葬 死亡 忌服 全
- 墓地埋葬沿革要領 二百九十二
- [第百十一] 墓地及埋葬取締規則 全
- [一] 墓地及埋葬取締規則ニ違背スル者處分方 二百九十三
- [二] 墓地及埋葬規則細則標準 二百九十四

- [三] 猥ニ墓地ヲ設クルヲ禁ス 二百九十五
- [四] 古墳ト見ユル地ハ猥ニ發掘ヲ禁ス 全
- [五] 醫師患者死亡届 二百九十六
- [六] 患者死亡届差出順序 二百九十七
- [七] 死亡届書ニ職業記載方 全

- 伺指令 全
- 墓地火葬場新設ノ儀ニ付伺指令 全
- 古墳發掘ノ件ニ付伺指令 全
- 行旅病死取扱沿革要領 二百九十八
- [第百十二] 行旅死亡人取扱規則 全
- 伺指令 全

- 軍人行旅中死亡等ノ節取扱方ノ伺指令 二百九十九
- 海軍下士兵卒等旅行中死亡之節取扱方ノ伺指令 全
- 下士兵卒旅行中一時救護ノ伺指令 三百一
- [第百十三] 忌服ノ儀京家ノ制ヲ廢ス 全
- [一] 僧尼人民一般ノ忌服ヲ受ケシム 全

○第八類

○第一章 醫業 賣藥 藥品

●醫業諸規則沿革要領

第百十四 醫師免許規則

- 〔一〕 醫師開業試驗規則 全 三百三
- 〔二〕 試驗ヲ要セスシテ醫師ノ免狀ヲ受與スヘキ者格例 全 三百五
- 〔三〕 醫師開業受驗人心得 全 三百八
- 〔四〕 從來開業ノ醫師ハ試驗ヲ要セス鑑札等ヲ附與ス 全 三百九
- 〔五〕 從前府縣ニ於テ下付ノ醫術開業證ヲ所持スル者更ニ免狀附與 全 三百十
- 〔六〕 引取人ナキ刑死者及囚徒ノ遺骸解剖方 全
- 〔七〕 入齒齒抜口中療治接骨等營業ノ者開業及鑑札渡方 全
- 〔八〕 鍼灸術營業者取締方 全

●同指令

- 醫師開業規則ノ儀ニ付同指令 三百十一
- 醫師免許規則第三條學校ノ儀ニ付同指令 全
- 醫術開業試驗規則第八條ノ件ニ付實義並回答 全

- 醫術開業試驗規則之儀ニ付同指令 三百十二
- 醫師免許規則中ノ儀ニ付同指令 全
- 醫術試驗規則ニ付同指令 全
- 醫師免許規則及醫術開業試驗規則中疑義ノ廉同指令 三百十三
- 醫師免許規則ノ儀ニ付同指令 全
- 醫師試驗規則ノ同指令 三百十四
- 醫師開業免許規則之儀ニ付同指令 三百十五
- 醫師免許規則之儀ニ付同指令 三百十六
- 醫師免許規則之儀ニ付同指令 全
- 藥舖醫師兼業之儀ニ付同指令 全
- 醫師藥種商兼業同指令 三百十七
- 醫術開業免狀授與之儀ニ付同指令 全
- 醫術開業後期試驗願ノ儀ニ付照會回答 全
- 入齒々抜口中療治接骨等營業者取締御達中疑義ノ同指令 三百十八
- 死體解剖ノ件ニ付同指令 全
- 刑死者及死亡者解剖ノ件ニ付同指令 三百十九

- 病死體解剖ノ件ニ付伺指令 三百十九
- 醫術開業免狀出願ノ際誤記セル族籍等訂正出願ノ件ニ付照會回答 全

●賣藥規則沿革要領

第百十五 賣藥規則

- 〔一〕賣藥取扱手續 全
 - 〔二〕賣藥取扱手續 三百二十五
 - 〔三〕賣藥請賣鑑札並行商鑑札製作費支辨方 三百三十一
 - 〔四〕賣藥手續中請賣鑑札及行商鑑札並行商鑑札製作費ノ一項ヲ削除シ更ニ取扱方ヲ示ス 三百三十四
 - 〔五〕賣藥行商鑑札表面記載方ノ件 全
- 伺指令 全
- 異邦ノ賣藥請賣ノ儀ニ付伺指令 三百三十六
 - 丸散藥等ノ藥劑ニ効能書ヲ付セス販賣ノ儀ニ付伺指令 全
 - 施藥ノ儀ニ付伺指令 全
 - 藥湯營業ノ儀ニ付伺指令 全

第百十七 藥品營業並藥品取扱規則

- 〔一〕藥劑師試驗規則 全
- 〔二〕藥品巡視規則 三百四十六
- 〔三〕毒藥劇藥ノ品目 三百四十七
- 〔四〕燐製ノ鼠取藥ヲ禁ス 全
- 〔五〕アニリン其他鍍屬製ノ繪具染料取締方 三百五十一

●藥品取扱規則沿革要領

- 賣藥營業人其販賣ノ効能書中ニ方名姓名等記載方ノ儀ニ付伺指令 三百三十七

- 賣藥請賣及行商鑑札方數記載方ノ儀ニ付伺指令 全
- 賣藥能書中六種傳染病之項削除ノ儀ニ付伺指令 全
- 鍍泉販賣ノ儀ニ付伺指令 三百三十八
- 害虫驅除賣藥開屆方ノ照會回答 全
- 賣藥營業者ノ儀ニ付伺指令 全
- 賣藥營業之儀ニ付伺指令 三百三十九
- 賣藥規則中疑義之件伺指令 全

- 〔六〕 繪具染料賣買取締方 三百五十二
- 〔七〕 摺附木製造ニ黃燐ヲ用フルヲ禁ス 全
- 〔八〕 藥品其他検査手数料ヲ定ム 全
- 〔九〕 醫藥適用ノ藥品印紙貼用 三百五十三
- 〔十〕 衛生試験所藥品検査印紙 三百五十四

● 同指令

● 検査手数料之儀ニ付何指令

● 石炭酸其他劇藥販賣許可ノ沿革要領 三百五十五

〔第十七〕

● 石炭酸其他劇藥傳染病流行ノ際販賣ヲ許ス 全

● 藥用阿片賣買製造規則沿革要領 全

〔第十八〕

● 藥用阿片賣買並製造規則 三百五十六

〔一〕 阿片賣買並製造規則施行ニ付取扱方 三百五十八

〔二〕 製藥免許手續 三百五十九

〔三〕 内國産濕潤阿片並粉末阿片價格ヲ定ム 三百六十

〔四〕 藥用阿片受拂手續ヲ定ム 三百六十一

● 同指令

● 藥物製造ノ儀ニ付何指令 三百六十三

● 勸業事務上製造ノ藥用阿片ノ儀ニ付何指令 全

○ 第二章 衛生會 傳染病豫防

● 衛生會沿革要領 全

〔第十九〕 地方衛生會規則 全

● 傳染病諸則沿革要領 三百六十六

〔第二十〕 傳染病豫防規則 全

〔一〕 種痘規則 三百七十一

〔二〕 官吏準官吏公務ニ依リ傳染病豫防救治ニ從事シ感染又ハ死亡者手當金給與方 三百七十二

〔三〕 傳染病豫防法心得書 三百七十三

〔四〕 傳染病豫防心得書附錄種痘施術心得書 四百十一

〔五〕 傳染病豫防心得書ニ據リ調製シタル消毒藥販賣方 四百十六

〔六〕 微毒検査方法施設方 全

〔七〕 海軍軍人艦船警備夫虎列刺病ニ罹ル者取扱手續 全

〔八〕 傳染病ニ罹リ身元赤貧ノ者費用地方稅衛生費ヲ以テ支辨方 四百十九

●同指令

●古着襪履輸入出ノ件ニ付同指令

四百二十

●種痘規則第二條再種年限ノ同指令

全

●種痘規則第二條ノ同指令

四百二十一

●船舶檢疫規則沿革要領

四百二十二

【第二百二十一】 虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則 全

【二】 虎列刺病流行ノ際檢疫所設置取計方 四百二十三

【三】 虎列刺病流行地方ヨリ古着及襪履輸送ヲ禁ス 全

【第二百二十二】 人家稠密ノ場所ニ於テ糞糞ヲ禁ス 四百二十四

【二】 糞糞制限斟酌方 全

○第九類

○第一章 新聞紙條例

●新聞紙條例沿革要領

四百二十五

【第二百二十三】 新聞紙條例 全

【一】 官吏タル者私ニ新聞紙等ニ政務ヲ叙述スルヲ禁ス 四百三十二

- 【二】 公文ヲ新聞紙ニ掲載スルヲ禁ス 全
- 【三】 新聞紙條例傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辨論記載方 全
- 【四】 新聞紙ニ關スル諸屆書式ヲ定ム 四百三十三

○第二章 出版

●出版條例沿革要領

全

【第二百二十四】 出版條例 全

- 【一】 版權條例 四百四十三
- 【二】 脚本樂譜條例 四百四十九
- 【三】 寫真版權條例 四百五十

【四】 式ニ依リ宣布セサル公文等ヲ記セル圖書ヲ出版スル者處分方 四百五十二

【五】 出版版權脚本樂譜寫真條例ニ關スル願屆手續等ヲ定ム 全

【六】 舊條例ニ依リ版權ヲ得タル者免許狀毀損紛失ノトキ及免許ヲ得テ未タ出版セサル圖書出版ノモノ屆出並免許料手数料納付方 四百五十八

【七】 出版條例施行以前屆出ヲナシ爾後出版スルモノ屆出方 全

【八】 我カ有版權ノ圖書ニシテ外國人ノ翻刻ニ係ル者ハ販賣ヲ禁ス 四百五十九

- 〔九〕 文部省出版ノ圖書ヘ註解圖書傍訓等ヲ加ヘ又ハ増減シテ出版スルヲ禁ス 四百五十九
- 〔十〕 文部省出版圖書翻刻ノモノハ檢査ヲ遂ケ誤刻ノモノ發賣差止方等 全
- 〔十一〕 神社寺院ノ守札及神佛號ヲ記セル畫像等ハ其神社寺院ノ外出版ヲ禁ス 全
- 第十類
- 第一章 社寺 神職 四百六十一
- 神佛祭祀ニ係ル沿革要領 全
- 〔第百二十五〕 官幣社官祭執行方 四百六十二
- 〔一〕 伊勢神宮及官國幣社等祭典ノ節著服禮式ヲ定ム 全
- 〔二〕 神佛祭禮開扉等ノ節奇帷ノ打扮等ヲ爲スヲ禁ス 全
- 〔三〕 諸神社祭禮神輿渡御ノ節粗暴ノ所業ヲ禁ス 全
- 〔四〕 神宮官國幣神社神輿渡御ノ節供奉ノ者 四百六十三
- 〔五〕 府縣社以下古代ノ裝飾ニ模倣シ神輿供奉ノ舊例アル向供奉中帶刀差許方 全

- 〔六〕 官國幣社祈年祭新嘗祭例祭地方官參向方 全
- 〔七〕 神宮及官國幣社等祭典ニ付勅使參向ノ節著服 全
- 〔八〕 寺院佛像持出開帳ノ達ヲ廢シ他管持出開帳ノ節出願手續ヲ定ム 全
- 〔九〕 祭服ノ品等ヲ定ム 全

●諸神社及神官等ニ係ル沿革要領

- 〔第百二十六〕 神社規則ヲ定ム 四百六十四
- 〔一〕 神社改正規則ヲ更定ス 四百六十五
- 〔二〕 神宮職員官等改正 四百六十八
- 〔三〕 鄉村社祠掌給料ハ人民信仰ニ任セ適宜給與セシム 全
- 〔四〕 官國幣社及府縣郷社共古來ノ制式保存方 四百七十
- 〔五〕 府縣社以下祠官祠掌ノ等級ヲ廢シ身分取扱方ヲ定ム 全
- 〔六〕 官國幣社神官ヲ廢シ更ニ神職ヲ置ク 四百七十
- 〔七〕 神社制札 全
- 〔八〕 神官奉務規則 四百七十一
- 〔九〕 神宮大麻頒布ハ地方官ノ關係ニ不及人民各自ノ自由ニ任ス 四百七十二

- [十] 社務取扱所名稱ヲ定ム 四百七十二
- [十一] 神社授符配札ヲ差止ム 全
- [十二] 府縣社以下祠官祠掌ノ進退取扱方 四百七十三
- [十三] 官國幣社制札面ヲ削除ス 全
- [十四] 府縣社以下祠官祠掌進退取扱方 全
- [十五] 府縣社以下神官撰擧ノ節皇典講究所ノ卒業證書又ハ試験濟證書ヲ添出願認可ノ件 全
- [十六] 神官教導職ノ兼補ヲ廢シ葬儀ニ關係セス 全
- [第十七] 神社佛寺古來所傳ノ什物並寄附ノ諸器祠堂金等ノ類處分方 四百七十四
- [一] 社寺ニ於テ金穀借入方 全
- [二] 寺院什物帳調製方 全
- [三] 社寺上地中内實賣買質地トナセシ者處分方 全
- [四] 神社佛寺持添ノ田畑山林寄附金古文書處分ニ付心得方 全
- [五] 人民私邸内等自祭ノ神祠佛堂衆庶參拜許否處分方 四百七十六
- [六] 府縣社以下神社什物取締方 全

- [七] 社寺取扱概則 全
- [八] 社寺什物取締方 四百七十七
- [九] 社寺文庫經藏儲書等取調差出方 四百七十九
- [十] 社寺明細帳調製差出方 四百八十二
- [十一] 社寺ノ什物並地所建物等ノ類抵當其他處分方 四百八十七
- [十二] 社寺總代人ヲ置キ社寺ノ願屆等ニ連署セシメ且收入財產等取調方 四百八十八
- [十三] 町村鎮座氏神氏子去就禁否處分方 全
- [十四] 社寺伐木取扱概則 全
- [十五] 寺院附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他財產ニ關スル諸願ハ管長ノ添書ヲ要ス 四百八十九
- [十六] 祠宇寺院ノ廢止及財產ニ關スル諸願ハ管長ノ添書ヲナサシ 全

●同指令

●寺院所有地ヲ境内附屬地ニ使用ノ件同指令

●廢合寺院沿革要領

四百九十
四百九十一

第二百二十八 無檀ニシテ無住ノ寺院廢止方

- (一) 寺院廢止處分方 四百九十一
- (二) 無檀無住ノ寺院廢止處分手續 四百九十二
- (三) 廢合寺院跡地并建物處分規則 全

第二章 教師 僧侶

●教師僧尼ニ係ル沿革要領

第二百二十九 神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及

教師等級進退ヲ管長ニ委任ス

- (一) 管長身分取扱 四百九十六
- (二) 従前ノ教導職タリシ者身分取扱方 四百九十八
- (三) 盲僧取締方 全
- (四) 盲人ニ非スシテ盲僧ノ業ヲ營ムヲ禁ス 全
- (五) 禁厭祈禱ヲ行ヒ醫業ヲ妨クルヲ禁ス 四百九十九
- (六) 禁厭祈禱ヲ請フモノアルキ醫師治療中ノ者ニ限リ其望ニ應スルヲ許ス 全

〔七〕 教院教會所說教所ニ於テ葬儀ヲ執行シ或ハ平素衆庶ニ參拜セ

シムル等ノ所爲ヲ禁ス

〔八〕 神道教導職其主神ヲ鎮祭シ教徒ノ葬儀ヲ執行スル爲メ祠宇建

設出願方

第二百三十 僧侶肉食妻帶蓄髮等ヲ許ス

- (一) 比丘尼蓄髮肉食緣付ヲ許ス 全
- (二) 僧侶肉食妻帶勝手タルノ公布ハ宗規ニ關係セシ譯ニ無之 五百一

●僧侶托鉢沿革要領

第二百三十一 僧侶托鉢禁止ノ達ヲ廢ス

- (一) 托鉢免許方並托鉢者心得 全

○第十一類

第一章 會計 出納

●會計法沿革要領

第二百三十二 會計法

- (一) 歲入歲出出納規則 全
- (二) 歲入歲出豫算概定順序 五百十三
- (三) 歲入歲出豫算概定順序 五百二十二

- 〔三〕 歳入歳出出納規則書式ヲ定ム 五百二十二
- 〔四〕 歳入取扱順序ヲ定ム 全
- 〔五〕 歳出取扱順序ヲ定ム 五百三十一
- 〔六〕 歳入歳出出納規則書式中改廢 五百四十
- 〔七〕 歳入歳出出納規則書式中改正 五百四十三
- 〔八〕 歳入歳出出納規則ニ依リ發行セル支拂切符ヲ失フタルトキ再發行手續ヲ定ム 五百四十三
- 〔九〕 歳入徴收ノ委託ヲ受ケ發付スル納額告知書及納付書ニ捺印方 五百四十五
- 〔十〕 戶長ニ於テ税金分納ノキ徴稅令書ヲ亡失シタル場合ニ於テ取扱方 全
- 〔十一〕 徴稅額表及歳入報告書訂正追加手續 全
- 〔十二〕 過誤納ニ係ル下戻ヲ要スルトキ請求方 五百四十六
- 〔十三〕 歳入過誤納下戻委任方等 全
- 〔十四〕 地方長官ヨリ郡長ニ委任シタル條件ニ附帶スル第二部歳入ノ徴收納額告知書發付方ヲ心得シム 全
- 〔十五〕 歳入徴稅令書及歳入報告書收納區分記載方 全
- 〔十六〕 歳入歳出ニ關スル諸報告書差出方 五百五十一

- 〔十七〕 歳入歳出出納規則報告書整理方 全
- 〔十八〕 歳入歳出決算帳差出方 五百五十二
- 〔十九〕 歳出報告書送付方 全
- 〔二十〕 歳入報告書送付方 全
- 〔廿一〕 第二部歳入納額告知書及納付書發送ノトキ取扱方 全
- 〔廿二〕 租稅計算整理順序ヲ定ム 全
- 〔廿三〕 租稅每納期既未濟報告ヲ廢シ租稅收納報告表送付方 五百五十四
- 〔廿四〕 現納金下戻計算書金庫名記入方 全
- 〔廿五〕 内國稅統計臺帳調製規則 全
- 〔廿六〕 出納規則第八十條ニ據リ報告スル概算支出未成算金翌年度精算順序 五百五十五
- 〔廿七〕 歳入歳出出納規則第七十一條歳出報告書差出方 五百五十六
- 〔廿八〕 歳入徴稅令書納額告知書歳出支拂案内書等誤記訂正ノ件 全
- 〔廿九〕 歳入歳出出納規則第七十一條中改正ノ件 全
- 〔三十〕 他廳ニ係ル歳入取扱納付金過誤納下戻方 全
- 〔三十一〕 租稅官捐稟申方ヲ改定ス 全
- 〔三十二〕 租稅延納年賦異動報告製表送付方 五百五十七

- 〔三十三〕 會計主務官又ハ其代理官不在ノ地方ニ於テ經費金支拂方 五百五十七
- 〔三十四〕 科料罰金徵收及民事刑事一時預リ金取扱方ヲ定ム 全
- 〔三十五〕 官有地諸收入金徵收規程 五百五十八
- 〔三十六〕 免許料手數料鑛山借區稅取扱順序ヲ定ム 全
- 〔三十七〕 農商務省所管免許料手數料鑛山借區稅徵收及納付方 五百六十
- 〔三十八〕 森林收入取扱順序ヲ定ム 全
- 〔三十九〕 森林收入既納金拂戻方 全
- 〔四十〕 森林收入ニ屬スル辦償金等徵收期限 全
- 〔四十一〕 森林收入取扱順序第五條第九條中改正加除 五百六十一
- 〔四十二〕 農商務省所管第二部歲入免許料手數料等決算證明式ヲ定ム 全
- 〔四十三〕 森林收入延納金整理順序 全
- 〔四十四〕 森林收入延納金整理順序施行以前ノ延納貸金現在高報告方 五百六十二
- 〔四十五〕 農商務省主管鑛山借區稅免許料手數料歲入概算書差出方 五百六十三
- 〔四十六〕 國庫金出納所事務順序ヲ定ム 全
- 〔四十七〕 從前國庫金取扱所現金任拂所トアルヲ國庫金出納所ト改

- 〔四十八〕 從前告示中國庫金取扱所現金支拂所トアルハ都テ國庫金出納所ト改ム 五百七十六
 - 〔四十九〕 本年大藏省令第七號ハ歲出ニ適用セシム 全
 - 〔五十〕 國庫金出納事務順序及書式中改正 全
 - 〔五十一〕 國庫金出納所事務順序各廳會計事務官印鑑送付等ノ手續ヲ定ム 五百七十七
 - 〔五十二〕 西洋形商船海員雇入雇止證書用紙拂下代金整理及拂下報告方 五百七十八
- 伺指令**
- 徵稅令書紛失ノ節取扱上ノ件伺指令 五百七十九
 - 在府縣獄囚徒費任拂方ノ件伺指令 全
 - 徵稅令書並歲入報告表記職方ノ伺指令 全
 - 官有地諸收入金徵收方伺指令 五百八十
 - 歲入出計算簿記入方ノ照會回答 全
 - 歲入出計算整理帳簿ノ伺指令 五百八十一
 - 徵收額整理簿記入ノ照會回答 全

- 歲入歲出計算記簿記載方ノ照會回答 五百八十一
- 歲入歲出計算簿記載方ノ照會回答 全
- 出納規則書式ノ照會回答 五百八十二
- 徵收整理簿記帳方ノ同指令 全
- 歲入歲出納規則及歲入取扱順序ノ件照會回答 五百八十三
- 歲入徵稅令書其他收納區分記載方及歲入計算簿記記載方ノ同指令 全
- 徵稅令書裏面出納本所記載方ノ照會回答 五百八十五
- 徵稅臺帳徵稅令書記載方ノ件ニ付照會回答 全
- 歲入下戻金支取出扱方ノ件ニ付照會回答 全
- 歲入過誤納金年度經過後拂戻ノ照會回答 五百八十六
- 歲入年度區分ノ件ニ付照會回答 全
- 納額告知書發付方ニ付照會回答 五百八十七
- 租稅計算整理順序中ノ件ニ付照會回答 全
- 收納既未濟報告表調製方ニ付照會回答 五百八十九
- 納額告知書年度誤記訂正方ノ照會回答 全
- 歲入科目訂正方ノ件ニ付照會回答 五百九十

- 納額告知書押印ノ件ニ付照會回答 全
 - 歲入第二整理簿中備考欄増設並歲入報告書ノ件ニ付照會回答 全
 - 歲入報告書式ノ件ニ付照會回答 五百九十一
 - 歲出報告書ト支拂案内書差引表ト照會ノ件ニ付同指令 五百九十三
 - 大藏省訓令第三十二號ニ依リ歲入決算報告書調製ノ件ニ付照會回答 全
 - 第二部歲入現金收入整理簿ノ件ニ付照會回答 五百九十四
 - 歲入決算報告書書式ノ件ニ付問合回答 五百九十五
 - 登記印紙料徵收方ノ同指令 全
 - 決算報告書式凡例ノ件ニ付同指令 五百九十六
- 國稅徵收沿革要領 全

第三百三十三 國稅徵收法

- (一) 市町村長ヲシテ國稅徵收セシムル法 六百
- (二) 國稅徵收法施行細則 六百一
- (三) 郡區役所戶長役場租稅徵收ニ關スル帳簿式ヲ定ム 六百三

〔四〕 國稅徵收法發布以前徵稅令書ヲ發シタルモノハ從前ノ手續ニ據ラシム

〔五〕 市町村制施行ノ爲メ國稅諸規則ニ關スル營業鑑札訂正方

〔六〕 國稅徵收法ニ掲クル收入官吏タル件

● 同指令

● 勅令第三十三號ノ稅目中營業免許ノ事務市長ニ委任問合回答

● 租稅未納者處分方沿革要領

〔第三百三十四〕 租稅未納者處分方

- 〔一〕 書入質入ノ財産ニ未納稅アリ債主辨納セサルトキ公賣方
- 〔二〕 公賣ニ付スル酒類及器械等本人ノ所有ニアラサルトキ處分方
- 〔三〕 租稅未納者處分取扱方心得
- 〔四〕 地方稅不納者公賣ノ未欠額及地方稅年度未殘額處分方
- 〔五〕 租稅不納又ハ徵收シ能ハサル分稟申方
- 〔六〕 諸營業稅不納ノ者財産所在不分明ニシテ公賣處分ヲ爲シ能ハサル者處分方並租稅不納又ハ徵收シ能ハサル分稟申方達中更

正刪除ス

〔七〕 内國稅未納追徵整理順序

〔八〕 内國稅未納追徵整理順序様式凡例中ヲ改正ス

〔九〕 租稅不納者處分規則ニ據リ處分ノ未官損ニ歸スルモノ取扱方

● 同指令

- 租稅不納者公賣處分方ノ同指令
- 官沒器械運搬費等支出ノ同指令
- 官沒物品其犯則者投票ノ同指令
- 税金不納者取扱方ノ同指令
- 納稅代理人不納ノ節處分方ノ同指令
- 地租徵收及不納處分方ノ同指令
- 租稅不納者無届不在中ノ者公賣處分ノ同指令
- 地方稅戶數割不納處分ノ同指令
- 租稅不納財產公賣ノ同指令
- 租稅不納公賣物件ニ關スル債主取調方ノ同指令
- 地租不納者公賣處分方ノ同指令
- 逋稅金處分方ニ付問合回答

- 遺産ニ係ル租税ノ義ニ付伺指令 六百十五
- 未納税追徴方ノ件ニ付問合回答 六百十六
- 土地分割賃入ノ地租不納公賣處分方ノ伺指令 全
- 所得税不納處分方ノ伺指令 六百十七

第三百三十五

酒造税則暨勸業税則賣藥印紙税則烟草

税則ニ關シ租税官吏ニ於テ犯則ノ證憑取

全

- (一) 酒造税則等ニ關シ租税官吏ニ於テ犯則ノ證憑取調處分時限及
立會方等 六百十八

- (二) 酒税其他諸印紙税營業税等通税取締ノ爲メ租税官吏ニ於テ警
部以下ヘ監査打合セ方 全

● 伺指令

● 租税官吏職務上家宅捜査ノ伺指令 全

● 郡區役所書記ニ於テ税則違犯者取調處分ノ伺指令 全

○ 第二章 國税 地方税

第三百三十六

國税地方税區別

全

六百十九

● 地租ニ係ル沿革要領

第三百三十七

減租ノ詔書

全

六百二十

(一) 地租條例 六百二十一

(二) 北海道地租當分地價百分ノ一二定ム 六百二十五

(三) 地租徵收期限ヲ定ム 全

(四) 地租金ノ内田方ニ限り半額代米納ヲ許ス 全

(五) 買上地拂下地潰地等收税除税區分方ヲ定ム 全

(六) 代米納取扱手續 全

(七) 地租金代米納領收順序 六百二十七

(八) 預リ米取扱手續 六百三十

(九) 官有ノ水面ヲ埋立テ開墾ヲナサントスルモノ鍬下年限附與方
等 六百三十一

(十) 所有地所在ノ戸長役場所轄内ニ居住セサルキ地租地方税等ヲ
納ムル爲メ代人ヲ定メ戸長役場ヘ届置方 全

(十一) 一類地ニシテ段別地目ヲ異ニスル者分裂合併ノ場合ニ於テ

段別定メ方

● 同指令

六百三十二

● 潰地々券書換其他ノ儀ニ付同指令

全

● 畝下年季及ヒ荒地免租季明ノ同指令

全

● 地租條例中疑義ノ儀ニ付同指令

六百二十三

● 地目變換地及ヒ開墾地取扱方ノ同指令

六百三十四

● 荒地年季中宅地成ノ儀ニ付同指令

全

● 地租延納年賦金一時上納利引ノ同指令

全

● 地租并ニ地方稅徵收方ノ同指令

六百三十五

● 民有地第二種ノ土地荒地トナリタル年定期附與方其他

六百三十六

● 開墾土地檢査方ノ同指令

六百三十七

● 隱田切開地添地處分沿革要領

六百三十八

● 隱田切開地添地處分方

全

● 同指令

六百三十九

● 開墾地許可以前着手候者處分方ノ同指令

六百三十九

第三百三十九 田畑石高ノ稱ヲ廢シ反別ヲ以テ換用ス

六百四十

● 北海道物產稅沿革要領

全

第四百一 北海道水產稅則

六百四十一

(一) 北海道水產稅則施行細則

六百四十四

第四百一 外國形日本船輸出入稅未納内外貨物廻

六百四十七

漕規則

六百四十七

● 酒造稅沿革要領

六百五十三

第四百一 酒造稅則

全

(一) 酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ該稅則ニ準

六百六十

據ス

(二) 酒造稅則附則改正

全

(三) 朝鮮國ニ於テ製造シテ輸入スル日本酒ニ海關稅

六百六十二

ヲ徵收ス

六百六十三

(四) 沖繩縣酒類出港稅則

六百六十四

(五) 輸出酒類戻稅規則

六百六十四

- 〔六〕 東京府區内清酒輸入規則ヲ制定ス 六百六十五
- 〔七〕 自家用料酒類製造者心得ヲ定ム 六百六十六
- 〔八〕 沖繩縣酒類出港稅則施行細則ヲ定ム 六百六十七
- 〔九〕 輸出酒類戻稅規則施行細則ヲ定ム 六百六十八
- 〔十〕 酒造制限石高ヨリ減却セシモノハ翌期營業ヲ許サス 全

● 同指令

- 酒造免許鑑札記載方ノ同指令 六百六十九
- 酒造營業引續ノ儀同指令 全
- 酒造稅則ニ依リ賣捌代金追徴方ノ請訓 全
- 酒造器械ノ封緘ヲ破棄シタルモノ法律適用ノ儀請訓 六百七十
- 酒造稅則附則違犯者處分方ノ同指令 全
- 自家用料酒廢棄ノ同指令 六百七十一
- 酢造營業者ノ儀ニ付同指令 全
- 酒類造石稅前納ノ同指令 六百七十二
- 酒造稅則附則中疑義ノ件ニ付同指令 六百七十三
- 醫麴稅沿革要領 全

第四百十三 醫麴營業稅則

● 煙草稅則沿革要領

- 第四百十四 煙草稅則
- 〔一〕 煙草稅則施行細則 六百七十五
- 〔二〕 煙草稅則取扱方要領 六百七十六
- 〔三〕 煙草稅則第三條ノ證約狀調製手續 六百八十二

● 同指令

- 煙草稅則證約狀保證人ノ同指令 六百八十八
- 煙草製造人證約狀保證ノ件同指令 六百八十九
- 煙草稅則第三項證約金ノ同指令 全
- 葉煙草藏置場ノ件同指令 全

● 證券印稅規則沿革要領

第四百十五 證券印稅規則

- 〔一〕 證券印紙及手形用紙ノ種類定價ヲ定ム 六百九十六
- 〔二〕 稅印ノ押捺押印ヲ受ケタル小切手引出小切手稅印捺換ノ請ヲ 允ス 六百九十七

〔三〕 證書帳簿印紙貼用ノ様式

六百九十七

〔四〕 當座預引出小切手押印出願及納稅手續ヲ定ム

七百

● 同指令

● 諸帳簿貼用印紙消印ノ同指令

七百一

● 證券印紙貼用方ノ請訓

七百二

● 證券印稅規則中帳簿ノ同指令

全

● 證券印稅規則ノ同指令

全

● 證印稅徵收ノ同指令

七百三

● 米穀借用證文ニ印紙貼用ノ同指令

全

● 證券印稅規則第二條第二類中送狀金高區別ノ同指令

全

● 證券印稅規則ノ同指令

全

● 定備諸職工及小使等ノ給料并旅費受領書へ印紙貼用ノ同指令

七百四

● 同指令

● 區役所ニ於テ主管スル共有積金預入リ證書ニ印紙貼用ノ同指令

全

● 證券印紙貼用方ノ同指令

七百五

● 積荷證書印紙貼用ノ照會回答

全

- 證券印紙ノ件ニ付同指令 全
- 證券印紙貼用方ノ件ニ付照會回答 七百六
- 質取主ヨリ差出ス納稅證書へ印紙貼用ノ同指令 七百七
- 爲換手形ノ同指令 七百八
- 官沒ニ係ル證券印紙處分ノ同指令 全
- 證券印稅規則備考中ノ件ニ付質議回答 全
- 印紙貼用ノ件ニ付出願演示 七百九

● 船稅沿革要領

七百十

第四百四十六 船稅規則

全

〔一〕 船稅徵收ノ噸數及積石數定メ方

七百十四

● 同指令

● 船稅規則ノ儀ニ付同指令 全

● 湖川日本形船ノ儀ニ付同指令 全

● 船稅規則取扱ノ同指令 全

● 渡船免稅ノ同指令 七百十五

● 免稅船ノ同指令 七百十六

- 免稅船ノ儀ニ付同指令 七百十六
- 免稅船ノ同指令 七百十七
- 船稅免否ノ同指令 全
- 官用船處分方ノ同指令 全
- 船稅賦課ノ同指令 七百十八
- 堰使用船ノ同指令 全
- 新造ノ免稅船證票ノ同指令 全
- 免稅船取扱方ノ同指令 七百十九
- 庭前泉水ニ泛フ遊船課稅免除等ノ同指令 全
- 宅地構内ノ泉水又ハ池沼邊隅ニ家宅ヲ構ヘ來客ノ遊戯ニ供スル小船課稅否ノ件同指令 全

● 車稅沿革要領

第百四十七 車稅規則

- (一) 船車賣藥牛馬賣買等ノ稅金納期ヲ定ム 七百二十二
- (二) 車稅規則ヘ附則ヲ追加ス 全
- (三) 併作一途ニ用フル車類車稅免除ノ檢印燒記方 七百二十三

- (四) 大中小車區別方 全
- (五) 人力車一人乘貳人乘ノ區別 全

● 同指令

- 車稅免除ノ同指令 全
- 車稅ノ免除同指令 全
- 一正立ノ馬車二正立ニ兼用ノモノ課稅ノ儀同指令 七百二十四
- 郵便物運送車ヘ課稅ノ儀ニ付同指令 全
- 徵發物件運搬ノ件ニ付同指令 全
- 車稅規則取扱心得書ノ件同指令 全

第百四十八 牛馬賣買渡世ノ者免許稅規則

- (一) 牛馬賣買鑑札規則中追加ス 七百二十五
- (二) 牛馬賣買鑑札書替下渡ノ節取計方 全

第百四十九 賣藥印紙稅則

● 醬油稅則沿革要領

第百五十 醬油稅則

- (一) 醬油稅則施行細則 七百三十六

● 伺指令

- 醬油諸味ニ課税ノ件ニ付問合 七百四十
- 醬油税則及煙草税則取扱ノ件ニ付伺指令 全

第百五十一 菓子税則

● 伺指令

- 西洋菓子課税ノ伺指令 七百四十六
- 菓子税則第八條第十七條及菓子範圍内外區別ノ伺指令 全
- 菓子税則中疑團ノ儀伺指令 七百四十四
- 菓子税則中呼賣ノ儀ニ付伺指令 七百四十八
- 菓子税則中雇人及呼賣ト稱スル者ノ儀伺指令 全
- 菓子營業者仕入鑑札下付方ノ伺指令 七百四十九
- 菓子露店呼賣鑑札下附ノ伺指令 全
- 菓子税則中疑義之廉伺指令 全
- 菓子營業人製造税息納者處分方ノ件ニ付伺指令 七百五十二
- 菓子税則不納處分方ノ伺指令 全
- 菓子税ノ件ニ付伺指令 七百五十三

第百五十二 所得税法

- (一) 所得税施行細則
- (二) 所得税納税者届出ノ書面誤謬訂正申立取扱方

● 伺指令

- 所得税法取扱方ノ伺指令 全
- 所得税取調ノ件ニ付伺指令 七百六十七
- 所得税金達後納税届書誤謬訂正方ノ件ニ付問合回答 全
- 所得税等級金額達後誤謬引直方ノ件ニ付問合回答 全
- 所得金届出高誤謬發見ノ際取扱方ノ伺指令 七百六十八
- 所得税臨時取調掛ノ件ニ付問合回答 全
- 所得税納人轉居セシ者處分方ノ問合 全
- 所得減額免税ノ件ニ付伺指令 七百六十九

●所得稅法第二十三條納期減損ノ件ニ付問合回答

●地方稅沿革要領

第百五十三 地方稅規則

- (一) 營業稅雜種稅ノ種類及制限 七百六十九
- (二) 地方稅ニ關スル寄附及雜收入ノ件 七百七十
- (三) 乘馬飼養令ニ依リ飼養スル乘馬ハ地方稅ヲ賦課セス 七百七十三
- (四) 管內限諸達書及揭示諸費從來官費ニ係ル者支辨方 七百七十五
- (五) 地方稅豫算議案精算報告書式 七百七十六
- (六) 地方稅支出豫算議案及精算報告書式心得方並收入豫算議案及精算報告書式中改正 全
- (七) 營業稅雜種稅課目課額議案書式 七百八十三
- (八) 地方稅豫算精算書調製差出方 七百八十五
- (九) 地方稅豫算議案精算報告書式中戶數割記載方 七百八十七
- (十) 營業鑑札下附及鑑札費支辨方 全
- (十一) 官用ノ船舶車馬へ地方稅ヲ賦課スルヲ得ス 全
- (十二) 皇族所有ノ車馬へ地方稅ヲ賦課スルヲ禁ス 七百八十八

〔十三〕 所有地所在ノ戶長役場所轄内ニ居住セサル時地租地方稅等ヲ納ムル爲メ代人ヲ定メ戶長役場へ届置方

七百八十八

〔十四〕 地方稅經濟ニ關スル樹木拂下處分方

全

〔十五〕 府縣管理ニ管スル飲用水道及公葬墓地維持保存方法經費徵收方法等届出方

全

〔十六〕 郡區吏員給料殘額据置不苦達ヲ廢ス

全

●同指令

●不用ニ屬スル地所建物賣却代金納入方ノ同指令

七百八十九

●地方稅費目ノ同指令

全

●米商會所仲買人へ地方稅賦課ノ件ニ付同指令

全

第百五十四 課稅ニ關スル處分ニ付出訴方

七百九十

○第三章 備荒儲蓄法 預金

第百五十五 備荒儲蓄法

全

(一) 備荒儲蓄金怠納者處分方及免除方

七百九十二

(二) 備荒儲蓄金ニ關シ不服アリテ出訴方

全

(三) 備荒儲蓄法當分沖繩縣へハ施行セス

七百九十三

- 〔四〕 備荒儲蓄金取扱順序ヲ改正ス 七百九十三
- 〔五〕 備荒儲蓄金ヲ定期預ケト爲シ又ハ預ケ金ニ對スル抵當物件 八百
- 〔六〕 公儲金ヲ免除スルハ罹災ノ年度ニ限ル 八百一

● 同指令

● 備荒儲蓄ノ内無定期預金ニ對スル抵當品ノ儀ニ付同指令

● 備荒儲蓄金ニ係ル寄附金ノ件ニ付同指令

● 備荒儲蓄金支出科目疑義ノ件同指令

● 備荒儲蓄金支出科目増加ノ同指令

● 備荒儲蓄金支出科目中潮災救助ノ目設置ノ同指令

【第百五十六】 預金規則

- 〔一〕 社寺教會々社及人民共有ニ係ル預金取扱手續

● 同指令

● 預金規則ノ儀ニ付同指令

○ 第四章 貨幣紙幣 證券兌換銀行券 印紙

類賣捌

八百十三

八百十

八百三

全

全

八百二

全

全

全

● 貨幣諸則沿革要領

【第百五十七】 貨幣條例

- 〔一〕 造幣規則 全 八百十四
- 〔二〕 造幣規則第十三條金銀地金類ヲ輸入シ代リ貨幣拂渡ヲ望ム運賃保險料ヲ定ム 八百二十一
- 〔三〕 貿易銀貨一般ニ通用セシム 全 八百二十六
- 〔四〕 貿易壹圓銀洋銀ト並價 全
- 〔五〕 舊貨幣ノ價格及引換期限 全 八百二十七
- 〔六〕 舊銅貨ノ品位及新貨並金札ノ比較ヲ定ム 全
- 〔七〕 舊鐵錢ノ價位ヲ定ム 八百二十八
- 〔八〕 通用貨幣ノ總テ流通ノ用ヲ缺ク所爲ヲ禁ス 全
- 〔九〕 流通不便ノ金銀銅貨交換方 全
- 〔十〕 舊金銀價格表 八百二十九
- 〔十一〕 舊貨幣交換代金下渡方 八百四十二

【第百五十八】 厩造金銀銅貨紙幣等取扱規則

全

〔一〕 變造紙幣處分方

八百四十三

● 同指令

● 廢造金銀貨幣截斷等處分ノ同指令

全

〔第一百五十九〕 紙幣漸次銀貨ニ交換ス

八百四十四

〔一〕 鑑定ヲ誤リ正貨紙幣斷截シ又ハ描改ノ正札等取扱方

全

〔二〕 銀行紙幣廢造描改處分

全

〔三〕 銀行紙幣合同消却方法

八百四十五

〔四〕 國立銀行損傷紙幣交換各國立銀行本支店ニ於テ取扱方

八百四十六

〔五〕 損傷紙幣交換國庫金取扱所及大藏省爲換方ニ於テ取扱方

八百四十七

〔六〕 損紙幣交換規則

全

〔第一百六十〕 大藏省證券條例

全

〔一〕 大藏省證券條例ニ據リ證券發行ノ事務

八百四十九

〔第一百六十一上〕 兌換銀行券條例

全

〔一〕 日本銀行發行ノ兌換銀行券ノ廢造描改取扱方

八百五十二

〔二〕 日本銀行發行廢造描改ノ兌換銀行券取扱方

全

〔第一百六十一下〕 漙入紙製造取締規則ヲ頒布ス

全

〔一〕 文字畫紋漙入紙製造者届出書ノ式ヲ定ム

八百五十三

● 印紙類賣捌沿革要領

〔第一百六十二〕 印紙類賣下賣捌規則

八百五十四

〔一〕 印紙類賣下賣捌規則取扱手續

八百五十八

〔二〕 賣藥印紙交換規則ヲ定ム

八百六十三

〔三〕 印紙類賣下代金不納ノ者代金納付ノ分手數料ヲ給セス納付金減額

八百六十四

〔四〕 印紙類賣下賣捌取扱手續第八項印紙代延納抵當公債證書價格ヲ定ム

全

〔五〕 訴訟身代限又ハ財産公賣ノ際該印紙類賣上方

八百六十五

〔六〕 印紙類賣捌人ニ人民所持ノ印紙賣渡方

全

〔七〕 煙草印紙交換手續ヲ定ム

八百六十六

● 同指令

● 犯則等ニ依リ沒收ノ物件取扱方ノ同指令

八百六十六

● 煙草印紙ノ件ニ付照會回答

八百六十七

- 需用ノ見込ナキ煙草印紙返納方ノ伺指令 八百六十七
- 損傷印紙交換セシモノ處分方ノ照會回答 八百六十八
- 登記所人民扣所ニ於テ證券印紙賣捌ノ伺指令 全
- 治安裁判所ニ於テ訴訟用印紙賣捌ノ伺指令 全
- 登記印紙取扱方ノ伺指令 八百六十九
- 登記印紙取扱方諸印紙類ニ準シ取扱方等ノ伺指令 全
- 登記印紙受拂收支豫算決算取扱方ノ伺指令 全
- 證券印紙交換ノ伺指令 八百七十

○第五章 公債藩債及貸附

【第百六十三】新舊公債證書發行條例

- 【一】 舊公債證書ノ内貳拾五圓五十圓證書ノ金額ヲ集メ五百圓證書ト交換ヲ許ス 八百八十三
- 【二】 諸公債證書ノ元金拂渡期限ヲ經過シ受取方不申出所有主ノ損失ニ歸シタル證書取扱方 全
- 【三】 諸記名公債ノ元利賦金渡方日本銀行ニ於テ取扱ハシム 八百八十四
- 【四】 新舊金祿中山道鐵道金札引換無記名公債證書及金札引換公債

條例ニ依リ發行シタル諸公債證書ノ取扱方ヲ示ス

- 【五】 新公債金祿公債金札引換公債元金償還ノトキ廣告及通知方 全
 - 【六】 六分利付各種公債交換ヲ得セシム 全
 - 【七】 起業公債證書ヲ整理公債證書ニ交換ノ手續 八百八十五
 - 【八】 諸記名公債證書元金償還ノトキ所有者ヘ通知方 全
 - 【九】 記名公債證書月割利金算出方 全
 - 【十】 記名公債證書ヲ無記名公債證書又ハ六分利付記名公債證書ヲ整理公債證書ニ變換讓賣引換等後見人ヨリ出願ノ取扱方 全
 - 【十一】 諸公債條例改正ニ付債主簿其他諸公債證書取扱上ノ書類日本銀行ヘ引渡方 全
 - 【十二】 紛失消滅ニ係リタル諸公債證書及利札取扱方 八百八十六
 - 【十三】 六分以上利付公債證書ノ元金償還ノトキ本人請求ニ由リ整理公債證書交付ノトキ其期限及手續廣告方 全
- 伺指令
- 諸公債證書讓與ノ節裏面記載方ノ伺指令 全
 - 抵當公債證書不正ノ檢印消除方ノ伺指令 八百八十七
 - 前件ノ儀ニ付再伺指令 八百八十八

- 重罪ノ刑ニ處セラレタル者所有公債證書取扱方 八百八十八
- 當籤又ハ滿期償還公債證書汚染毀損等ノ件ニ付伺指令 八百八十九
- 公債元利賦金報告ノ件ニ付伺指令 全
- 公債利札並利金引繼及還納方ノ伺指令 八百九十
- 公債證書事務引繼ノ件伺指令 全

第百六十四 金祿公債證書發行條例

- (一) 神官配當祿公債證書 八百九十一
- (二) 金祿公債證書別途ニ下付ス 八百九十六
- (三) 金祿公債證書ノ内五拾圓貳拾五圓拾圓等ヲ集メテ五百圓證書ト交換ヲ許ス 八百九十八

●伺指令

- 金祿公債證書利札請求方ノ上申指令 全

第百六十五 起業公債

- (一) 起業公債證書發行條例 八百九十九
- (二) 起業公債證書條例改正ニ付債主簿其他同公債證書取扱上ノ書類日本銀行ヘ引渡方 九百二

第百六十六 金札引換公債條例

- (一) 金札引換無記名公債證書條例 九百六
- (二) 中山道公債證書條例 九百八

第百六十七 海軍公債證書條例

- (一) 海軍公債證書發行手續 九百十三
- (二) 海軍公債利子拂渡其他取扱方 九百十五

第百六十八 整理公債條例

- (一) 整理公債取扱順序 九百二十二

●伺指令

- 整理海軍公債證書書換方ノ伺指令 九百二十五
- 整理海軍公債未了年者所有ノ伺指令 九百二十六
- 整理海軍公債證書交換件伺指令 全
- 整理公債證書無記名ヲ記名ニ變換其他取扱方ノ伺指令 九百二十七
- 整理公債取扱方ノ伺指令 全

第百六十九 鐵道費補充公債條例

全

- 【第一百七十】 舊藩々貫屬祿高引直等ノ願採用致サス 九百二十八
- 〔一〕 舊藩廳ニ於テ祿券賣買差許シ現場賣買シタル家
祿ノ向公債證書ヲ以テ賜リ方 全
- 〔二〕 舊藩主ニ於テ士民ヘ分與セシ賞典祿處分方 九百二十九
- 【第一百七十一】 舊藩々負債償還處分ヲ定ム 全
- 〔一〕 舊藩ニ於テ郷印證文ヲ以テ借入レ村方ヨリ舊藩
ヘ轉貸セシ分公債處分ニ及フ 九百三十二
- 〔二〕 舊諸藩ベ調達金有之向申出期限 全
- 〔三〕 舊琉球藩負債償還並貸付金穀取立方ヲ定ム 九百三十三
- 〔四〕 戊辰ノ際諸軍出張先或ハ御用先ニ於テ調達金又
ハ獻金獻米等取調期限後請求ノ出願採用不相成 全
- 【第一百七十二】 舊藩藩ニ於テ從前貸附金穀取立法則 九百三十四
- 〔一〕 舊藩々貸下金ノ内年賦返納ノ分一時返納利引算則方 九百三十七
- 〔二〕 貸下金其他諸上納金未納者他ノ負債ノ爲メ身代限ノ處分ヲ受
クルトキ取扱方 九百三十八

- 〔三〕 諸貸付金整理順序 九百三十九
- 〔四〕 貸付金ヲ徵收スル納額告知書年度記載ニ不及件 九百四十一

○第六章 銀行 爲替 手形

●銀行條例沿革要領

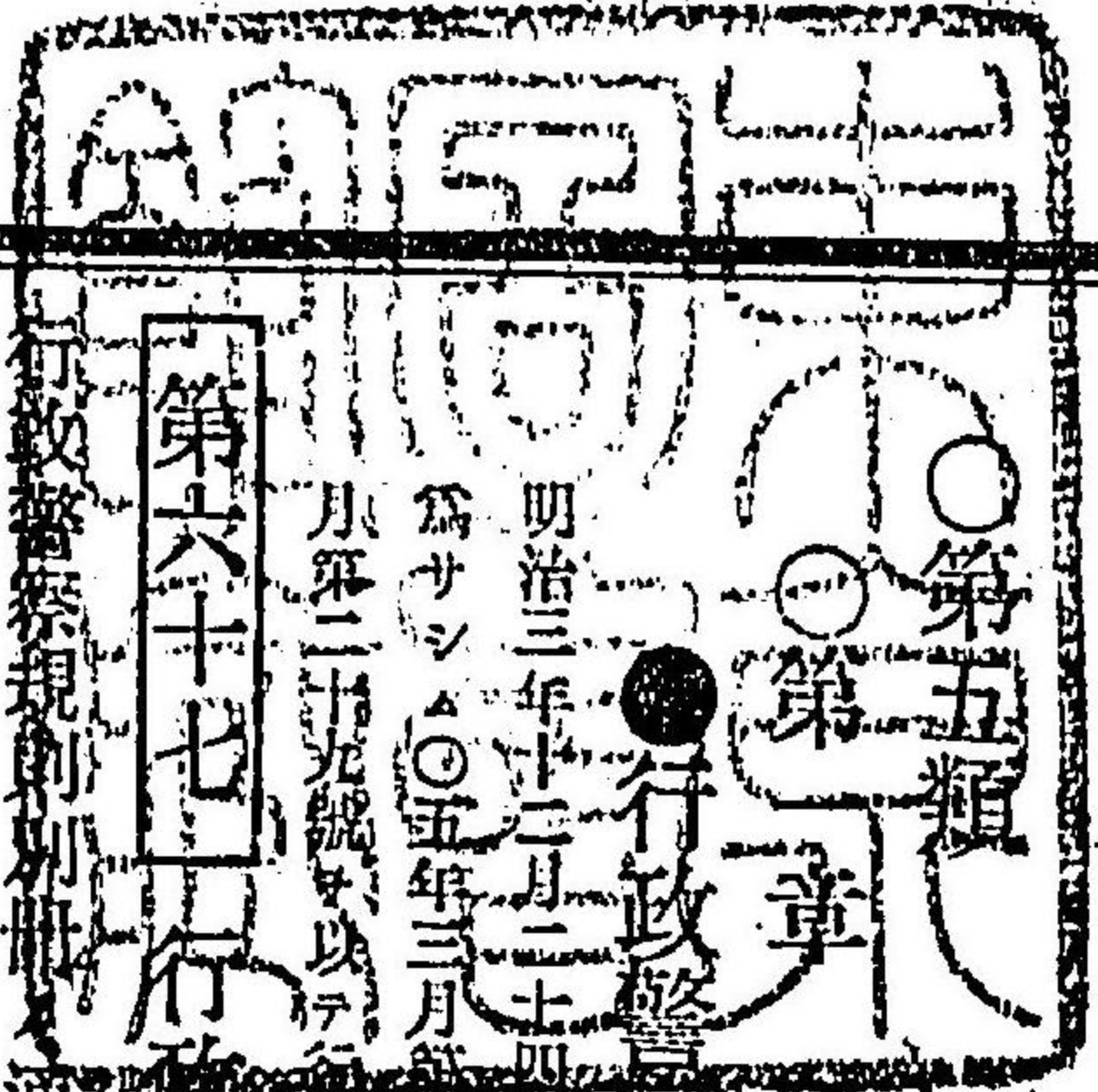
- 【第一百七十三】 日本銀行條例 全
- 【第一百七十四】 國立銀行條例 全
- 〔一〕 國立銀行稅額ヲ定ム 九百四十五
- 〔二〕 鎖店銀行貸金其他ノ證書中跡引受人裏書繼書式及其濟方處分
ヲ定ム 九百七十六
- 【第一百七十五】 橫濱正金銀行條例 全
- 【第一百七十六】 爲替手形約束手形條例 九百八十二
- 〔一〕 爲替手形約束手形ニ關スル書式ヲ示ス 九百八十九

正訂 日本類典第二卷目次終

第五類

第一章

行政警察 警察官吏 警察費



明治三年十二月二十四日布告ヲ以テ三府並開港場取締心得ヲ定ム○同日布告シテ藩縣ニ於テモ三府ニ准シテ取締ヲ爲サシム○五年三月第一號布告ヲ以テ三年十二月布告三府開港場取締規則ハ諸縣ニ於テモ適用セシム○八年三月第二十九號ヲ以テ行政警察規則ヲ定ム

第六十七 行政警察規則 明治八年三月七日 太政官達第二十九號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

行政警察規則別冊ニ通相定候條本年四月一日ヨリ施行可致就テハ從前捕亡吏取締組番人等ノ名稱ヲ廢シ巡查ト改稱可致此旨相達候事(八年十月第百八十三號達ヲ以テ(巡卒)トアルハ總テ巡查ト改ム)

但捕亡費ヲ改テ警察費ト稱シ定額ハ先從前ノ通ニ候條出張所並吏員配置ノ儀ハ適宜タルヘク尤差向規則ノ通施行難致事情有之向ハ其段内務省へ可申出事(別冊)

行政警察規則

第五類 第一章 行政警察 警察官吏 警察費

№ 21103 22

第一章 警察職務之事

第一條 行政警察ノ趣意ナル人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ

第二條 各府東京府ヲ除ク縣長官其事務ヲ提掌シ警部ヲシテ之ヲ分掌セシメ便宜各所ニ出張シ巡查ヲシテ各部ニ分派シ巡邏巡察セシム八年十二月第二百六號達ヲ以テ全條改正

第三條 其職務ヲ大別シテ四件トス

第一 人民ノ妨害ヲ防護スル事

第二 健康ヲ看護スル事

第三 放蕩淫逸ヲ制止スル事

第四 國法ヲ犯サントスル者ヲ隱密中ニ探索警防スル事

第四條 行政警察豫防ノ力及ハスシテ法律ニ背ク者アルハ其犯人ヲ探索逮捕スルハ司法警察ノ職務トス之ヲ行政警察ノ官ニ於テ行フハ檢事章程並司法警察規則ニ照スヘシ

第五條 警察官吏ハ公同一般ノ裨益ヲ計リ一家隱微ノ小惡ヲ發シテ可ラス且一己ノ功ヲ貪リ警察一般ノ目的ヲ愆ル可ラス八年十二月第二百六號達ヲ以テ第五條六條七條ヲ刪除シ第八條ヲ第五條トス

第二章 警部勤務ノ事同上本章ヲ増補ス

第一條 各出張所ニ派出セル警部ハ時々本廳ニ參會シ事務ヲ商議シ處分異同ナキヲ要スヘシ

第二條 凡ソ布告布達ハ其旨趣ヲ巡查ニ教示シ誤解スルモノナキヲ要スヘシ

第三條 時々區内ヲ巡視シ其景況並ニ巡查ノ勤怠正否ヲ察スヘシ區内ノ人員戶數職業等ハ成丈ク詳知スルヲ要スヘシ

第四條 區内ノ事故ハ月報ヲ以テ長官ニ報告スヘシ若シ非常急緊ノ事件アレハ速ニ報知スヘシ時機ニ因リ直ニ警保頭ニ報告スルヲ得ヘシ

第五條 凡ソ警察ノ事ニ付テハ直ニ他府縣ノ警察官ニ報知若シハ照會スルヲ得ヘシ

第六條 達又ハ訊問等ノコアルニ付テハ勅奏官及ヒ華族並有位ノ者ハ家令家扶執事ヲ呼出スヘシ判任官以下士族平民ハ直ニ本人ヲ呼出スヲ得ヘシ

第七條 違警犯人ハ其犯狀ヲ按シ違警條目ニヨリ處斷シテ後長官ニ具申シ其疑按アルモノハ長官ノ指揮ヲ受ケテ處分スヘシ

第三章 巡查勤方之事同上第二章ヲ三章トス

第一條 第一章第三條ヲ以テ職務ノ大目的トナスヘキ事

第二條 持區内ノ居民並道路行人ヨリ困難出來シテ救護ヲ乞フハ何時ニテモ乞ニ應シ或ハ救護ヲ乞ハサルモ見聞次第力ヲ盡シテ防護スヘシ

但街路其外ニテ人命ニ係ル危難有之節ハ瞬速救護シ最寄ノ醫ヲ頼ミ治療ノ手續懇切ニ取計フヘシ

第三條 老幼癡疾婦人等ハ就中注意シテ保護スヘシ

第四條 持區内ノ大小往來筋及市街村落ノ位置區長戶長ノ宅等盡ク詳知スヘシ

第五類 第一章 行政警察 警察官吏 警察費

第五條 持区内ノ戸口男女老幼及其職業平生ノ人トナリニ至迄チ注意シ若シ無産體ノ者集
合スルカ又ハ怪シキ者ト認ルキハ常ニ注目シテ其舉動ヲ察スヘシ

第六條 持区内ヘ他ヨリ移リ來ル者アラハ前條ニ隨テ速ニ之ヲ探知スヘシ
但右等ノ事ニ付權威ヲ以テ其人ヲ呼出ス等ノ儀ハ決シテ有之間敷勉メテ當人ノ覺知セ
サル様隱密ニ探偵スルヲ以テ警察ノ本意トス若已ムヲ得サルコトアルキハ自ラ行テ尋問
スヘシ

第七條 布告布達等總テ新令ノ出ルニ付人心ノ信否ヲ考察シテ警部ニ報知スヘシ 同上(掛官
ハ(警部)ト改
以下皆同シ)

第八條 巡邏中職務ニ關スル大小ノ事故ハ逐一手帖ニ記シ警部ニ報知スヘシ

第九條 非番タリト合圖アルカ又ハ臨時呼出テ受レハ早速其場ニ駆付ヘシ平常其心掛アル
ヲ要ス

第十條 往來筋ノ妨害トナルヘキ物ヲ見ルキハ速ニ之ヲ取除カシムヘシ

第十一條 道路ノ荒蕪溝渠ノ汚塞及不潔物アレハ之ヲ戸長ニ告ケ掃除ノ手續ヲナスヘシ

第十二條 官舎橋梁道路其他公有之建造物破損スルキハ警部ニ報知スヘシ

第十三條 行人ニ道路或ハ其他ノ事ヲ尋問セラル、キハ丁寧ニ教示スヘシ

第十四條 稚兒道ニ迷フアラハ之ヲ保護シ其居所不分明ナル者ハ之ヲ其地ノ戸長ニ預ケ之
ヲ警部ニ報知スヘシ若シ其居所分明ニシテ其持区内ナラハ直ニ之ヲ送致シ他ノ區ナラハ

其地ノ區戸長ニ掛合送致ノ手續ヲナスヘシ

第十五條 芝居其他群集ノ所ニハ出張シテ亂雜ヲ防制スヘシ

第十六條 放レ牛馬アレハ之ヲ便宜ノ所ニ留メ置キ其主分明ナル者ハ之ヲ附與シ然ラサル
ハ警部ノ指圖ヲ受ヘシ

第十七條 路上酒ニ酔ヒ失心スル者ハ之ヲ注意シ又ハ最寄人民ニ介抱セシメ其暴動スル者
ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡スヘシ

第十八條 路上狂癪人アレハ穩ニ之ヲ介抱シ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡スヘ
シ

第十九條 路上ニ狂犬アレハ之ヲ打殺シ戸長ニ告ケ之ヲ取棄ル手續ヲナスヘシ

第二十條 道路河渠ニ死屍アルキハ其摸樣ヲ檢シ警部ニ報知シ指揮ヲ受クルヘシ

第二十一條 獸畜ノ死骸アルキハ速ニ戸長ニ告ケ之ヲ取除ク手續ヲナスヘシ

第二十二條 鳥獸魚類其他飲食物ヲ販賣スル店ニ賈造腐敗ノ品之アルヤヲ常ニ檢査スヘシ

第二十三條 人家夜間戸締油斷ノ者アレハ速ニ之ヲ其主ニ知ラスヘシ

第二十四條 怪キ者ヲ見認ルキハ取糺シテ様子ニ依リ持区内出張所ニ連行或ハ警部ニ密報シ
差圖ヲ受クヘシ倉卒ノ取計アル可ラス

第二十五條 失火ノ節ハ巡查失火ノ合圖ヲナシ一般ニ知ラシム且燒失ニ罹ル家ハ其家人ヲ助
ケ消防ノ事モ勤ムヘシ消防人已ニ集ルニ至レハ勉テ亂雜及ヒ竊盜ヲ防ク事ニ注意スヘシ

第廿六條 同斷ノ節第一ニ其人ヲ救ヒ出シ次ニ書類金貨等ヲ出スヘシ又官廳其他區戶長等ノ宅ハ文書第一ニ取出スヘシ

第四章 巡查心得之事 同上第三章
第四章トス

第一條 專ラ行儀作法ヲ正クシ威權ケ間敷儀之ナクシテ區民ノ侮慢ヲ受ケサル様可心掛事

第二條 法度規則ヲ確守シ上官ノ命令ヲ遵奉スヘシ決シテ職外ノ事ヲ議スヘカラサル事

第三條 同勤中ハ一心全體ト心得常ニ謙和温順ヲ旨トシ忠實ヲ以テ交誼ヲ盡シ職務怠ニラサル様互ニ獎勵スヘキ事

第四條 節儉ヲ守リ分限不相應ノ儀致間敷事

第五條 職務上ニ付上官ニ申立ノ事ハ總テ實直ヲ旨トシ愛憎偏倚ノ儀決シテ有之間敷尤後日ニ至リ前言ヲ翻改スル儀無之様可心掛事

第六條 巡邏中道路行人並ニ營業ノ者ノ妨ニ不相成様可心掛事

第七條 往來ノ者ヲ取扱ニハ柔和ヲ旨トシ辨ヘナキ者ハ殊更穩ニ取扱ヒ決シテ凌辱ヲ加ヘ手荒キ處置致間敷事 八年四月第四十七號達ヲ以テ(往來ノ上)ノ(市中)ノ(二字)ヲ刪除

第八條 取調ノ爲メ人家ニ至ル節ハ接對筋總テ懇篤ニ可致但シ公私ノ分ヲ守リ狎レ々々敷儀決テ有之間敷事

第九條 巡邏中私ニ人家ニ立寄候儀ハ勿論徒テニ市店ヲ詠メ職務ヲ怠ル間敷事

第十條 持區内ニテ金譚等頼入レ或ハ物ヲ買ヒ其價ヲ借ル等ノ儀決シテ有之間敷事

第十一條 出勤中醉態ヲ露ハシ又ハ婦女ヘ對シ戯ケ間敷儀等決シテ有之間敷事

第十二條 機密ノ筋ハ勿論職務ニ係リタル事ハ總テ他言致間敷事

第十三條 公事出入等ニハ一切關係致間敷若シ強テ相頼候者アラハ警部ヘ具申スヘキ事

第十四條 官ヨリ相渡サレタル得物ノ外兵器ヲ携ル儀ハ不相成且相渡サレタル品ハ大切ニ取扱フヘキ事

第十五條 得物ハ自身ヲ擁護スル具ト心得猥ニ人ヲ打擲致間敷候勿論兇暴人アリテ手ニ餘リ不得止節ハ格別ノ事

第十六條 巡邏中傍人ノ嘲罵スルコトアリト雖モ必ス恥辱ト思フヘカラス能ク忍耐シテ相當ノ處置ヲナシ決シテ憤怒ノ色ヲ顯シ爭鬪ケ間敷儀致間敷事

第十七條 何様ノ事アリトモ職務上ニ付人民ヨリ謝物トシ金銀物品ヲ受ルコト有可ラサル事

第十八條 巡邏中ハ必ス役服ヲ着用シ能ク容姿ヲ正フシ他人ト同行シテ雜譚スヘカラサル事

第十九條 每朝衣服冠物其他器械ヲ檢査シ常ニ見苦シカラサル様注意スヘキ事

第二十條 屯所ハ每朝清潔ニ掃除スヘキ事

〔一〕憲兵職掌中行政警察事務規程 明治十四年十月二十五日
內務省達乙第五十七號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

〔二〕憲兵職掌中行政警察事務ノ儀別紙ノ通及達示候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

憲兵本部

行政警察ニ關スル事務別紙規程ノ通相心得執行可致此旨相達候事
明治十四年十月二十二日

内務卿山田顯義

行政警察事務規程

第一條 行政警察ハ人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ其事務ヲ大別シテ左ノ四項トス

一 人民ノ妨害ヲ防護スル

二 法章ノ遵奉ヲ視察スル

三 健康ヲ看護スル

四 國事ニ關スル犯罪ヲ未萌ニ搜索警防スル

第二條 行政警察事務執行ノ際司法警察事務ニ牽連スル事アリト雖モ其事務ヲ混同ス可ラス

第三條 行政警察ノ事務ヲ執行スルニ當リ他ノ警察事務官吏其場ニ臨ミタルハ其處分ヲ事務官吏ニ讓ルヘシ

(二) 一般人民ニシテ巡查同様ノ働チナシ死傷セシ者吊祭扶助療治料支給方ヲ定ム 明治十五年十二月十二日

太政官達第六拾七號警視廳府縣(東京府沖繩兩館札幌根室ノ四縣ヲ除ク)

一般人民ニシテ巡查同様ノ働チナシ死傷セシ者吊祭扶助療治料支給方左ノ通相定候條此旨相達候事

吊祭扶助療治料

一 吊祭料

重傷死ニ至ル者へ金三拾圓ヲ給ス親族故舊ナキモノハ月長役場ニ付シ便宜處分セシム

一 遺族扶助料

父母妻子若クハ死者ニ依リ從來生計ヲナセシモノへ金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

一 傷痍扶助料

十六年十一月一日一般人民ニシテ巡查同様ノ働チナシ死傷セシ者ハ十五年第六拾七號警視廳府縣(東京府沖繩兩館札幌根室ノ四縣ヲ除ク)ニ依リ消滅ス

一 等傷 終身不具トナリ自用ハ金六拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
二 等傷 終身不具トナルモ二等傷自用ヲ辨シ得ル者へ金拾圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
一 療治料 傷痍ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

(三) 一般人民ニシテ自家ノ賊難ニ罹リ巡查同様ノ働チナシ死傷スル者吊祭扶助料等給否處分方 明治十一年二月廿八日 内務省達第十七號東京警視本署府縣(東京府ヲ除ク)

一般人民時機不得止場合ニ於テ身ノ危難ヲ不顧巡查同様ノ働チナシ死傷ノ者吊祭及扶助料給與方ニ付明治八年太政官

第百八十六號御達之趣有之候處自家ノ賊難ニ罹リ死傷スル者ハ給與ノ限ニアラス候條此旨爲心得相達候事

但特ニ惡諒ノ事情アツテ救恤セサルヲ得サルモノハ其都度事實具狀可伺出事

(四) 警察及監獄備員職務上死傷セシモノ吊祭扶助療治料支給及支辨方 二十年九月七日 内務省訓令第四十二號廳府縣集治監留監

警察及監獄備員ニシテ職務上死傷セシモノ吊祭扶助療治料ハ十五年第六十七號公達ニ照準支給スヘシ

但警察備員ハ警察費監獄備員ハ監獄費ヨリ支辨スルモノトス

(五) 警察上外國人取扱規則設施スヘキモノ稟議方 明治十四年一月三十一日 内務省達乙第五號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

警察上外國人取扱規則設施ノ次第有之ニ付將來設施スヘキモノハ勿論既ニ設施ノ分ト雖モ至急取調更ニ當省へ稟議可

致此旨相達候事

(六) 警察賞與規則 明治二十一年十月十二日 内務省訓令第二十一號廳府縣

警察賞與規則左ノ通相定ム

十九年司法省訓令(第二百八十一)ノ一項(一)ヲ以テ司法警察ニ關スル細則設置方ヲ定ム

警察賞與規則

第五類 第一章 行政警察 警察官吏 警察費

第一條 警察上功勞アル者ハ本則ニ依リ賞與スヘキモノトス

第二條 警察賞與ヲ分テ左ノ三種トス

甲種 金三圓以上拾五圓以下

乙種 金五圓以下

特別賞 金拾五圓以上三十圓以下

特別賞ハ事ノ重要ニ涉リ功勞ノ特ニ著明ナルモノニ限り之ヲ給スルコトヲ得

第三條 犯罪事件ニ關スル功勞ノ賞與ハ左ノ各項ニ依ル

第一項 左ノ罪犯ヲ現行ノ場合ニ於テ捕獲シ又ハ容易ニ捕獲スルヲ得セシメタル者

甲種

一 國事ニ關スル重罪犯

二 兇徒聚衆ニ關スル重罪犯

三 貨幣偽造變造ニ關スル重罪犯

四 人命ニ關スル重罪犯

五 放火ニ關スル重罪犯

六 強盜ニ關スル重罪犯

乙種

一 貨幣偽造變造ニ關スル輕罪犯

二 竊盜ニ關スル罪犯

第二項 前項ノ罪犯ヲ分明ニ訴出タル者亦前項ノ區別ニ同シ

第三項 第一項ノ場合ニシテ罪犯暴行強迫ヲ以テ抗拒シタルトキハ其難易ニ因リ及第一項ニ掲クル罪犯ニシテ其未

送ノ時ニ訴出タル者ハ其乙種ハ金三圓以上拾圓以下甲種ハ五圓以上貳拾圓以下ノ金額ヲ賞與スルコトヲ得

第四項 前數項ノ外其功勞ノ前數項ニ比シ相下ラサルモノハ其適度ニ應シ賞與スルコトヲ得

第五項 前數項ニ該當ヘルモノト雖モ事ノ最モ輕キモノ又ハ功勞ノ最モ尠キモノ若クハ金額ヲ賞與シ難キ事情アル者ハ賞與ヲ與フルコトヲ得

第四條 水火災其他犯罪ニ關セサル功勞ハ乙種ノ賞ヲ給與スヘシ但其功勞ノ大ナル者ハ甲種ノ賞ヲ與フルコトヲ得

第五條 罪犯判決前ニ逃亡又ハ死去シタル場合若クハ賞與スヘキ事件ノ完結セサル前ト雖モ其疑ナキモノハ賞與ヲ施行スルコトヲ得

第六條 賞與ハ何等ノ場合ヲ間ハス一旦施行シタル後ハ之ヲ變更スルコトヲ得

第七條 本則ニ定メタル賞與ノ金額ハ一事件ノ賞トス但第三條第一項ノ場合ハ一犯罪ニ付テノ賞トス

數事件數罪犯ニテ功勞者一人ナルトキハ數事件數罪犯ノ賞ヲ各別ニ給與スヘシ

一事件若クハ數事件一名若クハ數名ノ罪犯ニシテ功勞者數人ナルトキ之ヲ賞與スルニハ一事件若クハ一犯罪ニ對スル金額又ハ數事件若クハ數罪犯ニ對スル金額ヲ適宜功勞者ノ人員ニ配當給與スヘシ

第八條 功勞者賞與施行前ニ死去シタルトキハ賞與ノ金額ハ親屬ノ最近ナル者ニ給ス若シ親屬ナキトキハ〔戸長〕ニ交付シテ祭祀料ニ充用セシムヘシ

其所在不分明ナルトキ亦同シ但親屬ナキ者ニシテ三十六ヶ月ヲ經過シタルトキハ賞與ヲ施行セス

第九條 公權ヲ剝奪セラレタル者ニハ賞與ヲ與ヘス

第十條 自己又ハ親屬ノ利害ニ關スル事件ニ付テハ賞與ヲ與ヘス但其功勞ノ特ニ著明ニシテ一般ニ公益ヲ及ボスモノハ時宜ニヨリ之ヲ賞與スルコトヲ得其被害者ト利害ヲ共ニスル者亦同シ

第十一條 罪犯其親屬ニ係ルトキハ總テ賞與スルコトヲ得

第十二條 第八條第十條第十一條ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ニ記載シタル者ヲ云フ

第五類 第一章 行政警察 警察官吏 警察費

第十三條 巡查ニシテ左ノ各項ニ該當スル者ハ本則ニ定ムル賞與ノ區別ニ從ヒ甲種以下及特別賞ヲ與フルコトヲ得

第一項 第三條ニ掲ケル罪ヲ捕獲シ又ハ捕獲シ其功勞著シキ者

第二項 前項ニ該當セスト雖モ其功勞ノ前項ニ比シ相下ラサル者

第三項 第四條ニ掲ケル事項及流行病ニ付其功勞著シキ者

第四項 自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救援シタル者

第十四條 巡查罪犯ヲ捕獲シテ功勞アリト雖モ未ダ拘留セサル前ニ逃走セシメタル者ハ賞與スルコトヲ得ス

護送中逃走セシメ其護送者ニ於テ捕獲シタルトキ亦同シ

第十五條 巡查私事旅行中其管内ニ於テ賞與スヘキ功勞アリタルトキハ其職務上ニ於テ爲シタルモノト同一ノ賞ヲ與フヘシ

第十六條 巡查ニシテ一般人民共ニ人命ヲ救援シタルトキハ賞與スヘキ金額ヲ救援者ノ全數ニ分賦シ其巡查ニ關スル金額ヲ賞與スヘシ

第十七條 本則第七條乃至第十一條ハ巡查ノ賞與ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第十八條 巡查ノ賞與ハ其所屬ニ於テ施行シ其他ハ左ノ區別ニヨリ各管轄廳東京府ハニ於テ施行スヘシニ於テ施行スヘシ

第一項 訴ヲ受タル地ノ管轄廳

第二項 罪犯ヲ最初ニ受取タル地ノ管轄廳

第三項 犯罪事件ニ關セサルモノハ其事件ノ生シタル地ノ管轄廳

第十九條 賞與スヘキ事件若クハ功勞者ノ數官廳ニ牽連スルモノハ互ニ協議ヲ盡シ其金額ヲ定メ之ヲ差分シ又ハ功勞ノ多少ニ依リ適宜分割シ各其應ニ於テ賞與スヘシ

第二十條 警部其他警察事務ニ從事スル者ニシテ功勞アルトキハ巡查ノ例ニ準シ賞與スルコトヲ得

第二十一條 特別賞與ヲ行フタルトキハ其都府縣ニ具シ報告スヘシ二十二年一月十六日內務省訓令第二號ヲ以テ本條ヲ改正ス

第二十二條 賞與ノ費額ハ各其所屬ノ經費ヲ以テ支辨スヘシ

〔七〕警察巡閱規則 明治二十年六月十一日 內務省訓令第三十六號 警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

警察巡閱規則左ノ通之ヲ定ム

警察巡閱規則

第一條 本則ハ警察各部ニ於ケル規律ノ強弱、服務ノ勤惰、處務ノ整否、其他法律命令實施ノ狀況ヲ觀察シ警察ノ實効ヲ收メシムルガ爲メニ設ケルモノトス

第二條 巡閱ハ毎年四月五月ノ間ニ於テ東京ニ在テハ警察本署長其他ノ府縣ニ在テハ警部長ヲ以テ之ヲ施行セシムヘシ

第三條 巡閱官ハ左ノ項目ニ就キ其方法ノ如何ヲ查閱スヘキモノトス

- 一 執行事務及其報告ノ方法
- 二 執行官吏ノ配置及警邏
- 三 執行事務ノ監督及警邏ノ監督
- 四 非常召集ノ方法
- 五 司法警察即チ被告入ノ搜查、逮捕、訊問及檢察官ヘ送付ノ手續等
- 六 留置人取扱及遞傳護送
- 七 諸願伺書等ニ對スル諸文書ノ取扱
- 八 違警罪及諸規則違犯者處分
- 九 戸口調査及監視人ノ取扱
- 十 文書統計記録ノ整理
- 十一 服裝姿勢及禮式

第五類 第一章 行政警察 警察官吏 警察費

- 十二 教習及訓授
- 十三 會計經理及被服給與
- 十四 警察署分署派出所及留置場ノ構造裝置
- 十五 火災消防及器具ノ使用
- 十六 警察上緊要ノ器具
- 十七 集會ニ關スル取締
- 十八 衛生警察ニ傳染病ノ撲滅ノ方法及衛生ニ關スル諸般ノ取締
- 十九 交通取締即チ道路及舟車ノ狀況等
- 二十 衛生風俗及公安ニ關スル營業取締殊ニ料理店貸座敷宿屋古物商賣商及危險物賣買商等
- 第四條 巡閱官ハ警察官吏ノ風儀動作其他人民ニ對スル關係若クハ過度ナル派費チナスチ視察スルモノトス
- 第五條 警察處務ニ關スル便否及ヒ警察官ノ處分ニ關スル意見チ巡閱官ニ申告スルモノアルトキハ之ヲ受理査閱スヘシ
- 第六條 巡閱官巡閱チ終レハ其狀況ヲ盡シ意見ヲ付シ巡閱中ニ係ル日誌ヲ添ヘ警視總監又ハ知事ニ復命シ警視總監又ハ知事ハ其概況ヲ內務大臣ニ報告スヘシ

● 伺指令

● 警部警部補ニシテ職務上負傷者療治料支給ノ伺指令 明治十八年五月二十二日 大分縣伺

警部警部補ニシテ貨幣運送放火人殺強盜其他ノ行兇者逮捕ニ際シ非常ニ盡力シ遂ニ負傷 明治十七年第五號公達官
ノセシヨノアル時ハ明治八年第三號公達吊祭扶助療治料規則ニ照準シ相當療治料支給方取計道ヲ御届ケ及ヒ可然
哉

內務省指令 明治十八年八月三十一日

警部警部補ノ等級ハ十九年七月勅令第五拾五號ニ依リ消滅ス(第一項參看)

伺ノ趣警察官職務上負傷シタル者ハハ職員ノ由立書ニ山リ傷痕ノ輕重療養ノ事體ニ從ヒ療治料實費ヲ以テ警部給與ヨリ支給スヘシ事

但施行例ノ上ハ明治十七年當省乙第貳拾貳號ニ據リ届出ヘシ

第六十八

警部巡查ノ等級ヲ廢シ俸給ヲ定ム

明治十四年十二月二十八日 太政官達第百十一號府縣(東京府ヲ除ク)

警部巡查ノ等級ヲ廢シ俸給左ノ通相定候條此旨相達候事

但巡查奉職滿九年以上十二年以下ハ月給拾貳圓滿十二年以上ハ月給拾五圓ヲ給スルコトヲ得 十九年二月二十四日(同廿五日布告) 內閣達第十三號ヲ以テ但書ヲ追加ス

判	部	任	等	外
警	部	警	部	補
月	給	月	給	月
(零ス)		(零ス)		拾四九圓八圓七圓六圓
				給

(一) 巡查召募方 明治十六年三月十七日 內務省達乙第十一號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

明治八年 十二 當省乙第百六十八號達中巡查召募規則並檢査表名額式相廢候條巡查召募方ハ各廳ニ於テ適宜ノ方法ヲ設ケ將來警察上ニ障害ヲ生セサル様注意取計ヘシ此旨相達候事

但本文適宜ノ方法ヲ取設ケタル節ハ當省ヘ届出ヘシ

〔二〕巡査懲罰例改正 明治九年八月五日

内務省達乙第十二號廳府縣(東京府ヲ除ク)

別紙

巡査懲罰例

- 第一條 凡職務之規則ニ違背シ及ヒ怠慢過誤アル者ハ其情狀ヲ密按シ俸給一ヶ月百分ノ一ヨリ少カラス一ヶ月ヨリ多カラサル罰金ヲ科シ輕キ者ハ何賞ニ止ム
- 第二條 凡犯狀ノ職務ヲ耻カシムルニ係ル者ハ免職ス
- 第三條 凡罰金未タ完納セサル中免職死亡等ニ係ル者ハ追徴スルコトヲ免ス
- 第四條 凡罰金ハ毎月ノ俸金ヲ控除シテ完納セシム
但月俸ノ三分一ヲ過クルコトヲ得ス
- 第五條 凡官物ヲ遺失及毀損スル者ハ相當ノ罰金ヲ科シ尙其代價ヲ賠償セシム

〔三〕巡査看守給假概則 明治十八年七月三十日

内務省達番外警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

但本文ニ抵觸スル從前ノ指令ハ取消候事

巡査看守休暇概則

- 第一條 巡査看守ハ常ニ定員ノ充足ヲ要スルヲ以テ休暇ヲ許サルヘキモノナレモ其勤務上差支ナキニ於テハ皆勤者ニ限り特ニ慰勞ノ爲メ休暇ヲ與ルコトヲ得
- 第二條 休暇ノ日數ハ左ノ割合ニ從テ
一ヶ年間皆勤ノ者 三週間
半ヶ年間皆勤ノ者 壹週間

一ヶ年間皆勤ノ者

三週間

壹週間

第三條 非番父母祭日及職務上負傷者ノ欠勤ハ欠勤日數ニ算入セス

第四條 休暇日數ハ數年ニ通算シテ併與スルヲ得ス

● 伺指令

● 巡査看守再勤ノ件ニ付伺指令 明治二十年四月二十三日

神奈川縣伺

本月十九日閣令第九號ヲ以テ官吏辭職シタル者ハ滿一年ヲ經過シタル後ニ非サレハ再ヒ就職スルヲ許サス云々御達相成候處巡査看守ノ如キ奉職誓約期限アルモノト雖モ辭職後滿一年ヲ經サレハ就職不相成候ニ可有之哉巡査看守ハ從來再勤ノ者多キニ居ルモ尙志願者少ク爲メニ其缺員ヲ補フニ汲々タル現況ニ有之然ルニ該閣令ニ依ルモノトスルトキハ益々志願者之ク管タニ缺員ニ差支ヘアルノミナラス適當ノ人物ヲ得難ク義ト被考候右相伺候

内務省指令 明治二十年五月十四日

書而伺之趣巡査看守ハ閣令第九號ニ依ルノ限リニアラス

第六十九

巡査ニ帶劔ヲ許ス 明治十五年十二月二日

太政官達第六十三號廳府縣

自今巡査ニ帶劔セシムルコトヲ得ヘシ此旨相達候事

〔二〕巡査帶劔心得 明治十五年十二月二十二日

内務省達乙第七十一號廳府縣(東京府ヲ除ク)

今般第六十三號ヲ以テ巡査ニ帶劔セシムル儀公達相成候ニ付テハ左ノ二項可心得此旨相達候事

但調製費用ハ警察費ヲ以テ支辨ス可シ

一劔ハ日本刀ニシテ製作及ヒ革帶ハ圖ノ如シ

一 帶劍者ハ明治八年第二十九號公達行政警察規則第四章第十五條ノ旨趣ニ基キ尙ホ一層慎重シ兇賊逮捕ノ際ト雖モ不
得已場合ニ非サレハ拔劍スルヲ得ス

(二) 巡查帶劍心得方ノ再達 明治十七年一月二十一日 內務省達乙第三號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

明治十五年當省乙第七十一號ヲ以テ巡查帶劍者不得已場合ニ非サレハ拔劍スルヲ得サル旨相達置候處尙ホ左ノ各條ノ
通可相心得此旨更ニ相達候事

但第一條ノ場合ニ非ラヌシテ傷害スルニ於テハ假令過誤ニ出ルモ都テ注術ノ處分ニ付スヘシ
巡查帶劍心得方

第一條 帶劍ハ左ノ場合ノ外拔劍スルヲ得ス

- 一 兇器ヲ持シ人ノ身體財產ニ對シ暴行ヲ爲シ拔劍スルニ非サレハ保護スルニ術ナキハ
- 一 暴行人兇器ヲ持シ拔劍スルニ非サレハ防禦スルニ術ナキハ
- 一 犯人逮捕ノ時又ハ逃囚追捕ニ際シ兇器ヲ持シテ抗拒シ拔劍スルニ非サレハ防禦スルニ術ナキハ
- 第二條 前各項不得止場合ニ際シ拔劍スト雖モ兇人畏服ノ摸樣アルニ於テハ穩ニ取押フヘシ
- 第三條 不得止場合ニ際シ拔劍スト雖モ關係ナキ者ニ負傷セサル様深ク注意スヘシ
- 第四條 拔劍シタル時ハ兇人ヲ傷スルト否トニ拘ハラヌ其景況ヲ速ニ所屬長ニ具申スヘシ

第七十 警察官吏禮式 明治十九年九月二十七日

警察官吏禮式左ノ通之ヲ定ム 內務省令第十八號廳府縣(東京府ヲ除ク)

警察官吏禮式

第一條 警察官吏制裝ヲ爲シタルトキハ以下各條ニ從ヒ禮式ヲ行フヘシ

第二條 凡ソ禮式ヲ行フニハ姿勢ヲ正シ禮式ヲ受クベキ人ニ注目スベシ

第三條 禮式ヲ別ツコト左ノ如シ

一 最敬禮

二 敬禮

第四條 最敬禮ハ五步前ニ於テ正面ノ方向ヲ取リテ直立シ兩足ヲ整ヘ兩手ヲ垂下シ首ヲ禮
式ヲ受クベキ人ニ對向シ其人ノ通過シ了ルノ間之ニ注目スベシ

警部補以上ニ在テハ前項ノ外仍ホ禮式ヲ受クベキ人ノ正面ニ來リタルトキ右手ヲ舉テ帽
ニ當ツベシ

第五條 敬禮ハ禮式ヲ受クベキ人ニ對シ五步前ニ於テ左手ヲ垂下シ右手ヲ舉ケ五指ヲ整閉
シ其第一關節ヲ帽ノ下端ニ當テ之ニ注目スベシ

第六條 警部補以上ハ 天皇三后皇太子及皇族ニ對シテ最敬禮ヲ行フベシ

馬上ニ在ルモノハ正面ノ方向ヲ取リ馬ヲ駐メ禮式ヲ行フベシ道路狹隘ニシテ之ヲ爲シ得
ベカラザルトキハ輕テ縮メテ馬首ヲ舉ケ通過ノ際右手ヲ舉ケ帽ニ當ツベシ

內閣總理大臣各省大臣正式勅使及東京ニ在テハ警視總監東京府知事其他ノ府縣ニテハ所
屬ノ知事並ニ上班ノ警察官ニ對シテ敬禮ヲ行フヘシ

第七條 巡查ハ 天皇三后皇太子皇族內閣總理大臣各省大臣正式勅使及東京ニ在テハ警視
總監東京府知事其他ノ府縣ニ在テハ所屬ノ知事ニ對シ最敬禮ヲ行ヒ其他上班ノ警察官ニ

ハ敬禮ヲ行フヘシ

第八條 本邦駐在ノ各國公使タルコトヲ認知シタルトキハ警部補以上ニ在テハ敬禮ヲ行ヒ
巡查ハ最敬禮ヲ行フヘシ

第九條 物品ヲ携帶シ相當ノ禮ヲ行フ能ハサルトキハ禮式ヲ受クヘキ人ニ行逢フタル際之
ニ注目シ若シ一手ニ携帶スルトキハ他ノ一手ハ之ヲ垂下スヘシ
帽ヲ冠セサルトキ亦之ニ注目シ兩手ヲ垂下スヘシ

第十條 駐立スル際禮式ヲ受クベキ人ノ通過スルトキハ正面ノ方向ヲ取り其儘兩手ヲ垂下
シ直立スヘシ若シ椅子ニ倚リタルトキハ起立シテ本文ノ禮式ヲ行フヘシ

第十一條 整列シタルトキ又ハ隊伍ヲ爲シ行進スルトキハ其指揮ヲ掌ル者ノミ相當ノ禮式
ヲ行ヒ其他ノ者ハ禮式ヲ受クベキ人ニ注目スベシ

第十二條 同班警察官吏ハ互ニ敬禮ヲ行フヘシ

第十三條 警衛消防囚徒護送其他特別ノ注意ヲ要スベキ職務ニ従事スルトキハ禮式ヲ行フ
ノ限ニアラス

第七十一 巡查看守俸給支給規則

明治十九年十月六日
內務省令第二十三號廳府縣集治監假留監

巡查看守俸給支給規則左ノ通相定ム
但來十一月一日ヨリ施行スヘシ

巡查看守俸給支給規則

第一條 巡查看守ノ月俸ハ毎月二十八日ヲ以テ支給ノ定日トス但休日ニ當ルキハ繰上トス

第二條 巡查教習中ハ認可ヲ經テ定額ノ俸給ヲ減少支給スルコトヲ得

第三條 免職ノトキハ當月分ノ俸給日割ヲ以テ支給スヘシ

第四條 願濟休暇旅行ノ者及ヒ私事ノ故障(自己ノ病氣ヲ除ク)ニ由リ出署セサルモノ日數
二十日後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減ズルモノトス

第五條 豫備及後備軍籍ニアル者召集ノ節其出發ノ日ヨリ歸署ノ前日迄ハ俸給ヲ支給セス

第六條 右ニ掲グルモノ、外ハ判任官俸給支給細則ニ依ル

第七十二 巡查看守給助例

明治十五年七月十七日
太政官達第四拾壹號警視廳府縣(東京府沖繩函館札

幌根室四縣
ヲ除ク)

巡查看守給助例別紙ノ通相定候條各地方ニ於テ給助金額ヲ定メ內務卿ノ認可ヲ經テ施行可
致此旨相達候事

但實施ノ府縣ハ八年一月第三號達并九年八月第八拾號達別表中免職歸國旅費ハ相廢候儀ト相
心得ベシ

(別紙)

巡查看守給助例

第一條 給助ハ退職給助傷痕給助死亡給助療治料祭祀料ノ五種トス

第二條 給助ヲ與ル者ハ左ノ如シ

- 一 退職給助 勤績^{巡査ヨリ看守ヨリ}滿五年以上ニシテ退職スル者ニハ一時之ヲ給シ
滿十年以上ニシテ退職スル者ニハ終身之ヲ給ス
- 二 傷痕給助 職務ノ爲メ負傷スル者ニ終身之ヲ給ス
- 三 死亡給助 職務ノ爲メ重傷死ニ至ル者及ヒ負傷後其傷痕ニ原シテ死亡スル者又ハ職務上傳染病ニ罹リ死亡スル者ノ遺族ニ之ヲ給ス
- 四 療治料職務ノ爲メ負傷シ若クハ傳染病ニ罹ル者ニ之ヲ給ス
- 五 祭祀料奉職中死亡スル者ニ之ヲ給ス

第三條 退職給助ノ額

- 一 勤績滿五年ノ者ハ一時金貳拾圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿六年以上九年迄ハ一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ増給ス
- 二 勤績滿十年ノ者ハ年金貳拾五圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿十一年以上ハ一年毎ニ金五拾錢ヨリ少カラス壹圓ヨリ多カラサル額ヲ増給ス

第四條 傷痕給助ノ額

- 一 一等傷^{終身不具トナリ自ヲ辨スル能ハサル者}ハ年金三拾圓ヨリ少カラス四拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

二 二等傷^{終身不具トナリ自ヲ辨シ得ル者}ハ年金貳拾圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第五條 死亡給助ノ額

- 一 寡婦又ハ相續ノ孤兒アル時ハ年金三拾圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス寡婦再嫁シ孤兒二十歳ニ至レハ廢止ス但寡婦アレハ孤兒ニ給セス
 - 二 寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受ル者ナシ祖父母又ハ二十歳未滿ノ兄弟姉妹ニシテ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシ者アルトキハ一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
 - 三 相續者タル孤兒滿二十歳ニ至ルモ癡篤疾ナルトキハ年金ヲ廢止スルニ際シ一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
- 第六條 療治料ハ傷痕又ハ病症ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス
- 第七條 祭祀料
- 一 奉職一年未滿ニシテ死亡スル者ハ一時金拾圓ヨリ少カラス拾五圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿一年以上一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ増給ス
 - 二 職務ノ爲メ死亡スル者ハ前項ノ外一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
- 第八條 左ノ各項ニ該ル者ハ給助ヲ受ルヲ得ス

一 公權ヲ剝奪セラレタル者

二 懲罰ニヨリ免職セラレタル者

第九條 左ノ各項ニ該ル者ハ其時間給助ヲ停止ス

一 俸給ヲ受ルノ官職ニ就キタル者

二 公權ヲ停止セラレタル者

三 失踪シタル者

四 許可ヲ得スシテ外國ニ出テ一年以上歸朝セサル者

(一) 人員減少等ニテ免職ノ者一時慰勞金支給方

明治十五年十二月十二日
太政官達第六拾六號警視廳府縣(東京府沖繩函館札幌

室四縣ヲ除ク)

本年七月第四拾壹號ヲ以テ巡查看守給助例相違候處右實施ノ府縣ニ於テ人員減少等ニ因リ免職スルコトアルトキ奉職五年未滿ノ者ハ免職當日迄ノ勤績年數ニ應シ滿年賜金ノ例ニ據リ一時慰勞金トシテ支給スヘシ此旨相違候事

(二) 巡查看守給助例第二條第一項勤績割註心得方

明治十五年十二月十五日
内務省達乙第六拾八號警視廳府縣(東京府沖繩函館札幌根室四縣ヲ除ク)

本年七月第四十一號公達巡查看守給助例第二條第一項勤績割註ノ趣ハ全ク一地方内轉任スル者ニ限ル義ニ付此旨爲心得相違候事

(三) 巡查看守給助例施行期限

明治十九年二月二十六日
内務省達甲第七號府縣(東京府及沖繩縣ヲ除ク)

明治十五年七月第四十一號公達巡查看守給助例ノ儀未タ施行セサル地方モ有之候處明治二十年度ヨリ施行スヘシ

(四) 巡查看守給助例中年金支給方

明治二十年四月七日
内務省訓令第二十三號廳府縣集治監假留監

巡查看守給助例中年金ハ左ノ各項ニ據リ支給スヘシ

一年金ハ毎年三月及九月ニ於テ其月ヨリ前六箇月ハ現月數ヲ以テ計算ス分ヲ支給スヘシ

一年金ハ出職又ハ死亡又ハ傷疾ノ翌月ヨリ支給スヘシ

一年金ヲ受ケタル者本例第八條第一項及第九條ニ該當スルトキハ日割ヲ以テ支給スヘシ

一年金ヲ受ケタル者死亡又ハ本例第五條第一項後段ニ該當スルトキハ其月分全額ヲ支給スヘシ

● 伺指令

● 巡查看守給助金額ノ伺指令

明治十九年二月八日
福井縣伺

明治十五年第四十一號公達巡查看守給助例來ル二十年度ヨリ實施可致旨本年本甲第七號ヲ以テ御達相成候ニ付テハ給助金額別表ノ通相定メ施行致度候條御認可相成度(別表略ス)

一年金支給計算方ハ其年額ヲ月額ニシ退職者死亡者ハ其翌日傷疾者ハ傷等確定ノ日ヲ以テ其月ヲ十五日前後二分チ全額又ハ半額ヲ支給ス其給與ヲ止ムル時モ亦同シ

内務省指令 明治十九年十二月二十一日

書面伺ノ趣認可候事

但年金支給方ハ退職及死亡又ハ傷疾等ノ翌月ヨリ支給スヘシト雖モ其給與ヲ止ムル場合ニ於テハ日割ヲ以テ計算スル儀ト心得ヘシ

● 巡查看守一時賜金及給助金ノ伺指令

明治二十年六月十六日
靜岡縣伺

第一條 巡查看守給助例施行ノ期ニ際シ現在職滿二年以上五年未滿ノ者引續キ五年未滿ニシテ判任官ニ轉任セシトキハ給助例施行ノ日ヲ限界トシ明治十五年第四十二號公達ニ據リ一時慰勞金ヲ支給シ得ヘキモノニ候哉又ハ該公達ハ是等ノ場合ニハ適用スル能ハサル儀ト相心得可然哉

第二條 巡查看守現在職滿五年以上ノ者判任官ニ任セシトキハ巡查看守給助例ニ據リ轉任セシ當時ニ於テ給助金ヲ支給シ得ヘキモノニ候哉又ハ他日退官死亡等ノ際支給スヘキ儀ト相心得可然哉

内務省指令 明治二十年七月二十二日

書面兩條トモ前段何之通

但年金ハ給助例第九條第一項ニ據リ直ニ金額ノ支給ヲ停止スヘシ

第七十三 警察官吏司獄官吏神官及等外吏雇員内國旅費概則 明治十九年六月二

十六日 内務省令第一號警視廳府縣集治監假留監

警察官吏司獄官吏神官及等外吏雇員其他内國旅費概則左ノ通相定ム

但來七月一日ヨリ施行スヘシ

警察官吏其他内國旅費概則

第一條 警視警部長警部警部補ノ旅費ハ閣令第十四號内國旅費規則ニ據リ支給スヘシ但警部長ハ四等旅費府縣ノ警部月俸四拾圓以上ハ五等旅費月俸四拾圓未滿及警部補ハ六等旅費ヲ支給スルモノトス

第二條 警視及警部警部補ノ持區内ヲ巡廻スルトキハ旅費ヲ給セス一切ノ費用トシテ日當ヲ支給スヘシ但給與方ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

警視日當 金壹圓貳拾錢

内國旅費規則
ハ第四十二條

警部補日當 金八拾錢

第一項 十二里以上ノ巡廻ハ其日數ニ應ジ日當ヲ支給スヘシ

第二項 六里以上十二里未滿ノ巡廻ハ其日數ニ應ジ日當半額ヲ支給スヘシ

第三項 六里以上ニ涉ル巡廻中滞在スルトキハ其滞在ノ日數ニ應ジ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第四項 六里未滿ノ巡廻ハ日當ヲ給セス但宿泊ヲ要スルトキハ其泊數ニ應ジ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第五項 官有ノ舟車馬及各官廳ニ於テ借入備入タル舟車馬等ニテ派出シ又ハ特ニ舟車馬等ノ實費拂ヲ許可シタルトキハ日數ニ應ジ日當ノ半額ヲ支給スヘシ但里程六里未滿ノトキハ第四項ニ依ル

第六項 水上警察署ノ區内ハ里數ニ拘ハラズ一泊毎ニ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第三條 巡查ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

第一項 巡查ハ甲號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第二項 召募旅費及免職歸國旅費給助例施行ノ期迄ハ一里毎ニ金五錢ヲ支給スヘシ但里程三里未滿ハ給與セス

第三項 免職歸國旅費ハ奉職期限ニ至ラサル者ニハ支給セスト雖モ職務上重傷ヲ受ケ又ハ官ノ都合ニヨリ免職スルモノハ支給スヘシ

第五類 第一章 行政警察 警察官吏 警察費

第四項 職務上ニ死シ及奉職中病死スル者ハ奉職期限ニ拘ハラス歸國旅費ノ額ヲ手當トシテ支給スヘシ

第四條 巡查持區内ヲ巡廻スルトキハ旅費ヲ給セス一切ノ費用トシテ日當ヲ支給スヘシ但其給與方ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

巡查日當 金三十拾錢

第一項 巡廻中宿泊スルトキハ其泊數ニ應シ日當ヲ支給スヘシ

第二項 至急ノ派出ヲ要シ特ニ舟車馬ノ備入ヲ許可シタルトキハ該實費ヲ支拂フヘシ但此場合ニ於テモ日當ハ前項ニ依ル

第五條 集治監及假留監典獄副典獄書記看守長御用掛ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

第一項 典獄ハ閣令第十四號内國旅費規則ノ四等旅費副典獄ハ同五等旅費ヲ支給スヘシ

第二項 書記看守長判任御用掛ハ月俸四拾圓以上ハ閣令第十四號内國旅費規則ノ五等旅費月俸四拾圓未満ハ同六等旅費ヲ支給スヘシ

第六條 官社神官ノ旅費祭主ハ閣令第十四號内國旅費規則ノ三等旅費宮司權宮司ハ同五等旅費禰宜主典宮掌ハ同六等旅費ヲ支給スヘシ

第七條 看守等外吏等外御用掛雇員等ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

第一項 看守等外吏等外御用掛及雇員ハ甲號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第二項 看守ノ召募旅費及免職歸國旅費ハ第三條ノ第二項第三項第四項ニ依ルヘシ

第三項 押丁給仕小使職工等ハ乙號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第四項 華族及從六位勳六等以上ノ士民ヲ公務ニテ旅行セシムルトキハ閣令第十四號内國旅費規則ノ四等旅費其他有位帶勳ノ士民同上ノ節ハ同六等旅費ヲ支給スヘシ

第五項 一般ノ人民同上ノ節ハ甲號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第八條 支給ノ方法ハ第二條及第三條ノ第二項第三項第四項第四條及第七條ノ第二項ヲ除クノ外總テ閣令第十四號内國旅費規則ニ依ルヘシ

第九條 地方ノ情況ニ據リ認可ヲ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルコトヲ得

甲號表

汽 車 賃	汽 船 賃	管外車馬賃	管内車馬賃	管外日當	管内日當
一哩每ニ	一海里每ニ	一里每ニ	一里每ニ	一日每ニ	一日每ニ
金 五 錢	金 五 錢	金 七 錢	金 五 錢	金 五 拾 錢	金 三 拾 錢

乙號表

汽 車 賃	汽 船 賃	陸 路 雜 費	日 當
一哩每ニ	一海里每ニ	一里每ニ	一日每ニ
金 三 錢	金 三 錢	金 四 錢	金 三 拾 錢

(一) 北海道廳警察官吏及神官旅費
明治十九年六月二十六日
 內務省訓令第九號北海道廳

其廳警察官吏及神官ノ旅費ハ當省令第十一號ニ據リ支給スヘシ

〔二〕警察官吏持區内巡回日常支給方 明治二十年四月十三日 内務省訓令第二十五號 府縣警察官吏ニシテ其持區内ヲ巡回スルトキ給與スヘキ日常ハ特ニ其月額ヲ定メ本大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ支給スルコトヲ得

●伺指令

●警部以下區内旅費額支給方ノ伺指令 明治十九年七月五日 岡山縣伺

省令第十一號ヲ以テ警察官吏司獄官吏神官及等外吏員其他内國旅費概則御指定相成候處警部警部補巡查等持區内出張ノ旅費額御定無之右ハ或ル御用向ニテ一ヶ所又ハ二ヶ所へ一時出張スル者ト雖モ均シク巡回ト見做シ第二條及第四條ニ依リ支給スル儀ト相心得可然乎

内務省指令 明治十九年七月二十八日 伺ノ趣持區内ノ旅行ハ渾テ區内日常ヲ支給スル儀ト可心得候事

第七十四 變死ニ係ル屍ヲ警察官吏ニ於テ解剖檢査方 明治十年二月二十一日

布告第二十二號

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏檢査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事方ハ其地方長官ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖檢査セシムルヲ得 右布告候事

十八年内務省
達甲第二十五
號(第百十四
ノ六項)廿一
年文部省告示
第七十號(第
百七十八項)
參看

第七十五 警察費ニ對スル國庫下渡金改定 明治二十一年八月七日公布 勅令第六十一號

朕地方稅中警察費ニ對スル國庫下渡金改定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

內閣總理大臣 伯耆黑田清隆
內務大臣 伯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第六十一號

明治十四年二月第十六號布告府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ割合左ノ通改定ス

第一條 地方稅中警察費及警察廳舎建築修繕費ニ對スル國庫下渡金ノ割合ハ東京府ハ其總高ノ拾分ノ四トシ其他ノ府縣(沖繩縣ヲ除ク)ハ六分ノ一トス

第二條 前條割合ノ外警察官吏並ニ之ニ準スヘキ備内外國人ノ諸給與警視廳ノ應費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス

第三條 本令ハ明治二十一年度ヨリ施行ス

〔二〕貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金ヲ地方稅ニ編入シ警察機密費檢徵費ヲ地方稅ヨリ支辨ス 明治二十一年八月七日 開令第十二號

貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金ハ府縣知事(東京ハ警視廳)ニ於テ適宜ニ之ヲ賦課シ地方稅雜收入ニ編入スヘシ

同日閣令第十
三號ヲ以テ明

第五類 第一章 行政警察ノ警察官吏ノ警察費 三十一

十四年第十六
號布告ハ二十六
一年勅令第六
十一號ニ依リ
消ル
第六十三號第
百三十二號布
告ハ第二十八
十一ニ掲ク

警察機密費(高等警察ニ屬ス)ハ警察費中ノ一科目トシ檢査費ハ衛生病院費中ノ一科目トシ地方稅ヨリ支辨スヘシ

〔二〕警察署分署建築修繕費國庫下渡金地方稅連帶支辨方 明治十三年四月三十日 太政官達

官舎建築修繕費等官費ト相定候旨明治十年一月十六號ヲ以テ相違候處警察署分署建築修繕費ハ本年七月以後國庫下渡金ト地方稅ト連帶支辨スヘキ儀ト心得ヘシ此旨更ニ相違候事

〔三〕警察官吏並ニ之ニ準スル備内外國人諸給與支辨方 明治十四年三月十八日 太政官達第十二號府縣

本年二月十六號布告第三條警察官吏並ニ之ニ準スヘキ備内外國人ノ諸給與ハ從前之通國庫ヨリ支給ストアルハ是迄全ク國庫ノ支辨ニ係リシ設項ヲ指シタルモノニシテ地方稅ト連帶支辨ニ係ル設項ニ關係ナキ儀ト心得ヘシ此旨相違候事

〔四〕囚人證人及無罪解放ノ者警察官吏ノ處分ニ依リ支給スヘキ旅費滯留日當仕拂方 明治九年八月八日內務省達乙第百二十一號府縣(東京府ヲ除ク)

罪囚證人及無罪解放ノ者旅費支給方ニ付本年第六十三號及ヒ第百三十二號ヲ以公布之趣有之候處警察官吏ノ處分ニ依リ旅費滯留日當支給スヘキ分ハ派テ警察費ヨリ可仕拂此旨相違候事

〔五〕警察上賞與等巡查以下ノ給與ノ分國庫下渡金ト地方稅ト連帶支辨方 明治十三年五月二十日 內務省達乙第二十二號府縣(東京府沖繩縣ヲ除ク)

警察上賞與勲章扶助療治料等交附方ニ付明治八年十月當省乙第百廿四號達ノ趣有之候處十三年度ヨリ別途不相渡候條巡查以下ノ給與スヘキ分ハ警察費ニ屬スル國庫下渡金ト地方稅ト連帶支辨可致尤右賞與等伺届ノ節一般人民ト區別候儀ハ從前ノ通可心得此旨相違候事

〔六〕巡查並警察諸備等懲罰金巡查還納被服類及警察署不用品賣却代金地方稅費ヘ仕拂方 明治十四年四月十一日 內務省達乙第十八號府縣(東京府ヲ除ク)

但一般人民ヘ給與候分ハ客歲第五十號公達ノ費途ヨリ支出スヘシ

〔七〕警察部長ニ屬スル俸給雜給支辨方 明治十四年十二月十二日 內務省乙第六十號府縣(東京府沖繩縣ヲ除ク)ヘ達

本年十一月十九號公達警察部長ニ屬スル俸給及雜給ハ從前警察部給與ノ内ヲ以テ支辨スル儀ト可心得此旨相違候事

〔八〕警察廳舎建築修繕費國庫金算出方 明治十五年一月二十六日 內務省乙第八號府縣(沖繩縣ヲ除ク)ヘ達

本年第二號布告第三條第二項警察廳舎建築修繕費ハ警察費ヨリ分割セシ科目ニ付客年第十六號布告ニ依リ國庫下渡金ヲ算出スル儀ト心得ヘシ此旨相違候事 出スル)ノ下三三三ヲ刪除ス

〔九〕警察費國庫下渡金ノ殘餘翌年度ヘ差繼方 明治十五年四月四日 內務省乙第二十三號府縣(沖繩函館札幌根室ノ四縣ヲ除ク)ヘ達

明治十四年七月第六十三號公達中警察費國庫下渡金ノ殘餘ハ翌年度ノ下渡金ヘ差繼ク可キ答ニ候條爲心得此旨相違候事

〔十〕警部給與ノ内俸給雜給ノ科目流用方 明治十五年六月十二日 內務省乙第三十七號府縣(東京府沖繩函館札幌根室ノ四縣ヲ除ク)

警部給與ノ内俸給雜給ノ科目 神奈川長崎ノ二縣ハ 彼是流用セントスルキハ該金額前以當省ニ伺出候儀ト可心得此旨相違候事 備外國人俸給雜給共

〔十一〕警察費警察廳舎建築修繕費豫算原按額届出方 明治十五年十月二十日 內務省達乙第五十六號府縣(沖繩函館札幌根室四縣ヲ除ク)

本年第二號布告ニ依リ十六年度以降警察費并ニ警察廳舎建築修繕費ニ對スル國庫下渡金豫算調整ノ都合有之ニ付右科目毎每年府縣會ニ附スヘキ豫算原按額ハ前年十一月廿日限リ其地發遣及該會議決額ハ認可次第左ノ書式ニ照準シ當省ヘ

第十四年第十六
三號達ハ十八
年第四十一號
達ヲ以テ同年
度限リ廢ス

巡查並警察諸備等懲罰金巡查還納被服類及警察不用品賣却代處分方之儀ニ付明治九年當省乙第二十一號同年乙第九十五號同年乙第百八號本年乙第一號ヲ以テ相違候處右ハ相違候條以來該金ハ地方稅一般ノ費途ヘ可仕拂此旨相違候事

但十三年當省乙第四十六號達中賣却金ノ項ヲ除ク外ハ總テ廢止ト心得ヘシ

巡查並警察諸備等懲罰金巡查還納被服類及警察不用品賣却代處分方之儀ニ付明治九年當省乙第二十一號同年乙第九十五號同年乙第百八號本年乙第一號ヲ以テ相違候處右ハ相違候條以來該金ハ地方稅一般ノ費途ヘ可仕拂此旨相違候事

〔七〕警察部長ニ屬スル俸給雜給支辨方 明治十四年十二月十二日 內務省乙第六十號府縣(東京府沖繩縣ヲ除ク)ヘ達

本年十一月十九號公達警察部長ニ屬スル俸給及雜給ハ從前警察部給與ノ内ヲ以テ支辨スル儀ト可心得此旨相違候事

〔八〕警察廳舎建築修繕費國庫金算出方 明治十五年一月二十六日 內務省乙第八號府縣(沖繩縣ヲ除ク)ヘ達

本年第二號布告第三條第二項警察廳舎建築修繕費ハ警察費ヨリ分割セシ科目ニ付客年第十六號布告ニ依リ國庫下渡金ヲ算出スル儀ト心得ヘシ此旨相違候事 出スル)ノ下三三三ヲ刪除ス

〔九〕警察費國庫下渡金ノ殘餘翌年度ヘ差繼方 明治十五年四月四日 內務省乙第二十三號府縣(沖繩函館札幌根室ノ四縣ヲ除ク)ヘ達

明治十四年七月第六十三號公達中警察費國庫下渡金ノ殘餘ハ翌年度ノ下渡金ヘ差繼ク可キ答ニ候條爲心得此旨相違候事

〔十〕警部給與ノ内俸給雜給ノ科目流用方 明治十五年六月十二日 內務省乙第三十七號府縣(東京府沖繩函館札幌根室ノ四縣ヲ除ク)

警部給與ノ内俸給雜給ノ科目 神奈川長崎ノ二縣ハ 彼是流用セントスルキハ該金額前以當省ニ伺出候儀ト可心得此旨相違候事 備外國人俸給雜給共

〔十一〕警察費警察廳舎建築修繕費豫算原按額届出方 明治十五年十月二十日 內務省達乙第五十六號府縣(沖繩函館札幌根室四縣ヲ除ク)

本年第二號布告ニ依リ十六年度以降警察費并ニ警察廳舎建築修繕費ニ對スル國庫下渡金豫算調整ノ都合有之ニ付右科目毎每年府縣會ニ附スヘキ豫算原按額ハ前年十一月廿日限リ其地發遣及該會議決額ハ認可次第左ノ書式ニ照準シ當省ヘ

可届出此旨相違候事

但豫算外臨時費用ヲ議決シ又ハ豫備費ノ支出ヲ要セシキハ其事由ヲ具シ本文書式ニ倣ヒ届出ヘク且客年當省乙第二十三號并ニ乙第五十六號達ハ相廢シ候事

(用紙通常界紙ヲ以一通)

何年度警察費及警察廳舎建築修繕費 原按額 議決額 御届

△印ハ朱字

△高金 爰ニ高金ヲ掲クルハ外書ニ記載スヘキ金額有之キノ例

一金

内

警察費

金

金

地方税
國庫下渡金

△右二項ハ十四年第十六號公布及第二十八號公達ニ屬スル金額ヲ掲クルモノニテ東京府ハ地方税二十萬圓ナレハ國庫下渡金ヲ三十萬圓トシ其他ハ地方税十萬圓ナレハ國庫下渡金ヲ三萬圓ト記載スルノ例

全別途金

金

△此項ハ神奈川兵庫長崎高知鹿兒島ノ五縣ニ限ル

寄附金

金

△此項ハ警察費ニ寄附金有之キノ例尤此金額ニ對スル國庫下渡金ハ無之

賣淫罰金
賦金

△外金
△金

内

金

俸給

△高金 爰ニ高金ヲ掲クルハ外書ニ記載スヘキ金額有之キノ例

金

諸費

△外金

△金

賣淫罰金

一金

内

金

地方税

金

國庫下渡金

金

全別途金

金

寄附金

内

内

金

新築費

△此項ハ建築修繕費ニ寄附金有之キノ例尤此金額ニ對スル國庫下渡金ハ無之

△此項ハ神奈川兵庫長崎ノ三縣ニ限リ從前警察費ニ屬スル別途金ヨリ分裂スヘキ金額有之キノ例

△右二項ハ警察費ト全シ割合ヲ以テ記載スルノ例

△右二項ハ警察探偵費ニ補充スルキ外書ニ記載スルノ例

第五類 第一章 行政警察 警察官吏 警察費

金

右者何年度地方警察費及警察廳舎建築修繕費豫算原按額前書之通ニ有之候也

年月日

修繕費

府知事 氏名印

内務卿 宛

〔十二〕警察費ノ内府縣下渡金交付方 明治十七年六月十二日 内務省達乙第貳拾八號府縣(沖繩縣北海道三縣ヲ除ク)

警察費ノ内府縣下渡金ノ儀從來大藏省ヨリ直チニ交付シ來リ候處十七年度以降當省ヨリ交付候條此旨相違候事

但請求書ノ儀ハ警部給與備外國人給與ト各別ニ調製シ受取方申出候儀下心得ヘシ

〔十三〕警察費並警察廳舎建築修繕費届出方 明治十八年十月二十八日 内務省達甲第三十五號府縣(函館沖繩札幌根室ノ四縣ヲ除ク)

警察費並警察廳舎建築修繕費ニ於テ豫算外ノ費用支出ヲ要セシキ十五年當省乙第五十六號達但書ニ據リ届出ノ儀國庫

下渡金調理ノ都合有之自今該年度出納閉鎖ノ期三箇月以前可届出此旨相違候事

〔十四〕警官練習所受業生ニ係ル費用支辨方 明治十八年九月七日 (大藏卿達署)

警官練習所受業生ニ係ル費用ハ地方警察費ヨリ可致支辨此旨相違候事

但警部ニ係ル旅費并寄宿會賄料ノ實費ハ警部給與ヨリ支辨スヘシ

〔十五〕警察費ノ内地方稅連帶支辨金支出方及決算上殘金取扱ノ件 明治二十一年二月二十五日 内務省訓令第四號府縣(沖繩

縣ヲ除ク)

警察費ノ内地方稅連帶支辨金支出方之儀ハ二十年度以降總テ精算拂トナシ爾後決算ノ上殘金ヲ生セシキハ戻入ニ相立

ヘシ

但會計整理期限後ニ於テハ精算拂ノ儘据置キ決算ノ上該殘金ハ直チニ現年度ノ第二部歳入トシテ國庫ヘ納付シ其旨

當省ヘ報告スヘシ

● 伺指令

● 警部乘馬ノ節口附人旅費支出方ノ伺指令 明治十七年九月十八日 大藏省訓

警部ニシテ乘馬口附ノ者ヲ要スル節該旅費支出方ノ儀從來警部雜給又ハ地方警察費ヨリ支辨スル等區々相成居候

ニ付焉ト考按候處元來旅費定期第拾壹章第壹項口附ノ者ノ旅費タル官廳ヨリ直接ニ給スルニ非スシテ乘馬人其人

ニ給スルノ精神ト被存候果シテ然ラハ右口附ノ者ノ旅費ハ警部給與ノ部分ニ屬スル至當ナルヲ以テ以後ハ國庫ノ

支辨ニ歸シ候ト一定シ可然儀ト存候得共聊疑義ヲ生シ候ニ付此段爲念相伺候也

太政官指令 明治十七年九月三十日

伺ノ通

○ 第二章 警察上取締諸則

● 集會ニ係ル沿革要領

明治十一年七月第二十九號達ヲ以テ政談ヲ目的トシ會社ヲ結ビ或ハ演說會ヲ開ク者アルキハ警察官ニ於テ視察シ國
安ヲ妨害スルト看認アル節ハ禁止シテ其事情ヲ内務卿ニ具申セシム○十三年四月第十二號布告ヲ以テ集會條例ヲ定
ム○同年第十三號布告ヲ以テ集會條例制定ニ付キ從前集會結社シタル者モ該條例ニ據リ更ニ届出シム○十五年十二
月第七十號布告ヲ以テ府縣會議員他ノ府縣會議員ト會議ノ事項ヲ以テ連合集會往復通信スルヲ禁シ犯ス者ハ集會條
例ニ據テ處分ス○二十年十二月勅令第六十七號ヲ以テ保安條例ヲ頒布シ秘密ノ結社集會ヲ禁シ其處分方ヲ定ム○二

第五類 第二章 警察上取締諸則

十二月廿四日内閣ヨリ官吏公衆ニ對シ政事又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ叙述スルヲ得セシムル旨ヲ訓令ス
第七十六 集會條例 明治十三年四月五日 布告第十二號

集會條例別冊ノ通被定候條此旨布告候事
(別冊)

集會條例

第一條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開會二日前ニ講談論議ノ事項講談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ其會主又ハ會長幹事等ヨリ管轄ノ警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ

第二條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社何等ノ名義ヲ以テスルモ其實政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結合スルモノヲ併稱スル者ハ結社前其社名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ其社則ヲ改正シ及ヒ社員ノ出入アリタルトキモ同様タルヘシ此届出ヲ爲スニ當リ警察署ヨリ尋問スルコトアレハ社中ノ事ハ何事タリトモ之ニ答辨スヘシ

前項ノ結社及其他ノ結社ニ於テ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メニ集會ヲ爲サントスルトキハ仍ホ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ十五年六月第廿七號 布告ヲ以テ全條改正

第三條 講談論議ノ事項講談論議スル人員會場及ヒ會日ノ定規アル者ハ其定規ヲ初會ノ三日前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クルトキハ爾後ノ例會ハ届出ニ及ハスト雖モ之ヲ變更スルトキハ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 管轄警察署ハ第一條第二條第三條ノ届出ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ認可セス又ハ認可スルノ後ト雖モ之ヲ取消スコトアルヘシ同上

第五條 警察署ヨリハ正服ヲ着シタル警察官ヲ會場ニ派遣シ其認可ノ證ヲ檢査シ會場ヲ監視セシムルコトアルヘシ

警察官會場ニ入ルトキハ其求ムル所ノ席ヲ供シ且其尋問アルトキハ結社集會ニ關スル事ハ何事タリトモ之ニ答辨スヘシ同上本 項追加

第六條 派出ノ警察官ハ認可ノ證ヲ開示セサルトキ講談論議ノ届書ニ掲ケサル事項ニ亘ルトキ又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意ヲ含ミ又ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキ及ヒ集會ニ臨ムヲ得サル者ニ退去ヲ命ジテ之ニ從ハサルトキハ全會ヲ解散セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ解散ヲ命ジタルトキ地方長官東京ハ警視長官ハ其情狀ニ依リ演說者ニ對シ一箇年以内管轄内ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止シ其結社ニ係ルモノハ仍ホ之ヲ解散セシムルコトヲ得内務卿ハ其情狀ニ依リ更ニ其演說者ニ對シ一箇年以内全國内ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止スルコトヲ得同上

第七條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ陸海軍人常備豫備後備ノ名籍ニ在ル者警察官官立公立私立學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルヲ得ス

第八條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若クハ文書ヲ發シ

テ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若クハ他ノ社ト連結通信スルヲ得ス同上全條改正

第九條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催スヲ得ス

第十條 第一條ノ認可ヲ受ケスシテ集會ヲ催スモノ會主ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其會席ヲ貸シタル者並ニ會長幹事及ヒ其講談論議者ハ各貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條ノ規程ヲ犯シタル者モ又本條ニ依ル

第十一條 第二條第一項ノ規程ニ背キテ届出ヲ爲サス又ハ尋問スル所ノ事項ヲ開答セサルトキ社長ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ詐欺ノ届出ヲ爲シ或ハ尋問ヲ得テ僞答スルトキ社長ハ右罰金ノ外尙ホ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス同上

第十二條 第五條ノ規程ニ背キテ派出警察官ノ臨席ヲ肯セス又ハ其求ムル所ノ席ヲ供セサルトキ會主會長及社長幹事ハ各五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ警察官ノ尋問ニ答ヘス又ハ僞答スル者ハ同罪ニ處ス再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス同上

第十三條 派出ノ警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尙退散セサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上六月以下ノ禁獄ニ處ス

第十四條 第七條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其他情狀ノ重キモノアレハ其社ヲ解散セシム其制限ヲ犯シテ入社シ又ハ臨會スル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

十五年第七十
號布告(第五
十四ノ三項)
參看

第十五條 第八條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其社ヲ解散セシム此事ニ關スル者モ亦同罪ニ處シ脅迫スル者及ヒ罪再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處シ其社長幹事ハ一年以上五年以下結社又ハ入社ヲ禁ス

第十六條 學術會其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラヌ多衆集會スル者警察官ニ於テ治安ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ之ニ監臨スルコトヲ得若シ其監臨ヲ肯セサルトキハ第十二條ニ依テ處分ス同上

第十七條 學術會ニシテ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルコトアルトキハ第十條ニ依テ處分ス

第十八條 前條ノ場合ニ於テ治安ヲ妨害スト認ムルトキハ第六條ニ依テ處分ス同上以下三條追加

第十九條 凡ソ結社若クハ集會スル者内務卿ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ禁止スルコトヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハス又ハ仍ホ秘密ニ結社若クハ集會スル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二十條 成法ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニ在ラヌ

(二)官吏公衆ニ對シ政治上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ叙述スルヲ得明治廿二年一月二十日

内閣訓令
各官廳

凡官吏タル者ハ自今其職務外ト雖モ公衆ニ對シ政事上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ之ヲ叙述スルコトヲ得但各長官ノ監督ニ從屬スヘシ

第七十七

保安條例

明治二十年十二月二十六日公布
勅令第六十七號

朕惟フニ今ノ時ニ當リ大政ノ進路ヲ開通シ臣民ノ幸福ヲ保護スル爲ニ妨害ヲ除去シ安寧ヲ維持スルノ必要ヲ認メ茲ニ左ノ條例ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年十二月二十五日

内閣總理大臣伯耆伊藤博文
内務大臣伯耆山縣有朋
司法大臣伯耆山田顯義

勅令第六十七號

保安條例

第一條

凡ソ秘密ノ結社又ハ集會ハ之ヲ禁ス犯ス者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其首魁及教唆者ハ二等ヲ加フ
内務大臣ハ前項ノ秘密結社又ハ集會又ハ集會條例第八條ニ載スル結社集會ノ聯結通信ヲ阻遏スル爲ニ必要ナル豫防處分ヲ施スコトヲ得其處分ニ對シ其命令ニ違犯スル者罰前項ニ同

シ

第二條

屋外ノ集會又ハ群集ハ豫メ許可ヲ經タルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違フ者首魁教唆者及情ヲ知リテ參會シ勢ヲ助ケタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
集會者ニ兵器ヲ携帶セシメタル者又ハ各自ニ携帶シタル者ハ各本刑ニ二等ヲ加フ

第三條

内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ文書又ハ圖畫ヲ印刷又ハ板刻シタル者ハ刑法又ハ出版條例ニ依リ處分スルノ外仍其犯罪ノ用ニ供シタル一切ノ器械ヲ沒收スヘシ

第四條

印刷者ハ其情ヲ知ラサルノ故ヲ以テ前項ノ處分ヲ免ル、コトヲ得ス
皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居又ハ寄宿スル者ニシテ内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキハ警視總監又ハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經期日又ハ時間ヲ限リ退去ヲ命ジ三年以内同一ノ距離内ニ出入寄宿又ハ住居ヲ禁スルコトヲ得

退去ノ命ヲ受ケテ期日又ハ時間内ニ退去セサル者又ハ退去シタルノ後更ニ禁ヲ犯ス者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ仍五年以下ノ監視ニ付ス
監視ハ本籍ノ地ニ於テ之ヲ執行ス

第五條

人心ノ動亂ニ由リ又ハ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲ス者アルニ由リ治安ヲ妨害スルノ虞アル地方ニ對シ内閣ハ臨時必要ナリト認ムル場合ニ於テ其一地方ニ限り期限ヲ定メ左ノ各項ノ全部又ハ一部ヲ命令スルコトヲ得
一凡ソ公衆ノ集會ハ屋内屋外ヲ問ハス及何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス豫メ警察官ノ許可ヲ經サルモノハ總テ之ヲ禁スル事
二新聞紙及其他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ檢閲ヲ經スシテ發行スルヲ禁スル事
三特別ノ理由ニ因リ官廳ノ許可ヲ得タル者ヲ除ク外銃器短銃火藥刀劍仕込杖ノ類總テ携帶運搬販賣ヲ禁スル事
四旅人出入ヲ檢査シ旅券ノ制ヲ設クル事

第六條

前條ノ命令ニ對スル違犯者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法又ハ其他特別ノ法律ヲ併セ犯シタルノ場合ニ於テハ各本法ニ照シ重キニ從ヒ處斷ス

第七條

本條令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

銃砲取締規則沿革要領

明治五年正月第二十八號布告ヲ以テ銃砲取締規則ヲ定ム○同年六月第百八十五號布告ヲ以テ前令第二則開港開市場ニ限リ取扱方ヲ定ム○同年九月第百八十二號布告銃砲取締規則違犯者處分方ヲ定ム○八年十二月第百八十九號布告ヲ以テ洋行又ハ他縣下寄留等ニテ銃砲屆滿ノ者九年二月廿八日出願ヲ延期ス○九年三月第三十九號布告ヲ以テ銃砲屆滿ノ者更ニ出願期限ヲ延期シ九年四月三十日トス○同年六月第八十四號布告ヲ以テ前令屆出期限ヲ本年八月三十日迄延期ス○十一年五月第十一號布告ヲ以テ銃砲免許ノ者及有害ノ鳥獸或ハ銃室內射的場營業免許ノ者等需用ノ彈藥帶管ニ限リ賣買手續ヲ定ム○十三年三月第二十三號達ヲ以テ武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則ヲ定ム○十七年十二月第三十一號布告ヲ以テ火藥取締規則ヲ定ム

第七十八

銃砲取締規則

明治五年正月二十九日
布告第二十八號

銃砲取締規則別紙之通被定候條來ル四月ヨリ規則之通可相守事

(別紙)

銃砲取締規則

第一則

一大小銃並彈藥類商賣ノ儀ハ府縣共定員商賈ノ外取扱致間敷右定員ノ商賈ハ其地方管廳ニ於テ精選ノ上免許狀可差遣事
八年六月第百一十一號達ヲ以テ內務省管理ニ屬スルヲ以テ右紙觸ノ廉ニ付但書ヲ除ク

第五類 第二章 警察上取締諸則

十年第十一號
布告鳥獸規則
四(第百十七年
第十一號布告)

告ヲ以テ火藥
取締規則制定
ニ付彈藥ノ販
ハ消滅ス(第
七十九)
刑法第百五十
七條以下參看

免許商買ノ定員

- 一 府下 各五員
- 一 縣下 各三員
- 一 鎮臺本分營下 各一員
- 但府縣廳下開港場等ニアルハ別ニ設ケス
- 一 開港場 各五員

第二則

右免許差遣候商買ノ姓名住所等内務省へ届クヘキ事同上ニ付東京武庫司ヲ内務省ト改ム

一 免許商人タリトモ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ窃ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヨリ官ノ免手形ヲ受取其員數ヲ照シ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳へ願出免手形ヲ受其員數ヲ以テ買取可申事同上但世ヲ除ク

一 免許商人ハ陸海軍准士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃并ニ其彈藥類ヲ買入レントスルハ買入願書ニ其賣主ノ連署ヲ爲サシムヘキ事十三年三月第八號布告ヲ以テ本項ヲ增加ス

第三則

一 免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥類ハ多少ヲ論セス買取賣渡共其主人ノ姓名其物品ノ員數等明細附記シ軍用ノ物ハ免手形相添毎月其管廳へ可差出其廳ヨリ毎月十日ヲ限リ内務省へ差送可申事八年六月第十一號達ヲ以テ内務省管理替ニ付管轄鎮臺ヲ内務省ト改メ但世ヲ除ク

第四則

一 彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミヲ計リ勝手ノ場所へ差置間敷兼テ其地方管廳へ願出差圖ヲ受相圍可申事同上但世ヲ除ク

第五則

一 華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲并彈藥類ヒストールニ至ル迄私ニ貯蓄不相成就テハ是迄銘々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管廳ニ持出別紙銃砲改刻印式ノ通番號官印ヲ受可申他人へ譲リ與へ候節ハ第二則ノ手續ニ從フヘシ同上(持出)ノ下劃註ヲ除ク

但彈藥買入致シ度者モ亦二則ノ通りタルヘシ

銃砲改刻印ノ式

何府縣同上ニ付何府縣ノ上(武庫司或ハ)ヲ刪ル

干支何番 右所持ノ人名番號等逐一書記シ置届出可申事同上ニ付(置)ノ下四字(届出)ノ下十二字ヲ刪ル

免許ノ銃類

一 和銃四文目八分玉以下

一 各國諸獵銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレトモ霰彈ヲ用ユルモノハ之ヲ許ス

右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其管廳へ届出其廳ヨリ内務省へ差出可申萬一軍用獵用銃ノ差別難相辨者官へ尋出候得ハ檢査ノ上免許ノ證印ヲ据へ可相渡事同上

第五類 第二章 警察上取締諸則

(其總目リ)ノ下(東京武庫司)ヲ(内務省)トシ(可申)ノ下(割書)ヲ(別紙)

第六則 六年一月第十五號布告銃獵規則ニ依リ廢ス但該規則ハ十年一月第十一號布告ヲ以テ改正ニ付掲ケス

第七則

一銃砲彈藥下々ニ於テ猥リニ製造不相成候尤モ新ニ奇巧便利ヲ發明シ爲試製作致度者ハ其管廳へ相願管轄鎮臺へ届出免許ヲ可受事

但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ鎮臺ヨリ武庫司へ差送り検査ヲ遂ケ採用可相成分ハ西洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可有之事

是迄銃砲並彈藥類賣買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記シ管轄廳へ爲指出其廳ヨリ内務省へ可差出事八年六月第十一號公達ニ依リ(其總目リ)ノ下(東京武庫司)ヲ(内務省)トシ但書ヲ除ク

右之通ニ候事

(二)銃砲取締規則違背ノ者處分方

明治五年九月二十三日 布告第二百八十二號

銃砲取締ノ儀ニ付別紙ノ通被相定候條此旨相違候事

別紙

銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲彈藥類ヲ竊ニ所持シ且致取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上ケ更ニ五拾錢ノ過料可申付候事

但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金ヲ可被下候事

免許ヲ得ヌシテ銃砲彈藥ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以内ノ過料可申付事七年十二月三十一號

十二號布告ヲ以テ但書共追加

但書同前

右取上候品(東京大坂・武庫司其他ハ所管ノ鎮臺へ)可差出事

(二)銃砲彈藥類取締管理替明治八年六月二十八日 太政官達第百拾壹號(使)府縣

今般銃砲彈藥取締ノ儀内務省へ管理被仰付候ニ付テハ追テ相違候儀モ可有之候得共差向キ從前規則ノ通相心得取締可致尤右規則中是迄陸軍省及各鎮臺等へ申出候分ハ總テ内務省へ可申出其他管理替ニ付抵觸ノ箇條ハ廢シ候儀ト可心得此旨相違候事

(三)免許商人外國人ト銃砲彈藥賣買出願取扱方明治十一年五月二十四日 太政官達第拾七號開港開市場有之(使)府縣

銃砲彈藥賣買免許商人外國人ト銃砲(彈藥)類賣買出願取扱方ノ儀ハ明治七年七月第九拾九號八年六月百拾壹號達ノ趣有之候處今般第拾壹號布告ノ趣モ有之ニ付自今銃獵免狀付與有之外國人へ獵用ノ銃器彈藥類賣渡候儀ハ其應限ノ間届候儀ト可心得此旨相違候事

但免許商人ヨリハ其姓名數量等ヲ記載シ其時々爲届出候儀可取計事

(四)武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則明治十三年三月二十五日 太政官達第貳拾貳號(使)府縣(東京府ヲ除ク)

陸海軍武官所有ノ軍用銃ハ明治五年正月第貳拾八號ニ依リ管轄廳ノ検査番號ヲ受來候處自今准士官以上ノ武官ハ左ノ規則ニ據ルヘシ此旨相違候事

武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則

第壹條 陸海軍省ニ於テハ武官所有ノ軍用銃并其彈藥類買入ノ節交付スヘキ買入免狀ヲ定メ置キ際メ其印影等照會ノタメ使府縣廳(東京ハ警)へ通知スヘシ

第貳條 武官軍用銃(并其彈藥)類ヲ買入ル時ハ前款ノ免狀ヲ受取之ヲ該地ノ免許商人ニ交付シテ其買入ヲ爲スヘシ

第五類 第二章 警察上取締諸則

第十一號布告
ハ銃獵及有害
威シ銃室內射
的場營業人彈
藥管賣買手
續ニシテ十七
年第三十一號
布告(第七十
九)ニ依リ消
滅ス

第三條 武官職任又ハ免官スル時ハ其奉職中所有セシ銃器ハ其銃名（捺印アラフナ記載シ使府縣廳東京ハ警へ届出常則ニ從ヒ其取締ヲ受クヘシ）

第四條 武官奉職中所有ノ軍用銃及ヒ其彈藥類ヲ人民へ賣渡サントスル時ハ買受人ヨリ其使府縣廳（東京ハ警へ差出スヘキ願書へ連署スヘシ）

〔五〕銃砲類外國人ト賣買差許方（明治二十年四月十四日 内務省訓令第二十六號開港場開市場アル縣府縣）

銃砲類外國人ト賣買ノ儀免許商人ヨリ願出ノ節ハ其應ニ於テ許可シ賣買員數種目及ヒ雙方國人名共一周年間統計シ翌年一月三十一日限リ當省へ報告スヘシ

●火藥取締規則沿革要領

明治四年十月兵部省達ヲ以テ火藥運送規則ヲ定ム○五年正月第二十八號布告ヲ以テ銃砲取締規則ヲ定メ彈藥賣買取締方ヲ令ス○同年六月第百八拾五號布告ヲ以テ前令第二則開港開市場ニ限リ取扱方ヲ定ム○十一年五月第十一號布告ヲ以テ銃獵免許ノ者有害ノ鳥獸威シ銃室內射的場營業免許ノ者等需用ノ彈藥雷管ニ限リ賣買手續ヲ定ム○十七年十二月第三十一號布告ヲ以テ火藥取締規則ヲ定ム

第七十九 火藥取締規則 明治十七年十二月二十七日 布告第三十一號

火藥取締規則別冊ノ通制定ス

但從前ノ成規中此規則ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

（別冊）

十年第十一號 布告（第二百十四）參看

火藥取締規則

第一章 總則

第一條 凡火藥劇發火藥（棉火藥、ナイトロケリセリン、ダイマイト、雷汞其他劇發質ノ物品）ハ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス但烟火マツチノ類ハ此限ニ在ラス

刑法第五百十七條以下參看

第二條 火藥類（火藥、劇發火藥）ノ賣買營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ願出免許鑑札ヲ受ク可シ但營業者ハ一管内ニ十五人以内トス

第三條 火藥類ハ營業者ニ限リ陸軍海軍兩省ヨリ其貯藏品ヲ拂下ク可キモノトス

第四條 管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ於テ火藥類ノ検査ヲ必要ト認ムル時ハ營業者タルト否トヲ問ハス警察官ヲシテ之ヲ検査セシムルコトアル可シ

第五條 戰時若クハ事變ニ際シテハ陸軍卿海軍卿ハ火藥類ノ拂下クテ停止シ内務卿ハ其賣買運搬ヲ停止スルコトアル可シ

第六條 火藥類ハ官許ヲ得ルニ非サレハ日出前日没後ニ於テ賣買運搬其他荷造等ヲ爲ス可カラズ

第二章 賣買

第七條 營業者ハ毎月買受ケタル火藥類ノ種類數量ヲ記シ（願書アレハ之ヲ添ヘ）翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第八條 營業者ニ非スシテ所有ノ火藥類ヲ賣ラントスル者ハ營業者ニ之ヲ賣渡ス可シ營業

第五類 第二章 警察上取締諸則

者ハ其賣渡證書ヲ取り置ク可シ

第九條 營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工烟火其他職業用ニ限り火藥類ヲ賣渡ス可キモノトス但十六歳未滿若クハ白痴風癩ノ者ニハ之ヲ賣渡スコトヲ許サス

第十條 火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若クハ烟火製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲メニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍軍人ノ射的用ニ供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

小銃用	火藥	三百目	雷管	五百個
船舶設備銃砲用	火砲一門ニ付	火藥	五十發分	導火管類
烟火製造用	火藥	五貫目	百發分	雷管
				七十個
				百五十個

坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ヲ買受ケントスル者ハ其旨趣及種類數量並ニ使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ

第十一條 營業者ハ買受人ノ免狀ヲ檢シ若クハ許可證ヲ受取リ火藥類ヲ賣渡ス可シ但第十條ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

第十二條 營業者ハ毎月火藥類買受人ノ住所氏名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記シアラレハ之ヲ添ヘ翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第三章 貯藏

第十三條 火藥類ハ火藥三百目雷管導火管類五百個迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得

營業者ハ前項制限ノ外火藥拾貫目劇發火藥壹貫目雷管導火管類壹萬個迄烟火製造人ハ火藥五貫目劇發火藥五百目迄ハ管轄東京府ハ警視廳應ニ許可ヲ受ケ倉庫ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得其數量ヲ超ル時ハ火藥庫ノ外之ヲ貯藏スルコトヲ許サス火藥五百貫目以上劇發火藥五拾貫目以上ハ火藥庫ト雖モ之ヲ貯藏スルコトヲ許サス

第十四條 火藥類ヲ一庫内ニ貯藏スル時ハ其種類毎ニ不燃質物ヲ以テ之ヲ區畫ス可シ

第十五條 火藥庫ヲ建設セントスル者ハ其位置并ニ建設ノ方法書及近傍ノ地圖ヲ添ヘ管轄東京府ハ警視廳應ニ願出許可ヲ受ク可シ

第十六條 火藥庫ハ皇居離宮ノ區域ヲ距ル十町以内ノ地ニ建設スルコトヲ許サス

第十七條 火藥庫ハ皇陵社寺公園家屋火ヲ取扱フ場所宅地國道縣道鐵道電信柱氣船ノ通スヘキ河湖及他ノ火藥庫境界トノ中間ニ五十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ

第十八條 火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ家根ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヒ内部ニハ鐵釘石瓦ヲ露ハカス窓ニハ透明ノ硝子ヲ用フ可カラス又避雷針ヲ設ケ庫外ノ周圍ニ二間以上ヲ隔テハ高サ六尺以上ノ土堤ヲ築キ其入口ニ火藥庫ト書シタル標木曲尺六尺以上ニシテ五寸角以上ノモノヲ建ツ可シ

第十九條 火藥庫ヨリ十四間以内ノ地ニ材木草秣其他燃質物ヲ蓄積ス可カラス又五十間以

第五類 第二章 警察上取締諸則

内ニ於テ火ヲ取扱フ建造物ヲ設ケ若クハ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ若クハ發火質ノ物品ヲ蓄積ス可カラス

第二十條 坑業土工其他多量ノ火藥類ヲ要スル爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ケントスル者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ據リ管轄廳東京府ハニ願出許可ヲ受ク可シ但貯藏ノ數量ハ火藥貳百貫目劇發火藥三拾貫目ヲ超ルコトヲ許サス

第二十一條 烟火製造所ハ家居若クハ火ヲ取扱フ場所ヨリ十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ又五貫目以上ノ火藥類ヲ置ク可カラス

第四章 運搬

第二十二條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスル時ハ其種類數量運搬ノ日時場所及水陸通路ノ名稱ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ携帶シ運搬畢テハ直ニ之ヲ返納ス可シ若シ其警察署管轄外ノ地ニ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ納ム可シ

第二十三條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スル時ハ鐵釘鐵輪ヲ用ヒサル木製銅製若クハ亞鉛製ノ器ニ入レ其外部ハ筵包若クハ繩卷ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗陸路ニハ曲尺縱二尺横二尺五寸水路ニハ曲尺縱三尺五寸横五尺ヲ建テ護送人ヲ附ス可シ但船積スル時ハ明治六年八月第貳百九拾貳號布告危害品船積法ニ從フ可シ

第二十四條 火藥類ヲ運搬スルニハ火氣ニ注意シ休泊ノ節ハ安全ナル場所ヲ撰ヒ看守人ヲ附ス可シ

第五章 罰則

第二十五條 私ニ火藥類ヲ製造シ若クハ販賣シタル者ハ軍用品ニアラスト雖モ刑法第五百十七條ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第六十條ヲ適用ス

第二十六條 刑法第五百十八條第五百十九條第六十二條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十七條 私ニ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第四條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ第五條ノ停止ヲ犯シテ賣買運搬シ第九條第十條第十一條第十三條第十九條ニ違犯シ又ハ第二十條ノ制限ヲ超テ貯藏シ又ハ第二十一條ニ違犯シタル者又ハ營業者賣買ヲ除クノ外火藥類ヲ讓受若クハ讓渡シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第六條第七條第八條第十二條第十四條第十八條第二十二條第二十三條第二十四條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 營業者此規則ニ違犯シタル時ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

附則

一從前免許ヲ得タル火藥製造人ハ來ル明治十八年二月廿八日迄其營業ヲ差許シ又同日迄ニ火藥製造諸器械及火藥類ノ現時藏數量ヲ記シ管轄廳東京府ハニ願出ルニ於テハ相當ノ代價

ヲ以テ之ヲ買上ノ可シ

一從前免許ヲ得タル煙藥免許商人ハ來ル明治十八年二月廿八日迄火藥賣買營業ヲ差許シ從前免許ヲ得タル烟火製造所ハ右同日迄其製造ヲ差許ス又從前火藥類ヲ貯藏シタル者ハ來ル明治十八年一月卅一日迄其貯藏ヲ差許ス其日限ヲ過クルトキハ總テ此規則ニ從フヘシ

〔一〕火藥類賣買ヲ免許シ火藥庫設置ヲ許可セシキ届出方明治十八年一月六日
太政官達第一號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

明治十七年十二月三十一號布告ヲ以テ火藥取締規則被定候ニ付テハ警視廳ニ於テ届出方左ノ通知相心得此旨相達候事

一火藥類ノ賣買營業ヲ免許シ又ハ火藥庫設置ヲ許可シタル時ハ營業者ノ住所族籍氏名火藥庫設置ノ地名番號ヲ記シ内務陸軍海軍ノ三省ヘ届出ヘシ

一營業者ノ賣買シタル火藥類ノ種類數量ヲ統計シ毎年一月内務陸軍海軍ノ三省ヘ届出ヘシ

〔二〕陸軍省ニ於テ火藥拂下ノ場所明治十八年二月二十七日
陸軍省達達甲第拾號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

昨年第三十一號布告火藥取締規則ニ依リ於當省ハ砲兵第一方面及同第二方面ニ於テ火藥類拂下候條拂下希望之者ハ同方面ヘ願出候條營業人ヘ達方可取計此旨相達候事

但營業人住所姓名并營業免許證見本及ノ其總ヨリ本文兩方面ヘ通知シ置キ營業人火藥類拂下出願ノ節ハ必ス營業免許證ヲ携帶セシムヘシ

〔三〕海軍省ニ於テ火藥拂下場所明治十八年三月二十四日
海軍省達乙第拾號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

昨年十二月第三拾號布告火藥取締規則ニ依リ當省ニ於テハ東京赤羽兵器局ニ於テ火藥類拂下候條望ノ者ハ同局ヘ願出候條營業人ヘ達方可取計此旨相達候事

但營業免許證見本及ノ其總ヨリ同局ヘ通知シ置キ營業人ヨリ拂下出願ノ節ハ必ス營業免許證携帶セシムヘシ

第八十

火藥庫圍線規則

明治九年九月十八日
布告第百二十號

火藥庫圍線規則別紙之通相定候條此旨布告候事

(別紙)

火藥庫圍線規則

第一條 火藥庫周圍近接ノ地ヲ分テ二圈トシ火害ヲ豫防スルヲ左ノ如シ

第一圈 火藥庫牆壁外十四間以内ノ地ニ於テ諸種ノ建物ヲ設ケ材本草秣其他總テ燃質物ヲ蓄積スルヲ禁ス

第二圈 火藥庫牆壁外二十八間以内ノ地ニ於テ火ヲ取扱フ建物ヲ設ケ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ及ヒ發火質ノ物品ヲ蓄積スルヲ禁ス

第二條 全國火藥庫所在ノ地名

(地名表略之)

爆發物取締沿革要領

明治十四年六月内務省乙第二十九號達ヲ以テダイナマイトノ類銃砲取扱規則及火藥運搬規則ニ據リ取扱ハシム○十七年十二月第三十一號布告ヲ以テ爆發物取締規則ヲ制定ス

第八十一 爆發物取締罰則

明治十七年十二月二十七日
布告第三十二號

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

爆發物取締罰則

刑法第五十七條參看

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財産ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之レヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫致唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止マル者ハ重懲役ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニ

アテサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス但十六歳未満ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

遺失物條例沿革要領

第五類 第二章 警察上取締諸則

新律綱領改定律例中得遺失物條例ヲ揭ク○九年第五十五號布告ヲ以テ新律綱領得遺失物ノ例ヲ改正シ改定律例第二百八十二條以下ヲ刪除ス○同年四月第五十六號布告ヲ以テ遺失物取扱規則ヲ定ム○十三年七月第三十六號頒布改定刑法第三百八十五條以下遺失物埋藏物ニ關スル罪ヲ處スルノ明條ヲ揭ク

第八十二 遺失物取扱規則 明治九年四月十九日 布告第五十六號

遺失物取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

遺失物取扱規則

- 第一條 凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヲ覺テ及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルヲ證明スルニ於テハ直チニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルヲ得ス
- 第二條 凡遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ壹年內其主ナキトキハ之ヲ得者ニ給ス
- 第三條 凡遺失者ハ其遺失スル物品ノ模様員數並ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈ク詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ヘシ但得者ヨリ其返還ヲ得ル時モ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ
- 第四條 凡遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルヲ得且得者ニ報勞ノタメ其物價百分ノ五ヨリ少カラス貳拾ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價額ヲ爭フトキハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム
- 第五條 凡遺失物ヲ得ルニ物品盜賊ニ係ルモノハ直ニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止テ其費用ノミヲ償ハシム

刑法第三百八十五條參看

第六條 官私ノ地內ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得ルモノハ之ヲ官ニ送ルヘシ其主分明ナラサルモノハ地主ノ所有ニ歸スヘシ若シ借地人其借地ヨリ掘得タルトキハ之ヲ地主ト中分セシム十四年一月第二號布告ヲ以テ但書トモ全條ヲ改正ス

但盜賊ニ係ルモノハ此限ニアラス

十四年第七十二號布告(第七百八十五)參看

- 第七條 凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難シテ其主分明ナラサル時ハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ
- 第八條 凡家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルヲ第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財產ヲ毀損スル時ハ律ニ照シテ處分ス
- 第九條 凡逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ若シ八日內其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ
- 第十條 凡遺失物及ヒ逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルヲ私物ニ異ナルヲナシ
- 第十一條 凡警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハズ遺失物ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ送り全ク其主ニ還附シ其主ナケレハ之ヲ官ニ沒ス
- 第十二條 凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官ニ沒ス

第十三條 凡公私債證書(地券)諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條 凡遺失物及ヒ逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送還セズ或ハ物主ノ其主タルヲ證明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ並ニ律ニ照シテ處分ス

(一)遺失物中沒官ノ物品取扱方 明治九年十二月二十日 內務省達乙第百三拾六號府縣(東京府ヲ除ク)

本年八月當省乙第九十七號沒官之物品取扱方達書左之通改正候條此旨相違候事

遺失物取扱規則中官ニ沒スル物品之中裁判ニ係ルモノハ裁判所ニ送附シ裁判ニ係ラサルモノハ之ヲ公賣シ其願祭物ハ一旦廢毀スルノ後ハ之ヲ公賣スルモ害ナキモノハ同權處分シ其金額每六ヶ月分 七月ヨリ十二月迄 取廻メ明細書相添大藏省ヘ納附可致事

但本文ノ通納附候ハ、其段當省ヘ可届出事

(二)遺失物取扱規則中埋藏物ヲ掘得ル者處分方 明治十年九月二十七日 內務省布達甲第二拾號

明治九年四月太政官第五十六號ヲ以遺失物取扱規則中第六條埋藏物掘得ル者處分ノ儀公布相成候處右物品ノ中古代ノ沿革ヲ徵スルモノモ有之候ニ付處分前一應當省ヘ届出檢査ヲ可受其品ニヨリ相當代價ヲ以テ購取シ官私中分ニ係ルモノハ其價格ノ半高ヲ發掘人ヘ下附シ該物品ハ永ク博物館ヘ陳列可致候條此旨相違候事

但物品ハ先ツ掘出地名及形狀等ヲ詳記シ及ヒ摸寫スルモノヲ郵送シ其見込アルモノニテ送還方相違候後本文ノ通可取計候事

(三)官沒ノ遺失公賣物ヲシタル金額納付方等 明治十五年十二月二十日 內務省達乙第七拾號府縣(東京府ヲ除ク)

明治九年十二月 當省乙第百三十六號達書中金額納付方ノ義自今本年大藏省第二十一號達書收入金上納順序ニ準據シ納付

刑法第三百八十六條參看

可致此旨相違候事

(四)遺失物公賣金額届出方 明治十六年四月二日 內務省達乙第十三號府縣(東京府ヲ除ク)

遺失物等公賣ニ係ル金額届方之義自今一週年度分取廻メ明細書相添ヘ毎年八月三十一日限り届出ヘシ此旨相違候事

●伺指令

●盜難ニ罹リタル物品處分ノ伺指令 明治十六年八月三十日 長崎縣伺

爰ニ數種ノ物品盜難ニ罹リタル者數日ヲ經テ其物品ヲ拾得又ハ他人拾得テ之ヲ届出タル場合ニ於テ司法警察官ハ本犯誰タルヲ知ルニ由ナク到底就緒ノ目的ナクシテ假渡ヲ爲スモ結局事主ノ迷惑ニ相成ル可クト思料スルカ又ハ物品數十日ヲ經過スレハ腐敗ノ恐アル者ト見認ムルキハ其物品ノ數及ヒ價額品類等詳細登錄シ置キ之ヲ他日ノ証據物ト爲シ物品ハ直ニ事主ヘ下渡シ候テ不苦ナク差掛リタル事件モ有之候條至急御指令相成度此段相伺候也

司法省指令 明治十六年九月十九日

伺之通

●得遺失物ニ係ル刀劍及劇毒藥處分ノ伺指令 明治二十年二月十六日 警視廳伺

刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具及劇毒藥ノ賣買讓渡ニ付テハ夫々嚴重ノ取締モ有之候得共該品ノ遺失ニ係ルモノハ別ニ取締ノ例規モ無之ニ依リ滿期ニ至リ遺失者分明ナラサル時ハ拾得者ノ身分年齢及前科ノ有無如何ニ不拘都テ下渡サ、ルヲ得然レトモ斯ノ如クスルトキハ取締上不都合ヲ醸成候ニ付右等ハ公賣ニ付シ其代價ヲ拾得者ニ給付候テ可然乎

內務省指令 明治二十年三月七日

伺之趣刀劍類ハ得者ニ給シ劇毒藥ハ藥舖藥種商ヘ拂下ケ其代價ヲ給付スヘシ

●拾得從軍記章處分ノ伺指令 明治二十一年一月二十一日 福岡縣伺

第五類 第二章 發察上取締諸則

明治七年臺灣從軍記章壹萬明治十八年五月中遺失セシ者有之得者ニ於テ届出タルニ付直チニ成規ノ通り揭示ノ手續ヲ爲シ且ツ所屬營所ヘモ照會取調タレトモ其遺失者更ニ不相分就テハ該記章ハ之レヲ公賣ニ付スルモ務カナラサル様思料被致候仍テ該記章ハ陸軍省ヘ進達致シ可然哉
 內務省指令 明治二十一年二月二十一日
 伺ノ趣遺失者分明ナラサル從軍記章ハ賞勳局ヘ納付スヘシ
 但費用及報勞金等支給ヲ要スル場合ニ於テハ賞勳局ヘ申出ツヘシ

第八十三 古物商取締條例 明治十六年十二月二十八日 布告第五十號

古物商取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年二月一日ヨリ施行ス
 右奉 勅旨布告候事

(別冊)

古物商取締條例

- 第一條 古物商トハ古道具、古本、古書畫、古着、古銅鐵、潰金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ
 袋物屋小間物屋籠甲屋時計屋飾屋簾打屋煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據スヘシ
- 第二條 古物商ハ管轄廳東京府ハ警視廳ノ免許ヲ受クヘシ
- 第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及ヒ賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載

スヘシ

- 第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但身元詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス
- 第五條 十五年未滿ノ者白痴風癪者及ヒ雇人雇主ノ家ニアル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其證人タルトキハ此限ニアラス
 官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキコトヲ證明スル證人貳名以上アルニ非サレハ之ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス
 前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サルコトアルヘシ
- 第六條 古物商ハ營業者タルト否トテ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居宅ノ外ニ於テ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス
- 第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スルコトヲ得ス
- 第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取りタルトキハ其物

品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ

警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ検査シ之ヲ差押フルコトアルヘシ但費用ハ届人之
ヲ擔當スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年内ニ類似ノ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルトキ若ク
ハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ若シ届出テス
シテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シ
タルトキハ直チニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依
リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ古物商ハ之ヲ拒
ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背
シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル
古物商ハ管轄廳東京府ハ警視廳ニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ

一 物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形狀微章
番號

竊柄模倣損所
ノ類ヲ云フ 價額年月日時ヲ簿冊ニ記載スヘシ

二 日出前日歿後ハ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス

三 營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其物品ヲ原狀ノ儘五日
間保存スヘシ

四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形狀價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買
主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其検査ヲ受クヘシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルトキハ所轄警察署ノ認
可ヲ受クヘシ

第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セ
ラレタルトキハ直ニ之ヲ納完セシム若シ納完セサル者ハ留置セラルコトアルヘシ

第十九條 古物商一年内ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又
ハ停止スルコトヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取リ又ハ交換シタル物品贓物ニ係ルモノハ營業者ニ依ルト

否トテ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徴シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後官没ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツヘシ

〔一〕取締條例中官ニ没スル物品處分方等 明治十七年三月七日 内務省達乙第拾五號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

客年第五十號公布古物商取締條例第十一條官ニ没スル物品ノ儀ハ當省達九年乙第百三十六號十五年乙第七十號十六年乙第十三號ニ準據シ可取計此旨相達候事

●伺指令

●古物商取締條例第十八條特別取締ニ付セラレタル者罰金徵收方伺指令 明治十七年一月十一日

前橋始審裁判所檢事伺

明治十六年第五十號公布古物商取締條例第十八條特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルキハ直ニ之ヲ納完セシムトアリ若シ納完セサル者ハ裁判確定ノ後ハ直ニ刑法第二十七條ニ照シ換刑ノ處分ニ及ヒ可然哉又若シ納完セサル者ハ犯情ニ依リ其換刑ノ處分ニ及フ迄ノ時間檢察官ニ於テ留置スルヲ得ヘキ儀ト心得可然哉此段相伺候也

司法省指令 明治十七年三月十四日
伺ノ趣留置處分ハ行政上ノ處分ニ屬スルヲ以テ裁判確定ノ後納完セサルモノハ司法警察官へ交付スヘキ儀ト心得ヘシ

●古物商取締條例第四條第六條ノ件ニ付伺指令 明治十七年十二月二十三日 新潟縣請訓

第一條 古物商取締條例第四條但書ニ身元詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官若シクハ巡查ノ認可云々トアリ爰ニ鹿兒島縣或ハ宮崎縣等ノ身元詳ナラサル者新潟港へ來リ或ル古物商者ニ就キ物品ヲ賣ラント云フ其商者ハ近隣ノ某ヲ連來リ賣主トハ替テ面識ナキ者ヲ證人ニ立テ買取タルトキハ其證人ノ効力ナキ者ト心得可然哉

第二條 同條例第六條前條略ス單ニ警察官ノ許可ヲ受ケヘシトアリテ證人等ノ文字ナキヲ以テ視ルトキハ四條ト六條ハ其精神ヲ異ニスル勿論ノ處警察官ノ許可ヲ受ケスシテ前條ノ如ク賣主ト面識ナキ者ヲ證人ニ立テ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及寄藏シタル後チ其者盜罪詐欺取財ノ罪及刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受タルノ判然シタルトキハ違犯者ト心得可然哉

右ハ古物商取締條例ヲ御頒布相成タル御旨意ノアル處ハ不正品ヲ天下ニ自由ナラシメサルニ據ルモノナルヘシ然ルニ同條例第四條ト第六條ノ解釋ニ付種々ノ論有之何分疑義チ生シ候條仰御内訓候也
司法省内訓 明治十八年二月十二日
請訓ノ趣左ノ通心得ヘシ

第一條 見解ノ通タルヲ以テ古物商取締條例第四條ノ違犯者トシテ處斷スヘキモノトス
第二條 物品ヲ收受スル時ニ當リ全ク同條例第六條ニ列記シタル犯人タルヲ知ラサルキハ單ニ第四條ノ違犯者トシテ處斷ス可キ者トス
右及内訓候也

第八十四 質屋取締條例 明治十七年三月二十五日 布告第九號

質屋取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年五月十五日ヨリ施行ス

第五類 第二章 警察上取締諸則

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

質屋取締條例

- 第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳東京府ハノ免許ヲ受クヘシ
- 第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ捺印ヲ受クヘシ
- 第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物、貸金、質入主及質入受戻入換ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシ但證人ヲ要スルトキハ質入主及證人ノ實印ヲ捺捺セシメ置クヘシ
- 第四條 身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス
- 第五條 十五年未滿ノ者白痴風癲者及雇人雇主ノ家ニアル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス
- 官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其質入シ得ヘキコトヲ證明スル證人二名以上アルニ非サレハ之ヲ質物ニ取ルコトヲ得ス
- 前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク質物ヲ取戻サルコトアルヘシ
- 第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九拾九條第四百壹條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物

- 品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ
- 第七條 贓物ノ疑アル品物又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル者アルトキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡查ニ密告スヘシ
- 第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ
- 第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品代價及買主ヲ調査スルニ差支ナキ様流質物賣拂帳ニ記載スヘシ
- 第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ
- 第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキ若シハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ
- 第十二條 質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ
- 第十三條 警察官ハ何時タリトモ質屋ノ店舖ニ臨ミ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十五條 此條例チ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止ス

ルコトヲ得

- 第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
- 第十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ
- 第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

●石油取締規則沿革要領

明治十四年八月第四十號布告ヲ以テ石油取締規則ヲ制定シ十五年一月一日施行ス○同年第五拾號布告ヲ以テ前令施行期限ヲ十五年九月一日ト改定ス○十五年八月第四十四號布告ヲ以テ施行期限ヲ十六年七月一日ト改ム○十六年二月第六號布告ヲ以テ規則ヲ改定シ施行期限ハ從前ノ通心得シム○同年三月第十號布告ヲ以テ追テ布告アル迄前令施行期限ヲ延期ス

第八十五 石油取締規則 明治十六年二月十五日 布告第六號

- 第一條 石油ヲ分テ二種トシ閉塞發焰試驗法ヲ用ヒ攝氏驗温器三十度(華氏八十六度)以上ノ温度ニ達セサレハ發焰セサルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ發焰スルモノヲ第二種トス
- 第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療製藥調劑及ヒ物理學化

明治十四年八月第四十號及ヒ同年九月第五十號布告石油取締規則左ノ通改定ス十六年二月第十號ヲ以テ施行期限ハ追テ布告アルマテ延期ノ旨ヲ布告ス仍テ但書ヲ除去ス

學工藝上ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス

- 第三條 石油營業者ヲ分テ東京府下ハ警視廳擴業者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス其營業者ハ都テ管轄廳ノ許可ヲ受クヘシ但二類以上兼業スルトキハ別ニ其許可ヲ受クヘシ
- 第四條 石油ノ種類ハ内務卿ノ必要トスル地方ニ於テ檢査員ヲシテ之ヲ檢査セシムヘシ石油ハ檢査済ノ證アルモノニアラサレハ之ヲ販賣スルヲ許サス但擴業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限ニアラス
- 第五條 檢査済ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五石以内第二種ノ石油五斗以内トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルヘシ
- 第六條 石油營業者前條制限外ノ石油并ニ檢査未済ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳東京府下ハ警視廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第七條 第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ得ルモノトス
- 第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取り置キ一年間保存スヘシ但販賣時限ハ日出ヨリ日没マテトス
- 第九條 石油ヲ運搬スルトキハ其石油タルコトヲ表記スヘシ但其積卸ニ必要ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置ヘカラス
- 第十條 此規則ヲ犯シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

右奉 勅旨布告候事

第八十六 危害品船積法則

明治六年八月九日 布告第二百九十二號

危害ヲ生スヘキ物品ヲ漫リニ船積致シ候テハ他ノ物品ヲ傷害シ甚シキハ全船ヲ失ヒ人命ヲ損シ不容易儀ニ付左ノ條件之法則ヲ定メ當明治六年十月一日ヨリ令施行候條此旨布告候事
一 火藥硝石硫黃ノ類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂醬液并腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致シ候キハ其品名ヲ表包之外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船主船長又ハ運漕會社危難請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手數無之尋常ノ荷物ト伴リ之ヲ船積致シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内之罰金ニ處スヘキ事
一 尋常之品物トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危害品可有之ト見受候キハ船主船長運漕會社危難請合會社ハ何時ヲ限ラス何地ヲ論セス直ニ發包シテ之ヲ視查スルノ權利可有之事

但爲視查發包シタル荷物中ニ危害品無之キハ船主會社等之入費ヲ以テ故之如ク荷造可致然共其荷物中ニ危害品有之キハ是等ノ入費都テ荷主ヨリ可排事
一 此危害品ヲ船積セサル以前運漕會社又ハ危險請合會社之倉庫等ニ於テ見出スルハ之ヲ安全之場所ニ移シ置キ直ニ其管轄廳或ハ裁判所ヘ可届出事
但安全之場所ニ之ヲ移ス之費用ハ荷主ヨリ辨償可致事

一 此ノ危害品ヲ既ニ船積シタル後ニ見出ル之ヲ安全之場所ニ保テ難キ時ハ船中ニ於テ三人以上ノ保證人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ着港之上直チニ其次第書及ヒ荷主ノ姓名ヲ其地ノ管轄廳或ハ裁判所ヘ可届出事

但投棄シタル荷物及ヒ是ヨリ生スル荷主之損失ヲ辨償スルニ不及事
一 船長及ヒ運漕會社等荷主ト申合此危害品ヲ尋常之荷物トシテ船積シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内又之ヲ見出ストイハ官ニ訴ヘ出サルキハ金二百圓以内之罰ニ處スヘキ事

第八十七 不開港場規則難船救助心得方等ノ條目

明治三年二月廿九日 布告

不開港場規則難船救助心得方等ノ條目別紙彫刻之通被仰出候間此旨相達候事

(別紙)

外國貿易之儀ハ神奈川港ヲ初大坂兵庫長崎新潟箱館六ヶ所御取開相成候上ハ諸商賈トモ右場所オイト取引可致處不開港場オイト密商イタシ候哉之趣相聞以之外ノ事ニ候右ニ付而者先達而御布令之趣モ有之御條約面ニモ明細ニ掲載致シ有之儀ニ付向々オイト厚可相心得筋ニハ候得共津々浦々邊鄙之場所ニ至候而者取計方不相辨モノモ可有之或ハ難船救助之筋ト入混シ難船人ヘ對シ不親切之取扱イタシ候而者御交際上ニ差響候儀ニ付夫是以今般猶又廉々別紙之通心得方被仰出候依而者府藩縣オイト取締不行届其土民共外國人ヲ引入レ内密ニ

賣買致シ候節ハ假令其事不仕遂候共常人並其支配タル者マテ急度御答可被仰付候尤吟味之上其土地管領之モノ同意致シ居候歟又ハ心得ナカラ見通シ候儀相知レ候節ハ猶更嚴重御處分可有之候ニ付向々オイトテ取締之儀猶一層行届候様可致候事

一外國人之儀自己相對ヲ以雇入候儀不相成趣者兼而御布令之通ニ候得共諸學科又者國地開發或ハ西洋形之船々運用筋ニ付相雇度モノハ其次第ニヨリ御開届可相成條間給料年限等取極其筋々ヨリ書面ヲ以東京外務省へ可願出其上御印章御渡可相成候尤御印章所持之外國人者何レノ向ニ而モ御國人同様心得無隔意接待致シ無差支通行セシムヘシ候尤諸場所ニ而右御印章相改可申萬一右御印章所持不致外國人有之節者御許容不相願私ニ雇入候筋ニ付内地通行不相成儀者勿論竊ニ隠シ置相顯ル、ニ於テハ急度御沙汰之品モ可有之間心得違無之様可致事

午正月

太 政 官

追而別紙條目之儀者外務省ニ摺モノ有之候間不足之向者何部ニ而モ同省へ申立可受取候事

條目

不開港場取締心得方規則

一何レノ濱邊又者港浦ヲイテ西洋形之船入津候ハ、時刻ヲ移サス直様港役人役人不居合場所ハ村長ノ内ヨリ可罷出其船へ乗組入津之趣意可相尋事

但言語不通ニ而十分難相分儀モ可有之候得共初テ來ル外國船ハ故ナク入津イタシ候儀甚少候間其大意丈ケ和語手眞似ニテ相分可申候事

一尋問之上薪水食料ニ盡キ其品々ヲ求候タメ入津之儀ニ候ハ、其土地ヨリ横濱兵庫長崎新潟箱館迄之里數ヲ勘辨イタシ格別遠路ニモ無之候ハ、右品々ヲリトモ前文開港場之内へ參リ可受取旨申サトシ渡方ヲ斷リ可申或ハ右開港場へ七八十里又ハ百里モ遠キ場所ニ候ハ、無餘儀事ニ付其土地支配ニテ承届候上右里數ヲ計リ船中人數相當之分丈渡遣シ代金可受取事

但金高品數ハ勿論船之碇泊日數刻限等委細相認届出可申事

一其船之國名船名船主之名書付ニテ承リ糺スヘキ事

但船名者多シ船之艦ニ横文字ノ摺書ニテ認有之モノニ付右字様寫取置ヘキ事

一船ニ引上ケ有之國旗並船主之旗等總而目印ニ可相成モノハ其雛形寫取可差出事

一闕乏之品相渡候上出帆遲々致シ候様子ニ候ハ、早々出帆候様催促可致事

一御免許之上海岸測量之タメ船ヲヨセ候節ハ相當ニ世話イタシ岩石隠レ洲有之場所等差示可遣尤御免許之船ハ其印狀必ス所持イタシ居候事

一軍艦ニ候ヤ商船ニ候ヤ蒸氣船風帆船共總而船形大小トモ取糺相届可申事

一軍艦ニ候ハ、大砲之備有之商船トハ船形相違ニ付假令見ナレサルモノニ而モ相知レ可申

軍艦ハ別而何事モ禮儀ヲ正シ不敬之取扱イタサ、ル様可心掛候事

一薪水食料等船中必用之品之外餘分ハ勿論其外土地產物類相求度旨申立候トモ一切賣渡候事不相成萬一利慾ニ迷賣渡候者有之後日相顯ハルハニ於テハ吟味之上屹度御咎可有之爭

一船中ニ積載有之品々彼方ヨリ賣渡度段申立候トモ買求候儀是又一切不相成萬一竊ニ取引イタシ候節ハ前同様御咎可有之事

一濱邊ニ近キ村里之モ、其其濱邊之モ、其内々外國人ト荷物之取引致シ候様子ニ候ハ、其支配カ又者開港場へ可申立時諒ニヨリ御賞可有之事

一難船ニ無之食料闕乏等ニ托シ密商仕向候節ハ定而其土地ニモ右ヲ呼迎候者可有之速ニ探索之上彌密商イタシ候ニ相違無之候ハ、雙方トモサシ押外國人者引留置御國人ハ入牢手鎖等其土地相當之仕置ニイカシ早々申立差圖可受尤横文字之書付類後日之證據ニ可相成品ハ始末イタシ可置事

但各國御條約書ニ何レモ外國人共日本不開港場等ニ參リ密商シ或ハ密商ヲ企テントイカシ候者ハ其犯セル度毎ニ其品取上ケ爲過料メキシコドルラルニ而千枚ニ當候程御取立相成候間御國人ニ於テモ右同様之企致シ候モノ於有之者兼而御布告之通其品取上過料トシテ金千兩御取上之事

一御國人買求候西洋形商船ニ外國人乘組居万一商買取引等致シ度段申立候歟或ハ其乘組御國人手引ニテ商買致シ候様ニ相見候ハ、篤ト様子ヲ探索致シ嚴敷拒絕可致万一仕遂候跡ニ候ハ、其事實穿鑿之上早々其筋へ可申立事

但本文西洋形商船ニ不限御國通例之地乘船ニ而西洋人乘組居候節モ同様之事

一外國船ヲ御國人トモ借リ受開港場ヨリ開港場へ荷物運搬之儀ハ願之上御開港可相成筋ニ候得共不開港場へハ決而御開港無之儀ニ付万一不良之徒村民ヲ欺キ御免許受候ニ付賣買致シ度杯ト申唱へ候トモ一切差許申問敷事

但地方饑饉等ニテ不得止事外國船相雇不開港場へ相廻リ候事御免許無之筋ニモ無之其節ハ府藩縣之知事ヨリ其沙汰可有之且乘組人之内開港場之役人爲取締立會居候筈ニ付事實突留候上其取扱ニ可及事

一港へ碇泊イタサス沖繫リ又者其近海ニナイテ雙方ノ船出會致密商候様子ニ候ハ、是又早々穿鑿可致事

一不開港場へ外國船碇泊イタシ薪水食料而已賣渡候儀ニテ聊心障リ之事無之トモ其都度相届可申事

難船救助之事

一難船ニ而困苦之體ニ相違無之節ハ其困苦之輕重ニ隨ヒ相當ニ扶助イタシ可遣事

但船ニ乘組居リカタキ程ニ候ハ、其海岸最寄寺院也民家也可然場へ止宿爲致食料衣服等迄仕賄可遣事

一船之修復ニ取掛リ候ハ、鍛冶大工職其他人夫ハ勿論器材迄用意致シ可遣事

一乘組人之内溺死之尸有之歟或者滯留中病死之者埋葬之儀申立候ハ、墓所之内都合ヨキ場

所へ埋葬可爲致事

一洋中チイテ大船破摧シ乗組外國人之内猶船具等ニ取付生殘リ居候體見當候ハ、早々我船へ助ケ載開港場へ送届候歟又者其土地支配之者へ引渡其支配之者受取海陸便宜ヲ見計開港場へ可差送事

一難船漂着候ハ、早々外務省歟又者開港場之内可成里數近キ所へ晝夜ニ不限注進ニ及其掛リ官員之出張ヲ申立差圖可受事

一難破イタシ船難用立陸路ヨリ開港場へ罷越度段外國人ヨリ願出候ハ、承届附添之者可成餘計ニサシ出最寄之開港場へ可送届事

一困難之船隠レ洲等ニ乗懸ケ難引出其儘船主引拂候節ハ右船洋又ハ鐵具碇鎖等迄沈没之マ、追々流失候トモ又ハ村方ニ而取捨候トモ向後異存ナキ旨外國人ヨリ横文之書面取置へキ事

一難破之船洋其マ、差置外國人ハ一旦引拂追々右船引出シ方トシテ再可差越候ニ付其間船其外之モノトモ預リ置クレ候様外國人ヨリ相頼候トモ容易ニ引受申間敷彼方ヨリ遮而申立候ハ、其筋へ伺之上可引受勿論入費可相掛儀ニ付右賃銀受取候儀ハ不及申跡々ニ而異論不差起様何事ニモ書面可取置事

一沿海地方ニ於テ外國船困難ノ節救助方ニ付出費ノ儀ハ總テ其船主ニ屬シ相當ニ候得共船主ニ屬スヘカテサル部分於有之ハ内譯精細區分致シ其地管轄ノ府縣應ヨリ官費ヲ以テ仕

拂候事ト相心得船主へ談判致シ船主ヨリ相當償却高ノ外猶不足ノ殘額ハ内譯精細書相添管轄府縣ヨリ大藏省へ申出處分ヲ可受候或ハ船主ノ自費ト地方廳ノ官費ト區別判然致サ、ル部分ハ暫ク官費ヲ以テ操替置船主滯留中ナラハ其趣船主へ心得置セ若シ船主其他乗組ノ者既ニ困難場引拂後ナル時ハ先以テ最寄開港場ノ府縣長官へ照會シ同所長官ヨリ其旨船主又ハ船主管轄ノ領事へ申入置セ而後右區分ノ見込外務省へ申出何分ノ指揮ヲ可受若シ船主ヨリ受取ルヘキ分本人持合セ無之候ハ、證書取置是又前文同様開港場ノ府縣長官へ可相廻事八年第七十號布告ヲ以テ全條改正

一難破之船具又ハ沙滯之荷物或ハ船洋等賣拂度旨外國人ヨリ申立候ハ、右ハ相當之價ヲ以買求候儀不苦尤其段可相届事

一難船ニ而永々滯留可相成様子ニ候ハ、府藩縣トモ其筋ヨリ警衛之モノ可差出事

一乗組人無之西洋之難破船海岸へ漂着候ハ、其様子イサイニ可相届事

一總而外國人ニ取引イタシ候勘定書或ハ證書之類ニ至ル迄和文ニ而者難用立候ニ付彼國之文字ニ而爲相認書キ判又ハ調印爲致置ヘシ和文ニ而者後日之證ト難相成候此方ヨリ可差出證文等有之候ハ、和文ニ相認右へ調印イタシ可差出彼方ヨリ望候トモ意味不相知西洋文へ調印ハ勿論名面認載候儀不相成被欺候儀有之候トモ後ニ其詮無之事ト可相心得事
一右條目ニ有之伺出候儀又ハ届書トモ其場所ヨリ最近キ開港場歟又ハ東京外務省へ差出候事ト可相心得勿論事柄永引キ手輕ニ不相濟儀ハ開港場へ相届候上猶又外務省へ可申立事

右之通

午正月

〔一〕日本海岸ニ於テ英國船舶難破救助ノ費用支出方 明治十年七月二十五日 内務省達乙第六拾八號府縣
日本海岸ニ於テ英國船舶難破救助ノ費用向後別紙條目之通區別ヲ立支出相成候條右ニ添據可致處分尤モ取扱方ノ儀ハ
從前ノ通可相心得此旨相達候事

(別紙)

- 一英國船日本海岸ニテ難破ノ節官吏及ヒ巡查並ニ區戶長等其場所へ出張ノ諸費官員困難人ヲ護送ノ旅費其他官府ノ間
ニ報告スル諸費ハ總テ御國政府ノ給スル所タリ但シ難破セル者又ハ英國政府ヨリ償却セシムヘキ分左ノ通
- 第一救助人足及ヒ大小船雇賃並沈没荷物引上人足賃
- 第二船或ハ其破損諸具及ヒ荷物番人雇賃
- 第三困難船事件ニ相用タル薪炭蠟燭及破船場番小屋取建費其他雜費
- 第四困難人ニ給セシ衣類及脂料其他諸物品代
- 第五官語不通ノ爲官員ニ非ラサル通譯人雇賃及費用
- 第六困難人開港地へ發足ノ節荷物運送及途中諸費用
- 第七困難人溺死シタル時其搜索入費
- 第八同前ノモノ死傷スルトキ治療埋葬入費

〔二〕日英兩國船舶難破救助費用償還方 明治十二年三月二十六日 内務省達乙第六拾五號府縣へ達

明治十年七月乙第六拾八號ヲ以テ英國難破船救助費支出方之儀相達候處今般日英兩國船舶難破救助費償還方ノ儀ニ
付別紙之通約定書交換相成候條此旨相達候事

(別紙)

日本政府ニ於テ英國難破船人救助ノ爲メ衣類食料旅費或ハ溺流人骸ノ救援或ハ病者負傷者ノ治療其外死去人ノ埋葬ニ係
ル諸入費ハ英國政府ヨリ日本政府へ償還スヘシ英國政府日本難破船人ヲ救助スル時ハ日本政府ニテ右同様ノ手續タルヘ
シ
日本政府又ハ英國政府ハ何レモ破船又ハ船内物貨ノ回復或ハ其保護ニ係ル費用ハ之ヲ償還スルノ責ニ任セサルヘシ總
テ斯ノ如キ費用ハ難ヲ免レタル貨物ヲ以テ右貨物ヲ受取ル節右關係ノ者ヨリ其費用ヲ償却スヘシ
日本政府又ハ英國政府ハ難船ノ場所ニ出張スル政府ノ官吏警察吏又ハ地方官ノ費用即チ難船人護送ノ官吏ノ旅費及ヒ
公信往復費ヲ拂ハサル可シ是等ノ費用ハ右官吏警察吏及ヒ地方官所屬ノ政府ニ歸ス可キ者トス

〔三〕日米兩國難破船舶費用償還方 明治十四年九月二十八日 内務省達乙第六拾五號府縣へ達

(別紙)

日本帝國ト米利堅合衆國ト俱ニ約ヲ締ヒ以テ此國ノ船被邦ノ海岸ニ於テ難破ノ際ニ當リテ支出ス可キ一定ノ費用償還
ノ法ヲ設ケン事ヲ欲シ仍テ之カ爲メニ特約ヲ結フニ決意シ其全權委員トシテ日本國
皇帝陛下ハ外務卿正四位勳一等井上馨ヲ之ニ任シ米利堅合衆國
大統領ハ閣下ニ駐劄セル合衆國特命全權公使ジョン、エー、ビンナムヲ之ニ任シ互ニ其委任狀ヲ相示シ其式ノ善良適切
ナルヲ認メテ訂約スルノ如シ
凡ソ風波ノ難ニ罹レル日本ノ國民ヲ救ヒ之ニ衣食シ之ニ旅費ヲ給シ若クハ溺者ノ遺骸ヲ收得シ病者傷者ノ醫料ヲ償フ
ノ力ナキハ之ニ醫藥ノ資ヲ給シ若クハ死者埋葬等ノ爲メ合衆國政府ニ於テ支出シタル諸費ハ宜シク日本政府ヨリ之ヲ
償還スヘシ又合衆國市民ノ難破ニ遭遇シ日本政府ヨリ扶助ヲ受クル者アル時ニハ合衆國政府宜シク上下同様ノ手續ニ
遵フヘシ然レトモ日本政府ニ於テモ將タ合衆國政府ニ於テモ難破船乃至其船中ノ貨財ヲ收回保存スルニ方リテ支出シ

ナル費用ニ至テハ之ヲ償還スルノ責任ナカルヘシ凡テ道標ノ費用ハ其拾得シタル貨財ニ課シコレニ關係アル輩ヲシテ
該貨財引取ノ上償還セシムル者トス
日本政府ニ於テモ將タ合衆國政府ニ於テモ其難破ノ地ニ出張セシムル政府ノ官吏警察吏或ハ地方吏ノ手當又ハ難民ヲ
護送スル吏員ノ旅費若クハ公信往復ノ費用ハ之ヲ取立サルヘシ此類ノ費用ハ右官吏警察吏地方吏所屬ノ國ノ政府ニ於
テ負擔スルモノトス

此約書ハ正當ノ法式ニ從ヒ各自政府ニ於テ之ヲ批准シ其批准ハ可成速ニ之ヲ華盛頓府ニ於テ交換シ右交換後三十日ヲ
越ヘ之ヲ各自ノ國中ニ實施スル者トス

此約書ハ日本文及ヒ英文各二本ヲ作り右ノ證據トシテ茲ニ兩國ノ全權委員各其名ヲ記シ印ヲ鈐ス
東京ニ於テ
明治十三年五月十七日
西曆千八百八十年五月十七日

井 上 啓 印

ツヨシ、エー、ビンハム 印

第八十八

内國船難破及漂流物取扱規則

明治八年四月二十四日
布告第六十六號

内國船難破及漂流物取扱規則別冊ノ通相定候條本年六月一日ヨリ施行可致此旨布告候事
但本年同日ヨリ浦高札ハ廢シ候事

(別冊)

内國船難破及漂流物取扱規則

第一條 諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破沈没其他ノ災厄ニ逢ヒ候節救助心得方及ヒ之ニ屬
スル諸費用ノ立方ハ總テ左ノ箇條ニ從テ取扱フヘシ

第二條 各地浦方ニ於テ難破救助ノ爲メ其管廳ヨリ區戸長其他用掛リ等ノ内ヲ以テ適宜ニ
浦役人ヲ申付置クヘシ

第三條 諸通船難風ノ爲ニ困難シ又ハ其他災厄ニ罹リ候節ハ最寄ノ者見附次第直チニ浦役
人ニ報知シ且ツ浦役人ヨリ指圖無之ニ速ニ助船ヲ出シ救助方精々盡力致スヘシ

但救助ノ者困難船ニ漕寄セ候節船長其他重立タル者ヨリ頼談無之内ハ猥リニ船中ノ物
品ヲ積ミ移ス可カラズ

第四條 浦役人ハ難船ヲ見附或ハ其報知ヲ得ル時ハ速カニ其乗組人及ヒ船體積荷ヲ救助保
安スルノ手立ヲ盡ス可シ若シ多人數ヲ要スル程ノ大難船ト見受ケ候節ハ板木半鐘等打鳴
ラシ人數ヲ呼聚メ且近隣ノ船持ニ申付助船ヲ出サシム可シ

第五條 少人數ニテ救助ヲ得ヘキ時ハ勿論前條ノ如ク多人數ヲ要スル程ノ大難船ノ節モ浦
役人ニ於テ諸事取締ヲ付ケ成丈ケ失費掛カラサル様篤ク注意致シ救助方行届候ハ、早速
人數ヲ退散セシム可シ

第六條 保安シタル船具積荷其他ノ物品ハ最安全ニ且便利ノ場所ニ之ヲ置ヘシ尤小屋掛
ヲ要シ番人ヲ差置クヘキ程ノ場合ニ於テハ夫々其手數ヲナシ諸事懇切ノ取扱ヲ致スヘシ
第七條 難破ニ逢ヒタル船長又ハ乗組ノ者ハ上陸次第直チニ電信郵便其他ノ急報ヲ以テ之

第五類 第二章 警察上取締諸則

九年第五十七
號(第五十七
九)及廿一年
法律第一號
(第五十七)市
制第七十四條
町制第六十條
九條參看

ナ船主又ハ荷主ニ報知ス可シ

第八條 難船物ヲ保安スル者ヘハ左ノ割合ヲ以テ保安料ヲ遣ハス可シ

第一 海面ニ漂流スル物品ハ其二十分一

第二 海中ニ沈没スル物品ハ其十分一

第三 川面ニ漂流スル物品ハ其三十分一

第四 川底ニ沈没スル物品ハ其十五分一

但其所持主ノ都合ニ因リ代價又ハ現物ヲモ妨ケナシ

第九條 浦役人ハ救助ノ爲メ集マリタル人數及ヒ救助ノ爲メニ出シタル小舟現ニ難船品ヲ保安シ及ヒ是レニ就テ盡力シタル證據顯然タラサルニ於テハ保安料及ヒ其他ノ賃錢等ヲ割渡ス可カラズ

第十條 保安シタル物品又ハ船滓等ノ餘殘物又ハ沙入り水濡レ等ノ爲ニ腐敗スヘキ恐レアルモノハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上其所ニ於テ之ヲ入札拂ヒニ爲スナ得可シ

但本條ノ場合ニ於テハ浦役人ニテ成ルヘク丈ケ最寄ヘ廣告シ公ケノ場所ニ於テ入札人其他衆人ノ眼前ニテ之ヲ爲シ且其物品ノ目錄及ヒ買人ノ證書並ニ其附直段ノ第三番迄ヲ取置クヘシ

第十一條 保安物ヲ賣拂ヒタルキハ其代價金高ノ内ヲ以テ左ニ掲載シタル諸費用ヲ其船主

荷主ヨリ出サシム可シ

第一 保安料

第二 救助ノ節働人足賃及ヒ小舟賃

第三 保安物ノ爲ニ取設タル小屋掛ケ入費及ヒ番人ノ賃錢

第四 乗組ノ者怪我人有之節其療養入費

第五 同前ノ者溺死スルキ其搜索入費

第六 同前ノ者溺死ノ節埋葬入費

若シ物品賣拂金高諸費ノ高ヨリ少キキハ其金高限リ出サシメ不足ノ分及ヒ賣拂フヘキモノモ之レナキキハ第十五條ニ照準シテ處置ス可シ

第十二條 左ニ掲載シタル諸入費ハ之ヲ三分シ其二分ハ船主荷主ヨリ出サシメ其一分ハ之ヲ其管内民費トス可シ

第一 難船取扱中浦役人ノ日給

第二 浦方ニ於テ難破ノ爲ニ費シタル薪炭蠟燭及ヒ筆紙墨代

第三 浦方ヨリ管廳其外等ヘ發シタル電信郵便及ヒ飛脚賃

第四 救助人溺死シタル時其搜索入費

第五 同前ノ者死傷スル時治療埋葬入費

第十三條 難破ノ節浦方ヨリ乗組人ニ給セシ衣服食物其他ノ必要品代料又ハ歸郷旅費等ヲ

第五類 第二章 警察上取締諸則

十一年第十九號
號布告ヲ以テ
從前ノ府縣稅
民費ヲ地方稅
ト改メ

貸遣シタル時ハ證書取置キ第十九條ノ通り精算書中ニ記載シ追テ本人ヨリ償却セシム可シ

第十四條 大難船ノ節諸費用割賦ノ儀ハ 船體皆破沈没乗組人ノ死去及積荷ノ大損害ヲ生シ荷主船主立會決算ヲ要スル等ノモノ 現場ノ救助方ヲ除クノ外各船ノ處置ハ其管廳ニ申立テ其筋出張官員ノ差圖ヲ受ク可シ尤モ小難船ノ處置ハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上之ヲ決スルヲ得可シ

第十五條 船體積荷ヲ併セテ悉皆沈没ニ至ルノ大難船ハ浦方ニ於テ其救助ノ爲ニ許多ノ雜費相掛リ候トモ船主荷主ヨリ之ヲ取立ルヲ得ス故ニ其差出スヘキ費用ノ分ハ官費ヲ以テ支給スヘキニ付費用明細帳ヲ作り浦役人船長連署押印シ管廳ヘ差出ス可シ

第十六條 危難ヲ冒シテ乗組人ノ必死ヲ救フ者又ハ救助ノ爲メ盡力シテ死傷ニ至ル者アルキハ必ス管廳ヘ届出ヘシ其事實ノ輕重ニヨリ相當ノ賞譽或ハ手當金ヲ給ス可シ

第十七條 總テ浦役人及船長合議ノ上處置シタル時ハ其事柄ヲ詳細ニ記シタル證書二通ヲ作り之レニ連署押印シ其一通ヲ船長ヘ渡シ他ノ一通ヲ浦役人ニテ保チ置クヘシ

第十八條 二名以上ノ浦役人合議ノ時ハ其内一名ハ必ス他村ヨリ出ス可シ

第十九條 難船救助ニ屬スル諸費用ハ二名ノ浦役人及船長其他重立乗組ノ者二名以上立會ノ上第十一條第十二條第十三條第十五條ニ照シテ夫々其費用ノ種類ヲ區別シ成ル可ク速

カニ精算書ヲ作り之ニ難破明細書ヲ添テ管廳ニ差出シ其檢査ヲ受ク可シ但精算取調ノ節ハ成丈ケ船主又ハ荷主ノ立會ヲ要ス可シ

第二十條 前條ノ精算書ハ管廳ニ於テ速カニ調査ヲ遂ケ不審ノ廉無之キハ早速下ケ渡ス可シ然ル上浦役人ハ第十五條ニ記スル場合ヲ除クノ外船主荷主或ハ船長ヨリ夫々出金致サスヘシ若シ其即時辨金相成難キ分ハ相當ノ日數ヲ猶豫ス可シ

但シ〔民費〕ノ分ハ其管廳ヨリ取立浦役人ヘ下渡ス可シ
第二十一條 洋中ニ於テ難破或ハ打荷等有之趣ヲ以テ浦證文ヲ願出ル時ハ二名以上ノ浦役人立會ノ上船長及ヒ乗組ノ者二名以上ヲ別々ニ取調ヘ其實跡アルカ又ハ航海日記アルモノハ之レニ照シ各々符合スル時ハ浦證文ヲ作り連署調印シテ之ヲ船長ニ付與シ寫ヲ以テ管廳ニ届出ヘシ

但浦證文中左ノ箇條ヲ載ス可シ

- 第一 難破ニ逢タル場所其時日及ヒ風波ノ模様
- 第二 破損ノ箇所
- 第三 打荷ノ種類箇數並他ノ積荷ノ種類
- 第四 船號及ヒ免狀ノ番號並船主船長ノ本貫苗字名乗組人數
- 第五 荷打シタル荷物主ノ苗字名本貫
- 第六 仕出シ地及ヒ仕向ケ地ノ港名
- 第七 乗組ノ内死傷有之キハ其本貫苗字名年齢
- 第二十二條 軍艦其他ノ官有船困難候節ハ早速助船ヲ出シ精々盡力シテ救助ス可シ且其難

破ノ大小ニ拘ハラズ其旨ヲ直チニ管廳へ報知ス可シ

第二十三條 前條ノ救助ニ屬スル諸費用ハ船將又ハ其筋ノ船官ヨリ直チニ受取ヘシト雖モ總テ管廳ノ指揮ヲ受クヘシ

但シ第十一條ニ記載スル保安物ニ就テハ別段相當ノ手當ヲ與フ可シ

第二十四條 貢米及ヒ其他ノ官物ヲ積入候船難破ニ及ヒ候節現場救助ヲ除クノ外總テノ處置ハ管廳へ申立ノ上其指揮ヲ受ク可シ

但郵便物ヲ積込候船ハ其最寄郵便役所又ハ取扱所へ郵便行囊ヲ至急引渡ス可シ

第二十五條 難船取扱ノ間浦役人ノ日給ハ一日五十錢ヨリ多カラス十錢ヨリ少ナカラサルモノトス

難破ノ節働人足賃及ヒ小舟賃ハ土地ノ異同ト勞役ノ難易ニ依リテ同シカラスト雖モ各管廳ニ於テ適宜見積リ豫カシメ其額ヲ定メ置ク可シ

第二十六條 船長及ヒ擔任ノ者怠慢ニヨリ難破沈没其他ノ損害ヲ生スル時ハ右損失ヲ其者ヨリ償却セシムヘシ若シ其災厄人智ノ前知ス可カラス人力ノ豫防ス可カラサルニ出ルヲ瞭然明證スル時ハ此限ニアラス

第二十七條 浦役人船長其他救助ノ者ト申合セ其保安シタル難船物ヲ沈没ト偽リ竊ニ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分ス可シ

第二十八條 凡テ難船ノ節救助ニ託シテ積荷船具其他ノ物品ヲ竊盜或ハ掠奪スル者又ハ其

竊盜掠奪ニ與スル者或ハ其本犯ヲ陰匿スル者又ハ竊盜物ト知テ之ヲ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分ス可シ

第二十九條 以下漂着ノ部 凡原因ノ知レサル難船漂着物及ヒ乗組人ナキ漂着船ヲ見附ル者ハ之ヲ浦役人ニ報知ス可シ浦役人ハ其調査ヲ作リ之ヲ其管廳へ届出可シ

第三十條 乗組人ナキ船ハ其漂着ノ月日船ノ大小破損ノ模様等ヲ精細ニ書記シ漂着物ハ其品名箇數等精細ニ書記ルシ其漂着近傍人民輻輳ノ地ノ揭示場及ヒ船改所へ六十日間張出ス可シ尤モ漂着物ノ代價二十圓以上ト思量シ或ハ二十圓以下タリモ必要ノ品柄ト思量スル時ハ其管廳ヨリ三府五港ノ管廳及ヒ税關へ報告シテ張出ナシ或ハ新聞紙ニ載セテ公告ス可シ

第三十一條 漂着物ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ

第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ三分一ヲ取揚主ニ與ヘ其現品ハ持主ニ返還スル事但持主ノ情願ニヨリ現品賣拂ヒ其代價ニテ受取ルヲ得可シ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之レヲ公賣シ其代價ヲ平分シ一半ハ其取揚主ニ與ヘ一半ハ官ニ收ムル事

但シ三ケ年以内ニ其持主知レタル時ハ官ニ收メシ部分ハ下戻ス可シ

第三十二條 乗組人無之漂着船ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ
第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ十分一ヲ見附主ニ與ヘ其船ハ持主ニ返還スル事

但書ハ前條第一項ニ同シ

第二 一ヶ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ其代價ノ三分一ヲ見附主ニ與ヘ其餘ノ二分ハ官ニ收ムル事

但書ハ前條第二項ニ同シ

第三十三條 前二條ニ記スル場合ニ於テハ律例得遺失物ノ條ト牴觸スルコトナカル可シ

第三十四條 凡漂着物ヲ保存シ及ヒ之ヲ公告スル等ノ事ニ付費用アルモノハ第十一條ニ照シ浦役人ノ奥印シタル證書ヲ以テ代價ノ全部中ヨリ之ヲ償却ス可シ

第三十五條 洋中ニ於テ難破イダシ桅樁其他ノ船具ニ取附キ海岸ニ漂着致シ候者有之節ハ浦役人ヨリ一通リ取調ヘ相當ノ保護ヲ加ヘ置直チニ管應ニ届出其指揮ヲ受ク可シ尤モ本人歸郷ノ旅費其他ノ手當等貸遣ハシ候節ハ第十三條ノ通り追テ本人ヨリ償却セシム可シ

第三十六條 凡漂着物ヲ見附ケタル者之ヲ浦役人ニ報知スルコトナク其物品ヲ私カニ使用シ又ハ之ヲ賣買スル者ハ第二十八條ニ照シテ處分ス可シ

第三十七條 暴風雨等ニテ流失ノ材木ヲ取揚ケル時ハ此規則第二十九條以下ニ照準シ其代價十分ノ一ニ過キサル取揚料ヲ遣スヘシ十年三月廿九號布告ヲ以テ全條改正

第三十八條 前條ノ場合ニオイテ取揚タル材木巨大ニシテ領置ニ不便ナルモノハ官之ヲ公賣シ其代價ヲ以テ現物ト看做シ材主ノ有無ニ從ヒ處分スヘシ十一年十月第三十二號布告ヲ以テ本條追加

● 伺指令

● 漂流ノ訴訟文通用野紙拾揚處分ノ伺指令 明治十六年十一月八日 和歌山縣伺

第一條 訴訟用野紙ト雖モ其拾揚人ハ内國難破船及漂流物取扱規則ニ依リ相當保安料給與スヘキ儀ニ候得共該野紙ハ普通ノ物品ト異ニシテ規則ニ依リ賣下爲取扱候儀ニ付撰リニ人民ニ於テ取扱フヘキモノニ無之且本紙ハ已ニ潮入ト相成廢物ニ屬セシ者ニ有之候就テハ其見積代價ハ如何相立可然哉

第二條 前條用紙ハ假令流船黃龍丸ノ積載品ト推測スルモ現場難破船ノ保安ニアラスシテ難破ノ當日ヨリ五日ヲ經過シ數里隔絶セル場所ニ於テ拾揚候儀ニ付規則第八條ニ據ラス全ク第三十一條ヲ適用シ可然哉

第三條 前條用紙積載ノ際又ハ到達スヘキ應等追テ判然候モ到底正當ノ賣下用ニ不相成モノニ付其應ヘ送達ヲ要セス明治九年四月大藏省乙第三十六號達ニ準據シ當廳ニ於テ燒却取計可然哉

內務省指令 明治十七年二月十四日

伺ノ趣内國難破船及漂流物取扱規則ニ依ルノ限ニ無之拾揚者ヘ其費用ヲ可下渡候條金員取調更ニ可申出事但第三條現品處分方ノ儀ハ申出ノ通

附 錄

街路、乗合馬車、營業人力車及宿屋取締規則標準 明治十九年六月十四日

內務省訓令第
十七號廳府縣

乗合馬車人力車宿屋ノ營業及街路ニ於ケルヤ警察上各其取締ノ方法ヲ設ケサル可カラズ而シテ民度ノ高低土地ノ都鄙ニ由リ其間自ラ寬嚴ノ差ナキヲ得サルモノナレハ必スシモ各地畫一ノ制ヲ要セスト雖モ大體ニ於テ其則ヲ取ル所ナカルヘカラス依テ今般街路乗合馬車營業人力車及宿屋取締ノ件ニ付別冊ヲ編制シテ其標準ヲ示ス各地方ニ於テ各其標準ノ趣旨ニ

從ヒ便宜増損規則ヲ設ケ本省ノ認可ヲ經テ施行ス可シ

別冊

街路取締規則標準

第一章 通則

第一條 街路ト稱スルハ道敷及道敷ニ沿フタル下水並橋梁トス

第二條 本則ハ市街ノ道路ニ適用スヘキモノトス

第三條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠ルトキハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徴収スヘシ

第二章 街路ノ安寧及保存

第四條 街路ニ建物軒檐旗柱招牌物干等ヲ設ケ或ハ出スヘカラス

第五條 左ノ諸件ニ係ルモノハ街路ニ出スコトヲ得ヘキモノトス

一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以内

二 軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺六尺以上ハ一尺五寸以内

三 日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内

四 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内

第六條 左ノ事項ハ其場ノ圖面ヲ添ヘ管轄廳ニ願出允許ヲ受クヘキモノトス

一 街路ニ床店腹簀張ヲ設クル事

二 街路ニ樹木ヲ植ヘ又ハ街燈ヲ建ツル事

三 街路ニ柵欄支柱ヲ設ケ又ハ齒止石ヲ置ク事

四 街路ニ華表碑表及指道標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スル事

五 街路ニ目塗土置場ヲ設クル事

六 工事ノ爲メ一時街路ニ竹木土石類ヲ置キ或ハ板圍繩張足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル事

七 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スル事

八 一時街路ニ舞臺(神佛祭典等ノ節)小屋掛(歲市肆市等ノ節)及店飾ヲ設クル事

九 街路ニ神輿山車又ハ手踊屋臺ヲ出ス事

十 神佛送迎ノ爲メ街路ニ飾物ヲ出シ又ハ奉納物ヲ牛車ニテ運搬スル事

十一 街路ニ消防具其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ置ク事

十二 工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スル事

十三 車馬通行停止ノ榜示アル場所ニ車馬ヲ出入スル事

第七條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタル者ハ直ニ原形ニ復スヘシ

第八條 街路ニ出タル軒檐ニハ軒樋及堅樋ヲ設クヘシ其堅樋ハ街路ノ地盤ニ設クルコトヲ得ス但檐溜ノ下水ニ落ルモノハ此限ニアラス

第九條 街路ニ沿フタル宅地ニシテ奥行九尺以上ノ空地アル場所ハ其模様ニ依リ道敷ノ境

第五類 第二章 警察上取締諸則

界ニ墻塀ヲ設クヘキモノトス

第十條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置クトキハ鐵鎖其他強韌ナル繩索ヲ以テ之ヲ纏束シ又薪炭其他ノ物件ヲ堆積スル者ハ顛仆セサル様堅牢ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十一條 街路ニ沿フタル建設物及樹木等崩壞、顛仆ノ虞アルモノハ速ニ修理撤却若クハ扶植伐採スヘシ

第十二條 街路ニ竹、木、土、石類ヲ置クトキハ標識ヲ設クヘシ

第十三條 運搬中ノ建物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クトキハ路傍ニ片寄セ標燈ヲ掲クヘシ

第十四條 街路ノ井戸ニシテ通行ノ妨害ヲ爲スヘキモノト認ムルトキハ地並ニ堅牢ナル蓋ヲ以テ之ヲ覆ハシムヘシ

第十五條 道路、橋梁、溝渠、下水ヲ毀損壅塞シ街路樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス

第十六條 制札、指道標、便所及墻壁等ヲ毀棄汚損シ又ハ樂書、貼紙ヲ爲スヘカラス

第十七條 街路ニ家畜ヲ放置シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十八條 街路ニ商品、薪炭、荷車其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置クヘカラス

第十九條 街路ニ於テ荷造木挽其他ノ作業ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第二十條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲ爲スヘカラス

第二十一條 街路ニ於テ濫ニ放歌シ若クハ喧噪シ高聲ヲ發シ又ハ偃臥スヘカラス

第二十二條 街路ニ於テハ管轄廳ヨリ指定シタル區域ノ外露店、屋臺店ヲ出スヘカラス

第二十三條 行商ニ用フル荷車ハ長サ八尺巾三尺屋臺店ハ長サ六尺巾三尺ヲ超過スヘカラス

第二十四條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ塵芥雜草ヲ存スヘカラス

第二十五條 街路ノ積雪ハ午前八時迄ニ掃除スヘシ但午前八時後日沒迄ノ降雪ハ降歇後直ニ掃除スヘシ

第二十六條 掃除シタル雪ハ河海下水其他妨害ト爲ラサル場所ニ投棄スヘシ

第二十七條 炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水ヲ洒クヘシ但冬季ハ風日ト雖モ午前九時前午後三時後ハ水ヲ洒クヘカラス

第二十八條 汚水ヲ街路ニ洒注スヘカラス

第二十九條 下水ハ毎年二回以上浚渫スヘシ其浚ヒ揚ケタル淤泥、塵芥等ヲ街路ニ布キ又ハ路傍ニ留置クヘカラス

第三十條 街路ニ於テ便所コアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第三十一條 街路ニ於テ敷物、疊、穀類其他ノ塵埃ヲ掃フヘカラス

第三十二條 街路ヲ運搬スル物品ハ墜落、漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第五類 第二章 警察上取締諸則

第三十三條 街路ニ臨ミタル屋根、物干又ハ窓手摺等ニ縊褻其他見苦敷若クハ危險ナル物品ヲ置クヘカラス

第四章 街路ノ通行

第三十四條 牛馬及諸車ハ夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十五條 馬車及牛車ハ幅員三間以内ノ街路ヲ通行スヘカラス但其街路ニ沿フタル家屋ニ出入スル者ハ此限ニアラス

第三十六條 車ハ小兒車ヲ除クノ外其種類ノ如何ナ間ハス跡押ノミニテ運轉スヘカラス

第三十七條 末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ纏束スヘシ

第三十八條 牛馬諸車ハ車馬道ノ設アル地ハ左側其設ナキ地ハ中央ヲ通行スヘシ

第三十九條 牛馬諸車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第四十條 車二輛以上ヲ連繫シテ輓クヘカラス但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限ニアラス

第四十一條 牛馬二頭以上ヲ連繫シテ牽クヘカラス但賣買等ノ爲メ輸送スル牛馬ハ此限ニアラス

第四十二條 車馬及歩行者行逢フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊并砲車、輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

第四十三條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

第四十四條 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

第四十五條 郵便用、消防用ニ供スル車馬及ヒ灌水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第四十六條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行スヘシ

第四十七條 車馬街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第四十八條 牛馬諸車其他ノ物件ヲ道路ニ横ヘ若クハ妨害物ヲ軌道ニ置クヘカラス

第四十九條 制止ヲ肯ンセスシテ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカラス

第五十條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ牛馬、諸車ヲ駐止スヘカラス

第五十一條 街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ輓テ彷徨シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第五十二條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嚇シ又ハ驚逸セシメ若クハ殘虐ニ扱フヘカラス

第五十三條 街路ニ於テ看護人ナク五年未滿ノ小兒ヲ遊歩セシメ又ハ遊戯ヲ爲サシムヘカラス

第五十四條 街路ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ又ハ獨樂、羽子、手毬等ヲ弄シ若クハ其他ノ遊戯ヲ爲スヘカラス

第五十五條 街路ニ於テ軍談、輕業其他人寄セテ爲スヘカラス

第五十六條 人道車馬道ノ區別アル場所ニ在リテ牛馬諸車ヲ人道ニ牽入レ又ハ濫ニ車馬道

第五類 第二章 警察上取締諸則

ヲ步行スヘカラス但人道ニ於テ小兒車ヲ推シ又ハ居住者ニシテ牛馬及空車ヲ其地内ニ出入シ若クハ許可ヲ受ケ地盤ニ相當ノ構造ヲ爲シテ實車ヲ出入スル者ハ此限ニアラス
乗合馬車取締規則標準

第一章 通則

第一條 乗合馬車營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳ニ願出免許證ヲ受クヘシ

第二條 營業者ニ關スル願届ハ總テ頭取ノ加印ヲ要ス

第三條 營業者ハ馭者馬丁ノ族籍住所氏名年齢ヲ管轄廳ニ届出一人ニ付鑑札一箇ヲ受クヘシ

第四條 營業者自カラ馭者馬丁ノ業ヲ爲サントスルトキハ總テ馭者馬丁ノ例ニ從フヘシ

第五條 馭者馬丁ノ鑑札ハ毎年一回管轄廳ノ檢査ヲ受クヘシ其檢査ヲ受ケサルモノハ無効タルヘシ

第六條 車體及馬匹ハ毎年二回管轄廳ノ檢査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ其買受讓受ヲ爲シ又ハ車體ヲ新造改造シタルトキハ定期ニ拘ラヌ檢査ヲ受クヘシ

第七條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

一 轉居、改氏名其他免許證、車馬檢査證、鑑札面ニ異動ヲ生シタル時

二 免許證、車馬檢査證、鑑札ヲ遺失、毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時

第八條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出免許證、車馬檢査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

一 廢業又ハ車馬ノ使用ヲ廢シタル時

二 車馬ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時

三 馭者馬丁ヲ解僱シ又ハ馭者馬丁ノ失踪逃亡若クハ死去シタル時

第九條 免許證、檢査證鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第十條 馬車ヲ運轉スルニハ馭者馬丁ヲ缺クヘカラス

第十一條 乗客ノ員數ハ車體、馬力ニ應シ之ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 車馬檢査證ハ檢査毎ニ之ニ檢印ヲ受ケ馬匹檢査證ハ其頸輪ニ結着シ車體檢査證ハ車體内部ノ見易キ所ニ釘付スヘシ

第十三條 檢査證アル車馬ト雖モ第十五條第十六條ノ制限ニ適セス又ハ其車體器具ノ破損若クハ不潔ニ至リ或ハ馬匹疾病衰弱ノ狀アルヲ認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘキモノトス

第十四條 營業者ハ檢査證鑑札各一箇ニ付管轄廳ニ於テ定ムル手数料ヲ納ムヘキモノトス

第二章 車體馬匹及器具

第十五條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 車ハ四輪以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘキモノトス

二 車體ハ無地漆塗ニシテ其屋根ハ木製ノモノトス

三 客座ハ清潔、適當ノ裝置ヲ爲スヘキモノトス但一人ノ座席ハ巾一尺二寸ヲ下ルヘカ

第五類 第二章 警察上取締諸則

四 車輪ニハ泥除ヲ設クヘキモノトス

五 車體前面ノ兩側ニハ硝子燈ヲ備フヘキモノトス

六 運轉器、心棒、發條、力革、手綱及其他ノ器具ハ堅牢、強靱ノモノヲ用フヘキモノトス

第十六條 馬匹ハ五歳以上ニシテ強壯ナルモノニ限ルヘシ

第十七條 馬匹ニハ検査證ヲ結着スル爲メニ頸輪ヲ設クヘシ

第三章 馭者馬丁ノ資格及服裝

第十八條 馭者ハ滿二十年以上馬丁ハ滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者且馭者ハ馭術ニ

熟達スル者ニ限ルヘシ

第十九條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ醉狂又ハ暴行ノ癖アル者若クハ強竊盜、強姦及過失

ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ馭者馬丁タルコトヲ得ズ其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者

亦同シ

第二十條 馭者馬丁ハ左ノ制限ニ從ヒ地方毎ニ一定ノ服裝ヲ爲スヘキモノトス

一 馭者 帽子、筒袖、ツボン、靴

二 馬丁 帽子又ハ笠、法被、股引但雨雪泥濘ノトキハ半股引及ゴム引又ハ桐油製ノ雨具

ヲ用フルモ妨ナシ

第四章 馭者馬丁就業制限

第二十一條 鑑札及乗合馬車取締規則ヲ所持シ警察官吏又ハ乗客ニ於テ見ノコトヲ求メダ

ルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十二條 頰冠リ鉢巻其他不體裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第二十三條 馭者ハ馬車ヲ離ルヘカラス但馭者避クヘカラサル事故アルトキハ馬丁ヲシテ

馬車ノ管守ヲ爲サシムヘシ

第二十四條 老幼及婦女昇降ノ際ハ懇篤ニ保護ヲ爲スヘシ

第二十五條 乗客着席シ又ハ降車シ畢リタル後ニアラサレハ車ヲ進行スヘカラス

第二十六條 乗客中粗暴ノ所爲アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ降車セシムヘシ

第二十七條 馭者臺ニ客ヲ乗載シ又ハ屋根ニ物品ヲ載スヘキ構造ヲ爲サシテ物品ヲ載ス

ヘカラス

第二十八條 行車中ハ飲食又ハ喫煙ヲ爲スヘカラス

第二十九條 制止ヲ肯セズ出火場其他群集ノ場所ニ馬車ヲ入ルヘカラス

第三十條 他人ヲシテ馬ヲ馭セシムヘカラス

第三十一條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第三十二條 馬車ヲ並ヘ馳セ又ハ濫ニ疾驅シ若クハ競走スヘカラス

第三十三條 馬車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 車馬道ノ設ケアル場所ハ左側其設ケナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ

第五編 第二章 警察上取締諸則

二 車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊并砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ
 三 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
 四 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ右ニ避ケ後車ハ左ヲ通過スヘシ
 五 郵便用消防用ニ供スル車馬灌水車及又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ
 第三十四條 二車以上引續キ行進スルトキハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ
 第三十五條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角、橋上ヲ通過スルトキハ徐行シ相當ノ合圖ヲ爲シ且馬丁ヲシテ前行セシムヘシ街角ニ於テハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ
 第三十六條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス
 第三十七條 馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラス
 第三十八條 夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス
 第三十九條 車體馬匹ハ常ニ清潔ニスヘシ
 第四十條 定員三分一以上ノ乗客アルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス
 第四十一條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之アルトキハ直ニ返付スヘシ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查交番所派出所ニ届出ヘシ
 第五章 乘載制限
 第四十二條 定員外ノ客ヲ乘載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ三年

未滿ノ者ハ定員外トス

第四十二條 左ニ記載シタルモノハ乘載スヘカラス

- 一 六種傳染病、疥癬、癩病其他乗客ニ於テ厭忌スヘキ病狀アル者
- 二 瘋癲者暴行者亂醉者及乞食體ノ者
- 三 汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚穢ノ虞アル物品
- 四 獸類

第六章 賃錢及駐車場

第四十四條 賃錢額ハ組合ニ於テ之ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受ケ車内及駐車場ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第四十五條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第四十六條 駐車場ニハ(乗合馬車駐車場)ト記シタル標識ヲ設クヘシ

第四十七條 駐車場ノ外車馬ヲ置クヘカラス

第四十八條 駐車場ノ地盤ハ石、煉化石、敲キ又ハ板ヲ敷キ且馬尿溜ヲ設クヘシ

第四十九條 駐車場ハ日々掃除ヲ爲シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第七章 營業組合

第五十條 馬車營業者ハ管轄廳ノ指定シタル區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ

第五十一條 組合ニ入ラサル者ハ馬車營業ヲ爲スコトヲ得ス

第五類 第二章 警察上取締諸則

第五十二條 各組合ハ組合保證金トシテ管轄廳ニ於テ定ムル金額ヲ管轄廳ニ納ムヘシ但適

宜公債證書(驛遞局貯金預リ帳)國立銀行預リ券ヲ以テ納ムルコトヲ得 二十年四月内務省訓令
第二十八號ヲ以テ括弧
内八字ヲ
刪除ス

第五十三條 管轄廳ニ納メタル組合保證金ハ組合中ノ營業者及馭者馬丁營業上ニ關シ他人

ニ被ラシメタル損害ノ償ヒ等ニ充用スルコトアルヘシ

第五十四條 組合保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ十日以内ニ之ヲ完納スヘシ若シ之ヲ完納

セサルトキハ組合營業ノ効ヲ失フモノトス

第五十五條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十六條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及割賦方ハ規約ヲ以テ定ムル

モノトス

第五十七條 組合ニハ頭取一人ヲ置クヘシ頭取ハ組合營業者中ヨリ之ヲ公選シ管轄廳ノ認

可ヲ受クヘシ

第五十八條 組合頭取ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

- 一 組合保證金ニ關スル事
- 二 營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事
- 三 組合營業者ノ願届ニ加印シ意見アルモノハ其旨ヲ記シ添申スル事
- 四 營業者及馭者馬丁名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スル事

五 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ仕拂フ事

六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事

七 頭取ノ選舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第五十九條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ組合頭取タルコトヲ得ス

一 年齢二十五年以上ニシテ組合區域内ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者

二 營業ニ關スル諸規則ヲ解讀シ筆算ニ通スル者

第六十條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ頭取タルコト

ヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第六十一條 管轄廳ニ於テ組合頭取ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ臨時改選セシムル

コトアルヘシ

營業人力車取締規則標準

第一章 通則

第一條 人力車營業トハ輓子ヲシテ車ヲ輓カシメ營業スルヲ云フ

第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳ニ願出免許證ヲ受クヘシ

第三條 營業者ニ關スル願届ハ總テ取締人ノ加印ヲ要ス

第四條 營業者ハ輓子ノ族籍、住所、氏名、年齢ヲ管轄廳ニ届出一人ニ付鑑札一箇ヲ受クヘ

第五類 第二章 警察上取締規則

第五條 營業者自ラ車ヲ輓クトキハ總テ輓子ノ例ニ從フヘシ

第六條 輓子ノ鑑札ハ毎年一回管轄廳ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ無効タルヘシ

第七條 車體ハ毎年二回管轄廳ノ検査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ其新造、改造、又ハ買受讓受テ爲シタルトキハ定期ニ拘ハラス届出検査ヲ受クヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

一 轉居改氏名其他免許證車體検査證鑑札面ニ異動ヲ生シタル時

二 免許證車體検査證鑑札ヲ遺失、毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時

第九條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出免許證車體検査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

一 廢業又ハ廢車シタル時

二 人力車ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時

三 輓子ヲ解備シ又ハ輓子ノ失踪逃亡若クハ死去シタル時

第十條 免許證車體検査證、鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第十一條 車體検査證ハ車ノ蹴込正面ニ釘付スヘシ

第十二條 検査證アル車ト雖モ第十八條ノ制限ニ適セス又ハ破損若クハ不潔ニ至リタルヲ認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘシ

第十三條 營業者ハ出願ノ際身元保證金トシテ管轄廳ニ於テ定ムル金額ヲ管轄廳ニ納ムヘシ但適宜公債證書(驛遞局貯金預リ帳)國立銀行預リ券ヲ以テ納ムルコトヲ得二十年四月内務省訓令第八號ヲ以テ括弧内ノ八字ヲ删除ス

第十四條 身元保證金ハ廢業又ハ營業禁止若クハ其組合ヨリ除名シタルトキハ之ヲ還付スヘシ

第十五條 管轄廳ニ納メタル身元保證金ハ營業者若クハ其輓子營業上ニ關シ他人ニ被ラシメタル損害ノ償ヒ等ニ充用スルコトアルヘシ

第十六條 身元保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ十日以内ニ完納スヘシ其缺額ヲ納メサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第十七條 營業者ハ検査證鑑札各一箇ニ付管轄廳ニ於テ定ムル手数料ヲ納ムヘキモノトス

第十八條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 一人乗ハ横巾内法二尺未満二人乗ハ二尺以上トス

二 車體ハ無地漆塗、中張ハ革、天鵝絨羅紗等ヲ用フヘキモノトス

三 車體ニ同キ塗色ノ泥除ケヲ備フヘキモノトス

四 車體ノ背面中央ニ方一寸ノ楷字ヲ以テ組名番號ヲ判明ニ記スヘキモノトス

五 ゴム引又ハ桐油製ノ母衣及前掛ヲ備フヘキモノトス

第五類 第二章 警察上取締諸則

六 不潔ナラサル蒲團及膝掛ヲ備フヘキモノトス

七 組名及車體ノ番號ヲ記シタル細長提灯ヲ備ヘ且蠟燭、摺附木ヲ用意スヘキモノトス

第十九條 輓子ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ルヘシ

一 年齡滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者

二 其土地ノ路程ヲ略知スル者

第二十條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜、強姦及幼者ヲ略取誘拐スル罪若クハ過失ニ

アラサル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ輓子トスルヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第二十一條 輓子ハ左ノ制限ニ從ヒ地方毎ニ一定ノ服裝ヲ爲スヘシ

一 着服ハ法被、股引、但雨雪泥濘ノトキハ半股引ヲ用フモ妨ケナシ

二 冠リ物帽子又ハ笠

三 雨具ハゴム引又ハ桐油製

第二十二條 法被冠リ物、雨具ニハ組合及鑑札ノ番號ヲ記スヘシ

第三章 輓子就業制限

第二十三條 輓子ハ鑑札及營業人力車取締規則并賃錢表ヲ所持シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ

見ノコトヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十四條 頰冠リ鉢卷其他不體裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第二十五條 路上ニ彷徨シ又ハ佇立スヘカラス

第二十六條 乘客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他車ニ乗セ替ヘ又ハ濫ニ駐車スヘカラス

第二十七條 駐車場ノ外人力車ヲ置クヘカラス但乘客用辨ノ爲メ往來ノ妨害ト爲ラサル場

所ニ駐車スルハ妨ナシ

第二十八條 乘客ノ指定セサル宿泊店、飲食店及其他ノ場所ニ輓入ヘカラス

第二十九條 制止ヲ肯セスシテ出火場其他群集シタル場所ニ輓入ヘカラス

第三十條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第三十一條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十二條 人力車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 車馬道ノ設ケアル場所ハ左側其設ナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ

二 車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊並砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

三 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ懸ケ聲ヲ爲シ前車ハ左後車ハ右ヲ通

過スヘシ

五 郵便用、消防用ニ供スル車馬及灌水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第三十三條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角、橋上ヲ通過スルトキハ徐行スヘシ且街角ヲ

過クルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第三十四條 二輛以上ノ車ヲ連繫シテ輓クヘカラス

第五類 第二章 警察上取締諸則

第三十五條 夜中燈火ナシテ疾驅スヘカラス

第三十六條 街角、橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十七條 乘客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之アリタルトキハ直ニ還付スヘシ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查交番所派出所ニ届出ヘシ

第四章 車賃

第三十八條 人力車ノ賃錢ハ組合ニ於テ之ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十九條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第四十條 汽車停車場其他群集ノ場所ニ至ラントスルトキハ到着前其賃錢ヲ請求スルヲ得

第四十一條 乘客ニ於テ單ニ行先ヲ示シ其道筋ヲ定メサルトキハ最近ノ路程ニ依リ賃錢ヲ計算スヘシ

第五章 乘載制限

第四十二條 一人乗ニ二人、二人乗ニ三人以上ヲ乘載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第四十三條 左ニ記載シタル者ハ人力車ニ乘載スカラス
一 六種傳染病、疥癬、癩病患者及乞食體ノ者
二 汚穢物其他車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ留ムヘキ物品
三 車體外ニ張出スヘキ長大ノ物品

第六章 駐車場

第四十四條 駐車場ヲ分テ左ノ二種トス

一 公設駐車場(一般營業人ニ於テ駐車スヘキモノヲ云フ)

二 私設駐車場(一人又ハ數人ニテ設立シ其專用ニ屬スルモノヲ云フ)

第四十五條 公設駐車場ハ管轄廳ニ於テ之ヲ定メ標示スヘシ私設駐車場ヲ設クル者ハ管轄廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

第四十六條 客ノ乗用ニ應シ難キ人力車ハ駐車場ニ置クヘカラス

第四十七條 公設駐車場ニ於テハ到着順ヲ以テ整列シ各車ノ間ニ距離ヲ取り出車ニ妨ケナキヲ要ス

第四十八條 公設駐車場ニ在ル人力車ハ整列ノ順序若クハ闕取ヲ以テ出車スヘシ但客ノ特ニ指示シタル場合ハ此限ニアラス

第四十九條 客ヨリ求メアリタルトキハ正當ノ理由ナシテ出車ヲ拒ムヘカラス但暴行者及看護人ナキ瘋癲人ハ此限ニアラス

第五十條 私設駐車場ハ組合取締人ノ烙印ヲ受ケタル標識ヲ設クヘシ

第七章 營業組合

第五十一條 人力車營業者ハ管轄廳ニ於テ指定シタル區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ

第五十二條 組合ニ入ラサル者ハ人力車營業ヲ爲スコトヲ得ス

第五類 第二章 警察上取締諸則

第五十三條 組合ニハ取締人一人ヲ置クヘシ取締人ハ組合營業者中ヨリ公撰シ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十四條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十五條 取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

- 一 人力車營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事
- 二 私設駐車場ノ標識ニ烙印スル事
- 三 組合營業者ノ願届ニ加印シ意見アルモノハ其旨ヲ記シ添申スル事
- 四 營業者名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スル事
- 五 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ仕拂フ事
- 六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事
- 七 取締人ノ撰舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項
第五十六條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及割賦方ハ規約ヲ以テ定ムルモノトス

第五十七條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ取締人タルコトヲ得ス

- 一 年齢二十五年以上ニシテ組合區域内ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者
- 二 組合營業者ニシテ人力車十輛以上ヲ所有スル者

三 營業上ニ關スル諸規則類ヲ解讀シ算筆ニ通スル者

第五十八條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜及詐僞取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ取締人タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第五十九條 管轄廳ニ於テ取締人ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ任期中ト雖モ臨時改選セシムルコトアルヘシ

宿屋取締規則標準

第一章 通則

第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス

第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物坪數及間取ヲ記シタル明細圖面ヲ以テ管轄廳ニ願出允許ヲ請フヘシ其間取坪數ヲ變更増減シタルトキハ圖面ヲ以テ届出認可ヲ受クヘシ

第三條 左ノ各項ニ觸ル者ハ允許ヲ與ヘス

- 一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者
- 二 白痴瘋癲者
- 三 強竊盜及詐僞取財ノ罪ヲ犯シタル者又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者
- 四 風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認メタル者

第四條 改氏名又ハ廢業シタルトキハ其旨管轄廳ニ届出ヘシ

第五類 第二章 警察上取締諸則

第五條 宿屋營業者ハ看板ヲ店頭ニ掲ケ旅人宿木賃宿ハ夜中標燈ヲ以テ之ニ代フヘシ
 第六條 宿引ヲ出シ客ヲ誘引スヘカラス
 第七條 宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄託ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ
 第八條 宿泊人ノ承諾ナシシテ來訪者其他ノ者ヲ濫ニ其室内ニ入ラシムヘカラス
 第九條 宿泊人疾病ニ罹ルトキハ醫藥食物等其求メニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘシ
 第十條 宿泊人變死ニ係リ又ハ其所有品紛失シタルトキハ即時所轄警察署分署又ハ巡查交番所派出所若クハ巡行ノ巡查ニ届出ヘシ
 第十一條 宿泊料ノ抵償トシテ私擅ニ宿泊人ノ所有品ヲ押收又ハ受領スヘカラス
 第十二條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ宿泊料外ノ金錢ヲ得ル目的ヲ以テ客ノ求メナキ飲食物ヲ供スヘカラス
 第十三條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場及客室ニ揭示スヘシ
 第二章 旅人宿
 第十四條 旅人宿ハ客室二十五坪以上アル家屋ニ於テ營業スル者ニ限ルヘシ
 第十五條 客室ハ充分ニ光線ヲ取り且空氣ヲ流通セシムヘシ
 第十六條 客室毎ニ堅固ナル錠前附ノ押入又ハ戸柵ヲ設クヘシ
 第十七條 二階以上ノ客室十五坪以上アルモノハ階子二箇以上ヲ設クヘシ但階子ノ幅ハ四尺以上ナルヘシ

第十八條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ尿尿ヲ受容スヘキ部分ハ石、敲キ、陶器等ヲ以テ構造スヘシ
 但構結上特ニ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス
 第十九條 便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ
 第二十條 客室ハ旅客一名ニ付一坪半ヲ下ルヘカラス
 但同行者ハ此限ニアラス
 第二十一條 客室ノ番號並定員ハ客室ノ出入口ニ揭示スヘシ
 第二十二條 正當ノ理由ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絕スヘカラス
 第二十三條 營業者ハ左ノ書式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ調製シ宿泊人發着毎ニ原簿ニ記入シ且甲乙書式ニ從ヒ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
 宿泊人名簿書式 用紙寸法適宜

番號	氏名	年齢	職業	族籍	住所	相貌ノ特徴 其他事故	前夜宿 泊所	行先地	到着月 日時刻	出發月 日時刻

(甲號)

明治何年 何月何日	投宿届	氏名	族籍	住所	年齢	職業	前夜宿泊所	行先地	投宿日時	相貌特徴其他事故

何府縣何町村番地族籍
屋號 何某 印

(乙號)

明治何年 何月何日	出發届	何府縣何町村番地族籍 屋號 何某 印
--------------	-----	-----------------------

氏名	投宿番號	出發日時

第三章 下宿屋

第二十四條 下宿屋トハ一箇月ノ賄料、座敷料等ヲ約定シテ寄寓セシムルモノヲ云フ

第二十五條 下宿屋ハ客室十坪以上アル家屋ニ於テ營業スルモノニ限ルヘシ

第二十六條 下宿屋營業者ハ下宿人投宿後二十四時間内ニ其下宿人ト連署ノ上、下宿人ノ

族籍住所氏名年齢并下宿ノ事由ヲ記シタル届書ニ通テ所轄警察署又ハ分署ニ差出シ一通ニ其檢印ヲ受ケ所持スヘシ

第二十七條 第十六條第十七條第十八條第十九條ハ下宿屋ニ付テモ亦之ニ適用ス

第二十八條 下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲出スヘシ

第二十九條 下宿人他へ轉宿シ又ハ五日以上外泊シテ其所在ノ不分明ナルトキハ其旨所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第四章 木賃宿

第三十條 木賃宿營業ハ場所ヲ定メ許可スヘキモノトス

第三十一條 宿泊人滯在中外泊シタル者アルトキハ其旨ヲ帳簿ニ記シ置クヘシ

第五類 第二章 警察上取締諸則

第三十二條 宿泊人届出方ハ第二十三條ノ例ニ從フヘシ

第三章 禁令

第八十九 富興行ヲ禁ス 明治元年十二月二十三日 布告

富興行ノ儀ハ乘而御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ或ハ社寺再建等ニ托シ興行致候向モ有之趣元來洩季之弊風僥倖之利ヲ以民心ヲ誘惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ惰リ往々之カ爲ニ家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞ヘ以ノ外ノ事ニ候斯御一新ノ折柄右様之所業殊ニ御趣意ニ相戾リ候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事

〔一〕富籤賣買ノ牙保幫助者及富籤購買者處分法 明治十五年五月廿四日 布告第二十五號

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス

- 第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトテ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ譲リ受ケタル者亦同シ

刑法第二百六十二條參看

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

右奉 勅旨布告候事

第九十 帶刀禁止及違犯者處分方 明治九年三月二十八日 布告第三十八號

自今大禮服着用並ニ軍人及ヒ警察官吏等制規アル服着用ノ節ヲ除クノ外帶刀被禁候條此旨布告候事

但違犯ノ者ハ其刀可取上事

〔一〕官國幣ノ諸神社神與渡御ノ節供奉ノ者帶刀差許方 明治九年七月二十日 敎部省達達書申第五號神宮並官國幣社神官諸神社神與渡御ノ節供奉ノ者共從前申又ハ大紋紫袍等着用ニテ帶刀致シ來候向ハ供奉中ニ限リ一社ノ古例ニ任セ帶

第五類 第三章 禁令

刀不苦候尤_レ其都度其筋へ届出候儀ト可心得此旨相違候事
違書第二十四號

府 縣

別紙甲第五號之通神宮並官國幣社神官へ相違候條此旨爲心得相違候事
（二）府縣社以下古代ノ裝飾ニ摸倣シ神輿供奉ノ舊例アル向供奉中帶刀差許方 明治十一年三月四日

内務省違乙第
貳拾壹號府縣

諸神社神輿渡御之節供奉之者帶刀之儀ニ付明治九年七月舊教部省甲第五號ヲ以神宮並官國幣社へ相違候條越候處右ハ府縣社以下モ同様專ラ古代之裝飾ニ摸倣シ神輿ニ供奉致來候舊例有之向ハ其人員ノミ供奉中ニ限リ帶刀不苦尤其都度其筋へ可爲届出儀ト可心得此旨相違候事
但普通祭服着用之者帶刀不相成儀ハ勿論タルヘシ

第九十一 賭博犯處分規則 明治十七年一月四日 布告第一號

賭博犯ノ儀ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ヘ凡當分ノ内行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ヲノ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行ハシム
右奉 勅旨布告候事
賭博犯處分規則
第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上貳百圓以下ノ過料ニ處ス
人家屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲シ其他總テ幫助ヲ爲シタル者亦同シ

博徒ニシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭場ヲ開張シ又ハ兇器ヲ携帶シ又ハ四隣ニ横行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲罰及ヒ五拾圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ前項ニ依テ處分ス

第二條 賭具及ヒ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒入ス

第三條 賭博犯ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリトモ之ニ立入ルコトヲ得但警察官巡查ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第四條 此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府縣令ニ於テ便宜之ヲ定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルコトヲ得

伺指令

●賭博犯ニ關スル偽證者處分方ノ伺指令 明治十七年一月十七日 新潟縣(電報)伺

賭博犯ニ關スル證人偽證及ヒ誣告者ハ無論刑法ニ依リ處分相成儀ト心得可然哉

司法省指令 明治十七年一月十五日

本月十一日附電報伺ノ趣ハ刑法ニ依ルノ限ニアラス

●規則發布以前ノ賭博犯者ヲ處分セシトキ取扱方伺指令 明治十七年二月十三日 秋田縣(電報)伺

本年第一號公布頒布前ノ賭博犯ヲ該公布ニ依リ懲罰ニ處シタル時ハ其執行ヲ終リタルト否トニ拘ハラヌ更ニ裁判所へ交付ス可キヤ

司法省(電報)指令 明治十七年三月十九日

客月十三日付賭博處分ノ儀ニ付伺ノ趣ハ其科シタル懲罰過料ノ刑法ノ刑期金額内ニ在ルモノハ裁判所へ送付ス

第五類 第三章 禁令

ルニ及ハスト雖モ其刑期金額ヲ超過スルモノハ更ニ裁判所へ送付ス可シ

●犯時軍屬ニシテ捕獲ノ時平人ナル者處分方ノ伺指令 明治十七年十一月二十八日 神奈川縣(電報)伺

軍屬ニシテ賭博事件取調中免職セラレタル者アリ其犯ストキ軍屬ナルモ既ニ之ヲ脱シタル上ハ常人ト同シク處分可然哉

海軍省(電報)指令 明治十七年一月二十九日

二十八日附伺賭博犯處分ノ儀ハ伺ノ通

●賭博犯過料不納者身代限印紙費支辨方ノ伺指令 明治十九年二月十二日 鹿兒島縣伺

賭博犯過料不納者身代限印紙費ハ何費目ヨリ出スカ人民ノ訴訟ト異ナルニ付無印紙ニテヨキヤ

内務省指令 明治十九年二月二十五日

賭博犯過料不納者身代限印紙費ハ地方警察署ヨリ支辨スヘシ但シ印紙規則第五條ニ據リ貼用スルモノトス

第九十二 年期奉公等種々ノ名目ヲ以テ其實賣買同様ノ所業ヲ禁ス

明治五年十月二日 布告第二百九十五號

- 一人身ヲ賣買致シ終身又ハ年期ヲ限リ其主人ノ存意ニ任セ虐使致シ候ハ人倫ニ背キ有マシキ事ニ付古來制禁ノ處從來年期奉公等種々ノ名目ヲ以テ奉公住爲致其實賣買同様ノ所業ニ至リ以ノ外ノ事ニ付自今可爲嚴禁事
- 一農工商ノ諸業習熟ノ爲メ弟子奉公爲致候儀ハ勝手ニ候得共年限滿七年ニ過ク可カラサル

事

但雙方和談ヲ以テ更ニ期ヲ延ルハ勝手タルヘキ事

一平常ノ奉公人ハ一ケ年宛タルヘシ尤モ奉公取續候者ハ證文可相改事

一娼妓藝妓等年季奉公人一切解放可致右ニ付テノ貸借訴訟總テ不取上候事

右之通被定候條屹度可相守事

(一)人身ヲ書入トシテ金錢ヲ貸借スルヲ禁ス 明治八年八月十四日 布告第二百二十八號

金錢貸借ニ付引當物ト致候ハ賣買又ハ讓渡ニ可相成物件ニ限リ候ハ勿論ニ候處地方ニ寄

リ間ニハ人身ヲ書入致候者モ有之哉ノ趣右ハ嚴禁ニ候條此旨布告候事

但期限ヲ定メ工作使役等ノ勞力ヲ以テ負債ヲ償フハ此限ニアラス

(二)金談上養女ノ名目ヲ爲シ娼妓藝妓ノ所業ヲ爲サシムルヲ禁ス 明治五年十月九日 司法省布達第貳拾貳號

本月二日太政官第二百九十五號ニ而被仰出候次第ニ付左ノ件々可心得事

一人身ヲ賣買スルハ古來ノ制禁ノ處年季奉公等種々ノ名目ヲ以テ其實賣買同様ノ所業ニ至ルニ付娼妓藝妓等雇入ノ資

本金ハ賍金ト看做ス故ニ右ヨリ苦情ヲ唱フル者ハ取糺ノ上其金ノ全額ヲ可取揚事

一同上ノ娼妓藝妓ハ人身ノ權利ヲ失フ者ニテ牛馬ニ異ナラス人ヨリ牛馬ニ物ノ返辨ヲ求ムルノ理ナシ故ニ從來同上ノ

娼妓藝妓へ借ス所ノ金銀並ニ賣掛滯金等ハ一切償ルヘカラサル事

但本月二日以來ノ分ハ此限ニアラス

一人ノ子女ヲ金談上ヨリ養女ノ名目ニ爲シ娼妓藝妓ノ所業ヲナサシムルモノハ其實際上則人身賣買ニ付從前今後可及

嚴重ノ處置事

第五類 第三章 禁令

●幼兒ヲ外人ニ賣渡制禁沿革要領

明治三年八月三日布告ヲ以テ各港在留ノ支那人共竊ニ童男女ヲ買取リ海外へ運越奸計相企ツル者アルニ付地方官ニ於テ屹度取締可相立旨ヲ令ス○五年二月第五拾五號布告ヲ以テ更ニ幼兒ヲ外人ニ賣渡ヲ禁止ス

第九十三 幼兒ヲ外國人ニ賣渡ヲ禁ス

明治五年二月二十五日 布告第五十五號

各港在留ノ支那人共我窮民ノ幼兒ヲ買取候儀ニ付テハ去ル庚午八月中相達候得共未ダ右様ノ所業致候者モ有之哉ノ趣キ畢竟内國人ヨリ賣渡シ候故支那人ニ於テモ買取本國へ運行販賣スルニ至候次第ニテ御國禁ヲ犯シ不容易儀ニ付向後右等不心得ノ者於有之ハ嚴重處置ニ可及候間地方官ニ於テ管内取締厚ク可加教育候事

第九十四 禁裡御用等ノ會符標札及菊御紋ヲ畫キタル提灯器物等ヲ

禁ス 明治元年三月二十八日 布告

一禁裡御用或ハ禁裡御料又ハ禁裡御内杯ト會符榜示杭標札等ニ書記シ候儀ハ有之間布事ニ候處往々見受候ニ付以來屹度相改御用御料ト而已書記致シ候様被仰出候事
但標札ハ姓名相記シ又ハ官名役名等記シ候儀不苦候事
一提燈又ハ陶器其外賣物等ニ御紋ヲ畫キ候事共如何之儀ニ候以來右之類御紋ヲ私ニ附候事

急度可禁止旨被仰出候事

但御用ニ付是迄被免之分モ一應伺出可申事

右之通被仰出候條未々迄不洩様可申違事

〔一〕由緒有之社寺之外菊御紋ヲ用ユルヲ禁ス

明治二年八月二十五日 布告

社寺ニテ是迄菊御紋用ヒ來ル者不少候處今般御改正相成社者伊勢八幡上下加茂等寺ハ泉涌寺般舟院等之外ハ一切被差止候旨被仰出候事

但格別由緒有之社寺ハ由緒書ヲ以テ可窺出候事

〔二〕由緒ノ有無ニ拘ハラヌ菊御紋ヲ禁ス

明治四年六月十七日 布告

菊御紋禁止ノ儀ハ兼テ御布告有之候處猶又向後由緒ノ有無ニ不關皇族ノ外總テ被禁止候尤御紋ニ紛敷品相用候儀モ同様不相成候條相改可申事

但從來諸社ノ社頭ニ於テ持來候分ハ地方官ニ於テ取調可申出候事

〔三〕官幣社々殿ノ裝飾及社頭ノ幕提灯ニ限リ菊御紋ヲ用フルコトヲ許ス

明治七年四月二日 太政官達(開拓使)京都府大坂府兵庫外十四縣

社寺ニテ菊御紋相用候儀禁止ノ旨明治二年己巳八月布告候處自今官幣社々殿ノ裝飾及社頭之幕提灯ニ限リ菊御紋相用不苦候條此旨管内官幣社々可相達事

〔四〕國幣社々殿ノ裝飾幕提燈ニ限リ菊御紋ヲ用フルコトヲ許ス

明治十二年四月二十二日 太政官達(第貳拾號)國幣社所在使府縣社寺ニテ菊御紋相用候儀ニ付明治二年八月布告ノ趣モ有之候處自今國幣社々殿ノ裝飾及社頭ノ幕提燈ニ限リ菊御紋相用